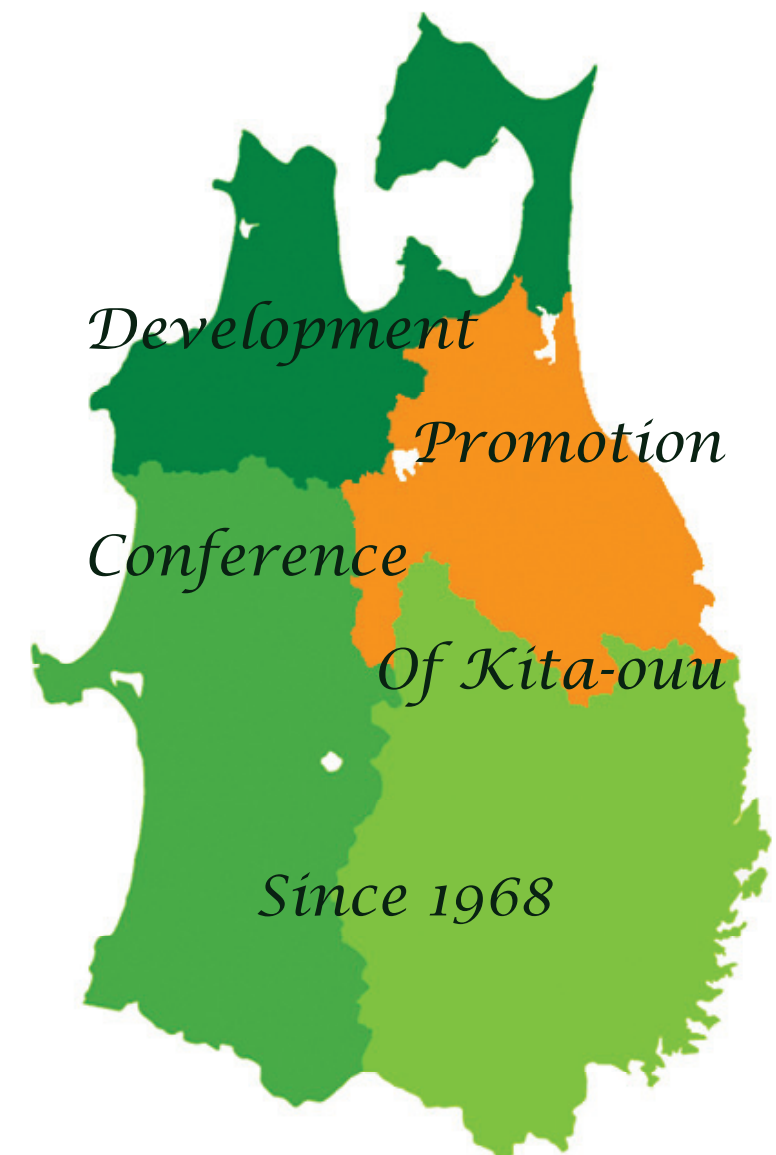


北奥羽開発促進協議会 事務局

(八戸市 総合政策部 政策推進課)  
〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1-1  
ホームページ: <http://www.kita-ouu.jp/>  
TEL: 0178-43-2111 FAX: 0178-47-1485  
E-mail: [seisaku@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:seisaku@city.hachinohe.aomori.jp)

北奥羽開発促進協議会

# 50年の歩み



平成30年6月

## 目次

- 発刊にあたって(会長挨拶) . . . . . P 1
- 構成市町村の紹介 . . . . . P 4～53
  - 八戸市 . . . . . P 6
  - おいらせ町 . . . . . P 8
  - 五戸町 . . . . . P 10
  - 階上町 . . . . . P 12
  - 三戸町 . . . . . P 14
  - 田子町 . . . . . P 16
  - 南部町 . . . . . P 18
  - 新郷村 . . . . . P 20
  - 十和田市 . . . . . P 22
  - 三沢市 . . . . . P 24
  - 七戸町 . . . . . P 26
  - 六戸町 . . . . . P 28
  - 東北町 . . . . . P 30
  - 久慈市 . . . . . P 32
  - 洋野町 . . . . . P 34
  - 普代村 . . . . . P 36
  - 野田村 . . . . . P 38
  - 二戸市 . . . . . P 40
  - 一戸町 . . . . . P 42
  - 葛巻町 . . . . . P 44
  - 軽米町 . . . . . P 46
  - 九戸村 . . . . . P 48
  - 鹿角市 . . . . . P 50
  - 小坂町 . . . . . P 52
- 50年の活動史 . . . . . P 56～76
- 協議会規約等 . . . . . P 78～80

## 発刊にあたって(会長挨拶)

北奥羽開発促進協議会は、昭和39年の八戸地区新産業都市指定を機に、相互協力による開発を進めるための新しい組織をつくろうという周辺市町村の要望の高まりを受けて、昭和24年9月に設立された北奥羽経済建設協議会(昭和26年に「北奥羽開発協議会」と改称)の精神を受け継ぎ、昭和43年3月4日に設立されました。



北奥羽地域は、北東北3県にまたがる旧南部藩の地域であり、また、古くから「やませ」の影響により冷害、凶作を繰り返し、食糧の確保もままならないという厳しい自然環境にさらされた地域でもありました。

そのような自然環境の中で培ってきた、地域一体となって共通の課題に取り組むというこれまでの歴史的背景を踏まえ、行政区域を越えて地域の発展のために手を携えていこうという趣旨の下に当協議会は設立されたものであり、正に広域連携の先駆けであるといえます。

設立時は、青森県八戸市、三戸郡及び岩手県北の23市町村で発足しましたが、その後の加入や平成の大合併などを経て、現在は、青森県南、岩手県北及び秋田県北東の北東北3県にまたがる24市町村で構成されており、構成市町村全体では、面積約6,461km<sup>2</sup>、人口約63万人を擁する歴史ある広域連携となっております。

北奥羽開発促進協議会のこれまでの50年は、会員各位の努力と関係各位に支えられて、東北縦貫自動車道や東北新幹線盛岡以北の建設など地域開発に多くの成果を上げております。

しかしながら、東日本大震災などの自然災害からの復興、少子高齢化に伴う人口減少問題への対応、地域間医療格差の解消など、50年前の設立当時には予想だにできなかったであろう時代の潮流の中で、地域の特性を活かしたまちづくりを進めていくためには、今後一層の広域交通網や生活・産業・医療基盤の整備・充実などが必要であり、住民生活を支える産業の振興や住民の幸福を実現する文化・保健・福祉の充実など、多様な生活機能の充実が求められています。

地方創生を成し遂げ、新しい時代に対応するため、そして、豊かで活力のある北奥羽地域の実現を目指すためには、私たち構成市町村が今後一層の相互の連携と協調を深め、山積する課題に積極的に取り組んでいかなければならないと考えております。

この度、当協議会の50周年の足跡を末永く後世に伝えるとともに、新しい時代に向けた新たな出発点とするため、「北奥羽開発促進協議会 50年の歩み」を刊行いたしましたので、広く関係各位に御高覧いただければ幸いに存じます。また、これからも皆様と共に今後の北奥羽地域のまちづくりに貢献して参りたいと思っておりますので、今後とも御支援と御協力を賜りますようお願いいたします。

最後に、発刊にあたり御協力をいただきました関係各位に、心より御礼を申し上げます。

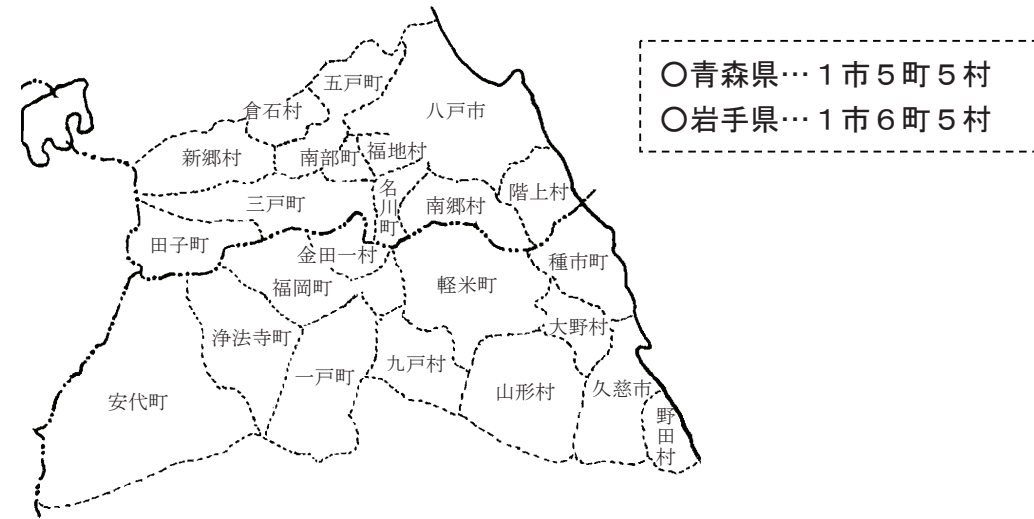
平成30年6月

北奥羽開発促進協議会  
会長 八戸市長 小林 眞

## 構成市町村の紹介

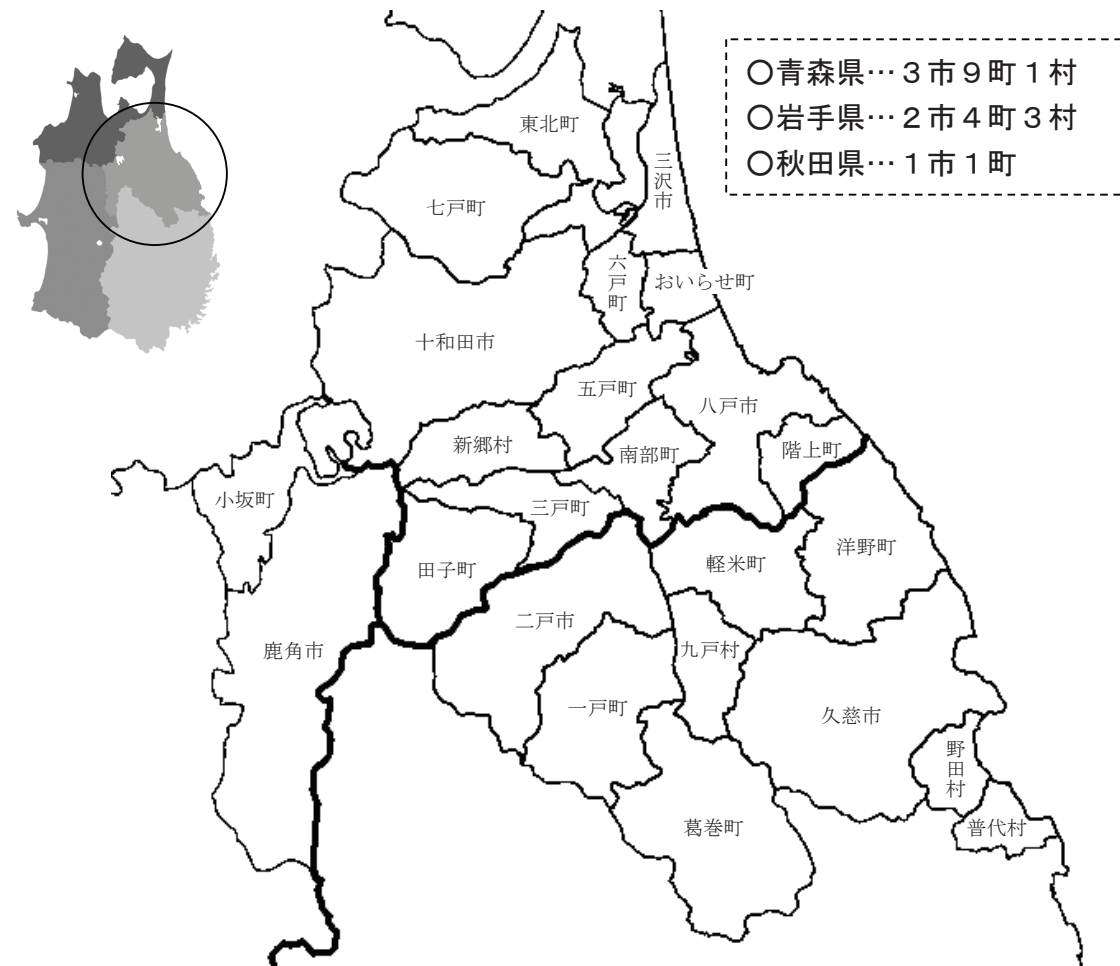
## 設立時の構成市町村(23市町村)

2市11町10村



## 現在の構成市町村(24市町村)

6市14町4村



※ 加入脱退 及び 市町村合併の経過については、「50年の活動史」(P56~76)を御参照ください。

## 現在の構成市町村一覧

※ 6ページからが構成市町村ごとの紹介です

支部	市町村 (紹介ページ)	所在地	電話番号	FAX番号	担当課
八戸	八戸市 (P6)	青森県八戸市内丸一丁目1-1	0178-43-2111	0178-47-1485	政策推進課
	おいらせ町 (P8)	青森県上北郡おいらせ町中下田135-2	0178-56-2111	0178-56-4364	企画財政課
	五戸町 (P10)	青森県三戸郡五戸町字古館21-1	0178-62-2111	0178-62-6317	総合政策課
	階上町 (P12)	青森県三戸郡階上町大字道仏字天当平1-87	0178-88-2111	0178-88-2117	総合政策課
三戸	三戸町 (P14)	青森県三戸郡三戸町大字在府小路町43	0179-20-1111	0179-20-1102	まちづくり推進課
	田子町 (P16)	青森県三戸郡田子町大字田子字天神堂平81	0179-20-3111	0179-32-4294	政策推進課
	南部町 (P18)	青森県三戸郡南部町大字苫米地字下宿23-1	0178-84-2111	0178-84-4404	企画財政課
	新郷村 (P20)	青森県三戸郡新郷村大字戸来字風呂前10	0178-78-2111	0178-78-2118	総務課
十和田	十和田市 (P22)	青森県十和田市西十二番町6-1	0176-23-5111	0176-24-9616	政策財政課
	三沢市 (P24)	青森県三沢市桜町一丁目1-38	0176-53-5111	0176-52-5656	政策調整課
	七戸町 (P26)	青森県上北郡七戸町字森ノ上131-4	0176-68-2111	0176-68-2804	企画調整課
	六戸町 (P28)	青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字前谷地60	0176-55-3111	0176-55-3112	企画財政課
	東北町 (P30)	青森県上北郡東北町上北南四丁目32-484	0176-56-3111	0176-56-3110	企画課
久慈	久慈市 (P32)	岩手県久慈市川崎町1-1	0194-52-2111	0194-52-3653	政策推進課
	洋野町 (P34)	岩手県九戸郡洋野町種市23-27	0194-65-2111	0194-65-4334	企画課
	普代村 (P36)	岩手県下閉伊郡普代村第9地割字銅屋13-2	0194-35-2111	0194-35-3017	政策推進室
	野田村 (P38)	岩手県九戸郡野田村大字野田20-14	0194-78-2111	0194-78-3995	総務課
二戸	二戸市 (P40)	岩手県二戸市福岡字川又47	0195-23-3111	0195-25-5160	政策推進課
	一戸町 (P42)	岩手県二戸郡一戸町高善寺字大川鉢24-9	0195-33-2111	0195-33-3770	まちづくり課
	葛巻町 (P44)	岩手県岩手郡葛巻町葛巻16-1-1	0195-66-2111	0195-66-2101	総務企画課
	軽米町 (P46)	岩手県九戸郡軽米町大字軽米10-85	0195-46-2111	0195-46-2335	総務課
	九戸村 (P48)	岩手県九戸郡九戸村大字伊保内10-11-6	0195-42-2111	0195-41-1005	総務企画課
鹿角	鹿角市 (P50)	秋田県鹿角市花輪字荒田4-1	0186-30-0203	0186-30-1122	政策企画課
	小坂町 (P52)	秋田県鹿角郡小坂町小坂字上谷地41-1	0186-29-3901	0186-29-5481	総務課



●概況（歴史・基幹産業など）

八戸市は昭和4年5月1日に、八戸町、小中野町、湊町、鮫村の近隣3町1村が合併し、人口約5万人で市制が施行されました。その後、平成17年3月31日には旧南郷村と合併し、現在は人口約23万人の都市となっています。また、平成29年1月には中核市に移行し、同年3月には、八戸市を中心とした8市町村（八戸市・おいらせ町・五戸町・階上町・三戸町・田子町・南部町・新郷村 ※本誌掲載順）で「八戸圏域連携中枢都市圏」（愛称：八戸都市圏スクラム8（エイト））を形成し「地域の個性が輝き 自立した 八戸圏域」を目指して圏域を牽引するなど、「北東北の雄」として北奥羽地域の発展のために尽力しております。



館鼻岸壁朝市

昭和14年の商港開港、昭和26年の重要港湾指定、昭和39年の新産業都市指定などを経て、八戸市の臨海部には大規模な漁港、商港、工業港が整備され、背後に工業地帯が形成されるなど、優れた漁港施設や関連施設を有する全国屈指の水産都市、東北有数の港湾物流都市、北東北随一の工業都市となっています。

一方、是川縄文遺跡から出土した「合掌土偶」（国宝）、「金装獅噛三累環頭大刀柄頭」などの丹後平古墳群から出土品（国指定重要文化財）、南北朝時代の史跡「根城」、櫛引八幡宮の「赤糸威鎧兜・大袖付」「白糸威棲取鎧兜・大袖付」（共に国宝）などの文化遺産を有する歴史のある都市でもあります。

また近年は、全国最大規模の朝市である「館鼻岸壁朝市」、全国でも珍しい市営書店の「八戸ブックセンター」、「八戸ポータルミュージアム はっち」や「南郷アートプロジェクト」による文化活動、「南郷サマージャズフェスティバル」なども全国的に注目を集めています。

今後も、スピードスケートの国際大会に対応可能な国内3番目の屋内施設である「(仮称)八戸市屋内スケート場」や、アート・エデュケーション・ファームという新しい形のコンセプトに基づいた「(仮称)八戸市新美術館」の完成などが控えており、「ひと・産業・文化が輝く 北の創造都市」として成長し続けています。

今後、スピードスケートの国際大会に対応可能な国内3番目の屋内施設である「(仮称)八戸市屋内スケート場」や、アート・エデュケーション・ファームという新しい形のコンセプトに基づいた「(仮称)八戸市新美術館」の完成などが控えており、「ひと・産業・文化が輝く 北の創造都市」として成長し続けています。

●観光・物産紹介

○三陸復興国立公園「種差海岸」

「種差海岸」は、白砂青松・奇岩怪石が交互に織りなす風光明媚な海岸、波打ち際まで広がる種差天然芝生地、花の渚と呼ばれる中須賀などの絶景を有し、平成25年5月には三陸復興国立公園に指定されています。この海岸には、ここを北限・南限とする植物が多く自生し、春から秋にかけては約700種とも言われる海浜植物が咲き乱れる貴重な植物群の宝庫でもあります。この美しい海岸を散策する場として、種差キャンプ場から葦毛崎展望台まで約5.2kmの遊歩道が設置されています。また、海水浴場やキャンプ場、磯釣り場などを擁するひと味違う景勝地であり、行楽地です。

○国天然記念物うみねこ繁殖地「蕪島」

うみねこの繁殖地として国の天然記念物に指定されている蕪島には、毎年数万羽のうみねこが飛来し、雛をかえします。黄色い蕪の花と白いうみねこのコントラストは目を引くものがあり、数万羽のうみねこの乱舞は必見です。

○代表的な祭り

八戸三社大祭（7/31～8/4）…ユネスコ無形文化遺産  
八戸えんぶり（2/17～2/20）…国の重要無形民俗文化財

○特産品

水産加工品・珍味、商部せんべい、八戸せんべい汁、南郷そば、ブルーベリー、鶴子まんじゅう、八幡馬 など

●地勢データ

八戸市は、青森県の南東部に位置し、太平洋に面しており、北はおいらせ町・五戸町、西は南部町、南は階上町及び岩手県軽米町に接する、面積305.56km<sup>2</sup>、人口約23万人の中核市です。北国にありながら1年を通じて気候が比較的穏やかで、とりわけ積雪量が少なく、日照時間が長いことが大きな特徴です。地形は、なだらかな台地に固まれた平野が太平洋に向かって広がっています。その平野を三分する形で、共に岩手県を源とする一級河川馬淵川、二級河川新井田川の2本の川が流れ、これらの河口を中心にした海岸地帯には漁港、商港、工業港が整備されています。

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別人口				総世帯数 (戸)	
			15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳		
現在	305.56 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	231,257 <small>(H27年国勢調査)</small>	28,122	136,712	63,614	2,809	93,750 <small>(H27年国勢調査)</small>	
50年前	旧八戸市	213.23 <small>(S43.3.31現在)</small>	189,387 <small>(S40年国勢調査)</small>	58,038	124,381	6,968	-	44,346 <small>(S40年国勢調査)</small>
	旧南郷村	91.02 <small>(S43.3.31現在)</small>	9,215 <small>(S40年国勢調査)</small>	3,468	5,169	578	-	1,646 <small>(S40年国勢調査)</small>
	計	304.25	198,602	61,506	129,550	7,546	-	45,992

	就業人口 (人)	産業別就業人口				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)	
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業			
現在	108,032 <small>(H27年国勢調査)</small>	3,625	24,286	77,656	2,465	8,642,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	483,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>	
50年前	旧八戸市	83,043 <small>(S40年国勢調査)</small>	19,194	21,373	42,449	-	243,000 <small>(S43年生産農業所得)</small>	144,764 <small>(S43年生産林業所得)</small>
	旧南郷村	4,428 <small>(S40年国勢調査)</small>	3,560	296	576	-	589,375 <small>(S43年生産農業所得)</small>	238,160 <small>(S43年生産林業所得)</small>
	計	87,471	22,754	21,669	43,025	-	832,375	382,924

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)	うちその他収入額	財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
現在	18,248,698 <small>H29年漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	705,985,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	512,700,560 <small>(H28年経済センサス)</small>	27,617,850	94,500,000 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.660 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,515 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	旧八戸市	15,041,305 <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	89,542,930 <small>(S43年商業統計調査)</small>	70,328,940 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	4,096,871 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.660 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	旧南郷村	-	54,254 <small>(S43年商業統計調査)</small>	11,897 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	219,093 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.140 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	計	15,041,305	89,597,184	70,340,837	-	4,315,964	-



# おいらせ町

昭和47年 加入

●町の花鳥木

桜・白鳥・いちよう

●庁舎所在地・TEL

〒039-2192

青森県上北郡おいらせ町中下田135-2

TEL 0178-56-2111

## ●概況（歴史・基幹産業など）

おいらせ町は、平成18年3月1日に百石町と下田町が合併して誕生した町です。明治17年には百石村と下田村が連合し「百石村外ヶ村」となったものの、明治22年の町村制施行により下田村が独立し別々の村となって以来115年という時を経て再び一つの町となりました。行政面積は71.96km<sup>2</sup>と小さいながらも、青森県内の町村で最も人口が多く、定住人口も増加しています。



いちよう公園

八戸市・十和田市・三沢市の3市に囲まれていることもあり、仕事、買い物、医療、交通や観光など生活に必要なものが比較的容易に手に入る利便性に富んだ町です。

農業は水稻・野菜・畜産、水産業はサケ・ホッキ貝が主力となっています。工業では百石工業団地を始め誘致企業も多く、商業では郊外型の大規模なショッピングモールの他、幹線道路沿線に商業施設が集積されており、商工業の振興による雇用の場を創出しています。

## ●観光・物産紹介

### ○日本一の自由の女神像

町がニューヨークとほぼ同緯度ということで、北緯40度40分の「4」にこだわり、本家の4分の1のサイズで建立。夜間は鮮やかにライトアップされファンタジックな世界を見せてくれます。

### ○長寿日本一の根岸の大いちよう

樹齢1,100年以上ともいわれる大いちようは、幹の周囲が16m、高さ32mもあり、乳母の守り神として信仰されています。

### ○日本一のおいらせ鮭まつり

奥入瀬川の河川敷で行われる町最大のイベントです。特設イクスで元気に水しぶきを上げて泳ぎ回る鮭のつかみ取りが体験できるダイナミックなイベントです。

### ○秋まつり

9月中旬から3週続けて開催される山車まつり。1週目の百石まつりは、五穀豊穡と大漁を祝う祭りとして明治13年から続いています。2週目の下田まつりは、人間が人形に扮する「生き人形」が特徴的なユニークな祭りです。3週目は「百石まつり」と「下田まつり」の二つの祭りの山車が、イオンモール下田に集合する山車合同夜間運行です。ライトに照らされた山車や晩秋の夜空に打ち上げられる花火は圧巻です。

## 奥入瀬川の恵みと笑顔あふれるまち



### ○全国将棋祭り

全国規模の将棋大会を祭りにしました。一流のプロ棋士たちの熱戦を肌で感じることができます。また、小学生が将棋の駒に扮して行われる「子ども人間将棋」や、プロ棋士との腕試しなどのイベントも盛りだくさんです。

### ○特産品

農水産物では「おっぱいメロン」「いちご」「ながいも・だるま芋」「アピオス」「ホッキ貝」、お菓子・スイーツでは「大いちようものがたり」「十三森山」「百石栗」「純粋はちみつ」、清酒・加工品では、「清酒桃川」「できるだし」「川越せんべい」、工芸品では「奥入瀬焼」があります。

## ●地勢データ

青森県の東南部に位置し、県都・青森市から80～90km圏にあり、北には三沢市、西には六戸町、南には八戸市と五戸町が隣接しています。西から東の太平洋に向かって傾斜した台地からなり、その台地の南を町名の由来となっている奥入瀬川が流れ、太平洋に注いでいます。夏には偏東風（ヤマセ）と呼ばれる太平洋からの冷たい風が吹き、冬は気温は低いものの、雪が少ない地域となっています。

## ●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)
			15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳	
現在	71.96 <small>(国土地理院公表値、H29.10.1現在)</small>	24,222 <small>(H27年国勢調査)</small>	3,438	14,755	5,984	45	8,658 <small>(H27年国勢調査)</small>
50年前	旧百石町	21.60 <small>(S43.3.31現在)</small>	9,315 <small>(S40年国勢調査)</small>	3,133	5,699	483	1,876 <small>(S40年国勢調査)</small>
	旧下田村	49.38 <small>(S43.3.31現在)</small>	7,654 <small>(S40年国勢調査)</small>	2,657	4,674	323	1,483 <small>(S40年国勢調査)</small>
	計	70.98	16,969	5,790	10,373	806	3,359

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	12,060 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,119	3,387	7,204	350	4,267,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	17,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	旧百石町	4,697 <small>(S40年国勢調査)</small>	2,826	709	1,162	735,554 <small>(S43年生産農業所得)</small>	40,569 <small>(S43年生産林業所得)</small>
	旧下田村	3,602 <small>(S40年国勢調査)</small>	2,408	482	711	1,127,039 <small>(S43年生産農業所得)</small>	110,724 <small>(S43年生産林業所得)</small>
	計	8,299	5,234	1,191	1,873	1,862,593	151,293

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)		財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
			※工業統計調査は経済センサスに統合	うちその他収入額			
現在	413,203 <small>H29年漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	31,823,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	38,098,130 <small>(H28年経済センサス)</small>	122,240	10,331,800 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.450 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,468 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	旧百石町	24,041 <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	1,096,190 <small>(S43年商業統計調査)</small>	1,628,130 <small>(S43年工業統計調査)</small>	372,686 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.199	262 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	旧下田村	-	561,950 <small>(S43年商業統計調査)</small>	4,257 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	-	289 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	計	24,041	1,658,140	1,632,387	372,686	-	-



●町の花鳥木

キク・白鳥・オンコ・赤松

●庁舎所在地・TEL

〒039-1513  
青森県三戸郡五戸町字古館21-1  
TEL 0178-62-2111

●概況（歴史・基幹産業など）

五戸町は縄文文化時代の遺跡や遺物が数多く発見されています。五戸の地名は、鎌倉時代の文治5（1189）年、甲斐国南部三郎光行が軍功によって糠部（青森県南及び岩手県北）の5郡を授けられたのが南部氏の始まりです。この糠部地方が軍馬育成に適していることから、九つの戸（牧場）分け、さらに東西南北に分けた4門9戸の牧場制がしかれ、ここから五戸の地名が誕生したといわれており、古くから馬産地として知られています。戦国以降、南部氏に属し、奥州街道（国道4号）の宿駅となり、地方の要衝として代官所がおかれ、15カ村1万3千石を統括し明治に至りました。



坂の町五戸

明治22年4月、町村制施行により五戸村となり、大正4年11月に町制を施行して五戸町となりました。昭和30年7月、五戸町・川内村・浅田村を合併。その後、野沢村手倉橋・豊崎村豊間内の一部区域を編入。さらに平成16年7月、倉石村を編入し現在に至っています。

基幹産業は農業で、水稻に野菜を組み合わせた複合経営が一般的です。ナガイモ、ニンニク、ゴボウ、リンゴなどが中心で、果樹や畜産も盛んです。

昭和39年に八戸地区新産業都市の指定を受けて以来、地蔵平に大規模工業団地を造成し企業の誘致を進め、農耕併進の町として発展してきました。

●観光・物産紹介

町の小高い丘には「ひばり野公園」があり、15.5haの広大な敷地の中に人工芝と天然芝のサッカー場が設けられており、サッカーの町五戸の象徴となっています。また公園全体の52%が緑地となっておりスポーツはもちろん、散策や自然観察が楽しめます。さらに、春には桜が咲き誇る「小渡平公園」には11haの広々とした敷地に天然芝が敷き詰められた日本グラウンド・ゴルフ協会認定コースがあり、緑豊かな自然の中でのんびりとした休日を過ごすことができます。また五戸町のグリーントーリズムは、農業収穫体験や郷土料理体験など春夏秋冬、季節に合わせた体験も行なっています。

町の中心に目を移すと「歴史みらいパーク」があり、図書館や当時の平面図を基に復元された五戸代官所が完備されています。また、図書館内には戦後最初の国産旅客機YS-11の生みの親で、五戸町の名誉町民である故木村秀政博士の偉業を讃え、「木村秀政ホール」が併設され、木村博士ゆかりの軽飛行機で世界唯一の実機N-58シグネット号や貴重な資料などが展示されています。

町を南北に通る奥州街道は、平成8年に文化庁から「歴史の道百選」に選ばれ、現在でも歴史の面影が色濃く残っております。他にも国指定重要文化財の江渡家住宅や県重宝の五戸町消防団第一分団屯所など歴史ある文化財が多く現存しており、歴史や自然を身近に感じる

わが町イチオシ3大美肉！



ことができる町です。また、平成30年6月には「ごのへ郷土館」が全面オープンし、町内から集めた貴重な資料から五戸町の歴史と文化に触れることができます。

五戸を代表する特産品といえば「馬肉」。その色が桜の花を連想させることから「桜肉」とも言われ、低カロリー、高たんぱくなヘルシー食材として大人気。他にも全国肉用牛枝肉共励会で日本一に輝いたこともある「倉石牛」は、良質な霜降り肉で芳醇な味と香りが楽しめます。また奥深い味わいと濃厚なだしが特徴の「青森シャモロック」もあり、3大美肉と称されるほどの自慢の品です。さらに、五戸の銘酒、「菊駒」と「如空」。すっきりとした喉越しと味わいで多くの方に支持されており、3大美肉の引き立て役としても活躍してくれます。

●地勢データ

戸来岳に水源を發して太平洋にそそぐ五戸川と、新郷村の温泉沢に水源を發し馬淵川に注ぐ浅水川の二つの川がほぼ並行して町を貫流しています。この二つの川を挟んで集落が形勢され、平坦部は水利を得て水田が拓け、奥羽山脈の東に發達したゆるやかな丘陵地帯は畑や果樹園などに利用されています。水田拡張のため集落は高台にという政策がとられ、現在の市街地は坂が多い「坂の町」となりました。

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)	
			15歳未満	15~64歳	65歳以上	年齢不詳		
現在	177.67 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	17,433 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,689	9,541	6,191	12	6,123 <small>(H27年国勢調査)</small>	
50年前	旧五戸町	120.81 <small>(S43.3.31現在)</small>	20,765 <small>(S40年国勢調査)</small>	7,139	12,387	1,239	-	4,328 <small>(S40年国勢調査)</small>
	旧倉石村	55.97 <small>(S43.3.31現在)</small>	4,298 <small>(S40年国勢調査)</small>	1,461	2,517	320	-	805 <small>(S40年国勢調査)</small>
	計	176.78	25,063	8,600	14,904	1,559	-	5,133

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)	
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業			
現在	9,036 <small>(H27年国勢調査)</small>	2,069	2,344	4,594	29	5,761,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	292,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>	
50年前	旧五戸町	9,537 <small>(S40年国勢調査)</small>	5,538	1,158	2,841	-	1,798,679 <small>(S43年生産農業所得)</small>	306,143 <small>(S43年生産林業所得)</small>
	旧倉石村	2,194 <small>(S40年国勢調査)</small>	1,806	111	277	-	408,410 <small>(S43年生産農業所得)</small>	178,044 <small>(S43年生産林業所得)</small>
	計	11,731	7,344	1,269	3,118	-	2,207,089	484,187

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)		財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
			※工業統計調査は経済センサスに統合	うちその他収入額			
現在	- <small>H29年漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	14,587,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	23,553,990 <small>(H28年経済センサス)</small>	967,530	9,661,360 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.280 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,027 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	旧五戸町	260,000 <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	1,673,440 <small>(S43年商業統計調査)</small>	-	373,504 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.260	232 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	旧倉石村	75,990 <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	54,890 <small>(S43年商業統計調査)</small>	-	92,930 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.130	234 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	計	0	335,990	1,728,330	-	466,434	-



●町の花鳥木魚

つつじ・うぐいす・  
けやき・アブラメ

●庁舎所在地・TEL

〒039-1201  
青森県三戸郡階上町大字道仏字  
天当平1-87  
TEL 0178-88-2111

## 青森県の朝日海岸から「階上ブランド」がはじまる



### ●概況（歴史・基幹産業など）

青森県の最東南端に位置しており、県内で一番早く朝日の昇る町です。

町のシンボルは、平成25年5月「三陸復興国立公園」に、平成25年9月「日本ジオパーク」に指定された階上岳と、三戸郡下でただ一つの風光明媚な海岸線、階上海岸です。また、北三陸の磯資源と、それを育む階上岳の自然資源を巡る「みちのく潮風トレイル」が平成25年11月に開通し、階上町の美しい自然を多くの方々に味わっていただくことができます。



階上灯台（青森県内で一番早く朝日の昇る場所）

なだらかな山の形が、牛が寝そべっているように見えることから別名「臥牛山」と呼ばれる階上岳の8合目、大開平付近は山つつじが見事に群生し、6月上旬の花盛りの時期には周囲が燃えるような赤に染まります。夏はもちろん、冬も登山が可能で、四季折々さまざまな表情を見せる階上岳をたくさんの登山者が訪れています。

階上灯台のある小舟渡海岸は、芝生地帯、岩礁地帯と変化に富んだ海岸線が特徴です。ここは毎年7月下旬に行われる郷土料理いちご煮をメインとした町最大のイベント「いちご煮祭り」の会場にもなっております。

また、数多くの縄文遺跡が点在し、信仰の地として1,290年以上の歴史と古い文化を誇っています。かつては南部藩所領の馬産地でしたが、明治22年の町村制の施行により旧8カ村が合併して階上村に。昭和55年の町制施行によって階上町が誕生しました。

### ●観光・物産紹介

#### ○ハマの駅あるでい～ば

産直・レストラン・軽食販売所では、新鮮な地元海産物にこだわった「浜のおいしい」を提供しています。また、旬を届ける各種イベントも人気で、太平洋を一望できるロケーションも見どころとなっています。

#### ○道の駅はしかみ

海と山に囲まれた階上町の新鮮で安心な地元産品を一度に手に入れることができます。また、手打ちそばや昔懐かしいよもぎ餅などの実演販売コーナーもあり、レストランも併設されています。

#### ○フォレストピア階上

地元酪農家が生産した濃厚な牛乳と階上早生そば・桑の葉・山ぶどう・俺たちの塩（町内小学校の子どもたちが作った塩を使用）など、階上産にこだわったジェラートが人気です。

#### ○わっせ交流センター

階上町は青森県の在来種のそば「階上早生」の故郷。廃校舎を活用したわっせ交流センターでは、手打ちそばやそば打ち体験（要予約）などをお楽しみいただけます。

#### ○寺下観音

奥州南部糠部三十三ヶ所巡礼一番札所である寺下観音。観音堂の中には、千数百年前に行基（ぎょうき）という高僧が伝えたという観音像が安置されています。境内には西国三十三ヶ所巡礼の観音様が祭られており、ここでお参りすればその後利益も受けられるとされています。

### ●地勢データ

階上町は青森県の最東南端に位置し、東は約5.5kmにわたる海岸線をもって太平洋を望み、西と北は八戸市、南は標高739.6mの階上岳を越えて岩手県洋野町に隣接した県境の町です。

地形は、南の階上岳の北面に開けた山麓地帯を除いては、ほぼ平坦地で、山麓の段丘からみると多少凸凹があるものの西方から東方へ下降しています。川は、階上岳の西南端に発し田代を経て新井田川に合流する松館川、岳の中央から小流を集めて角柄折から松館川に合流する御堂川、岳の東端に発し県の名水に指定されている寺下の滝から道仏を経て太平洋へ注ぐ道仏川と、赤保内から大渡を経て八戸市金浜から太平洋へ注ぐ大渡川があります。松館川流域は石灰岩などの堆積岩や結晶質石灰岩などの変成岩で覆われていますが、地質のほとんどが階上岳周辺で見られる花崗閃緑岩や海岸線の火山岩といった火成岩に覆われています。

### ●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳	総世帯数 (戸)
現在	94.01 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	14,025 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,471	8,599	3,802	153	5,699 <small>(H27年国勢調査)</small>
50年前	93.40 <small>(S43.3.31現在)</small>	9,765 <small>(S40年国勢調査)</small>	3,849	5,278	638	-	1,684 <small>(S40年国勢調査)</small>

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	6,480 <small>(H27年国勢調査)</small>	563	1,961	3,818	138	2,239,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	164,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	4,413 <small>(S40年国勢調査)</small>	3,239	501	673	-	469,865 <small>(S43年生産農業所得)</small>	274,348 <small>(S43年生産林業所得)</small>

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)		財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
			注工業統計調査は経済センサスに統合	うちその他収入額			
現在	545,084 <small>H29年漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	7,441,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	12,244,320 <small>(H28年経済センサス)</small>	27,440	5,640,000 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.340 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,163 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	37,033 <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	96,814 <small>(S43年商業統計調査)</small>	120,270 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	173,881 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.150	199 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>





**三戸町**  
昭和43年 設立時構成市町村

●町の花鳥木

福寿草・コノハズク・桐

●庁舎所在地・TEL

〒039-0198

青森県三戸郡三戸町大字在府小路町43

TEL 0179-20-1111

●概況（歴史・基幹産業など）

三戸町は戦国時代、北東北一帯を支配していた三戸南部氏の居城であった三戸城が築かれ、城下町として栄えた歴史ある町です。

明治2年に三戸県、明治4年の廃藩置県により、青森県に属しました。明治22年には県内5町の一つとして誕生し、三戸地方の中心として発展を続け、昭和30年に留崎村、斗川村、猿辺村と合併し、現在の三戸町に至っています。

基幹産業は農業で、果樹、米、葉タバコ、畜産などが盛んです。特に三戸リンゴは、県南主要産地として知られ、町の特産品になっています。葉タバコは、全国有数の産地として、売上日本一になったこともあり、畜産は、黒毛和牛の子牛の生産が盛んで、高品質和牛の生産に取り組んでいます。

また、商業の歴史も古く、市日や元祖まける日は現在も続いており、町民の生活の一部になっています。



城山公園

●観光・物産紹介

○城山公園

三戸城跡は、1,600本の桜が咲き誇る桜の名所「城山公園」として整備されており、子どもから大人まで楽しむことができる憩いの場です。園内には、歴史民俗資料館があり、石垣や堀跡などの遺構も見られ、多くの歴史ファンも訪れます。

○三戸リンゴ



三戸リンゴ

町は農業が盛んで、おいしい果物や野菜がたくさん収穫されます。なかでも、蜜がギュッと詰まった「三戸リンゴ」は絶品です。山に囲まれた地形のため、昼夜の寒暖差が激しく、甘みが強い果物が収穫されます。

人、自然、文化、ほんものが息づく町さんのへ



○粉もの文化

かつては「やませ」と呼ばれる冷たい季節風により、水稻栽培が困難であったことから、麦やそばといった「粉もの」の食文化が発達しました。サクサク軽い口当たりの「三戸せんべい」は、町内に7店舗もあり、店によって味や食感が違うので、食べ比べてみるのも楽しいです。南部せんべいを野菜の入っただし汁に入れて食べる「せんべい汁」や「ひつつみ」と呼ばれる「すいとん」、エゴマみそやくるみみそを付けて炭火で焼いた「串もち」など、多くのおいしいものがあふれています。

○11ぴきのねこ

町出身の漫画家「馬場のぼる」さんの代表作「11ぴきのねこ」によるまちづくりを進めています。石像やお店の店頭幕、ラッピングバスなど、町内を歩くと各所で「11ぴきのねこ」に出会うことができます。



11ぴきのねこ

●地勢データ

三戸町は青森県の南端に位置し、南は岩手県との、西の一部は秋田県との県境となっています。町のメインストリートは、江戸時代の国道の一つである旧奥州街道であり、現在は町の中央を国道4号、国道104号線が交差するほか、青い森鉄道線も町内を縦断しており、三戸地方の交通の中心となっています。人口は1万人ほどで、総面積は151.79km<sup>2</sup>です。東西に長い地形で面積の7割を山林や原野が占めています。

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)
			15歳未満	15~64歳	65歳以上	年齢不詳	
現在	151.79 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	10,135 <small>(H27年国勢調査)</small>	997	5,332	3,784	22	3,756 <small>(H27年国勢調査)</small>
50年前	151.77 <small>(S43.3.31現在)</small>	16,746 <small>(S40年国勢調査)</small>	5,230	10,324	1,192	-	3,782 <small>(S40年国勢調査)</small>

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	5,112 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,582	968	2,517	45	3,791,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	153,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	7,772 <small>(S40年国勢調査)</small>	3,910	1,029	2,833	-	5,321,000 <small>(S43年生産農業所得)</small>	263,000 <small>(S43年生産林業所得)</small>

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)	うちその他収入額	財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
現在	-	12,836,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	13,035,040 <small>(H28年経済センサス)</small>	445,640	5,666,819 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.240 <small>(H27総務省公表値)</small>	1,876 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	- <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	3,261,880 <small>(S43年商業統計調査)</small>	201,764,000 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	372,621 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.210	906 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>



**田子町**  
昭和43年 設立時構成市町村

●町の花鳥木

山ツツジ・キセキレイ・  
ナナカマド

●庁舎所在地・TEL

〒039-0292  
青森県三戸郡田子町大字田子字  
天神堂平81  
TEL 0179-32-3111

●概況（歴史・基幹産業など）

「田子」と書いて「たっこ」と読みます。由来については諸説ありますが、この地の先住民であるアイヌ人の言葉で「小高い丘」を意味する「タプコプ」から来ているという説が最も有力です。

鎌倉時代には、南部氏が三戸城を居城とし、田子に支城を築きました。藩政時代当時、田子は城下町として、また秋田との交通、とくに尾去沢鉾山（秋田県）と陸奥湾野辺地港を結ぶ「銅の道」の要衝として人馬の往来も盛んで、明治までの長い間繁栄しました。昭和3年、田子村は田子町となり、昭和30年に田子町と上郷村が合併して現在に至っています。

町の基幹産業は農業です。畑作を中心とし、水稲と畜産を組み合わせた複合経営が主流です。豊富な有機質を活用した米、夏秋野菜、肉牛など様々なものが生産されています。中でも「たっこにんにく」の地域商標でブランド力を高め「にんにく日本一の産地」と称され、にんにくにこだわり、各種のまちづくり事業、イベントなどを展開しています。

●観光・物産紹介

○タプコプ創遊村

今からおよそ100～350年ほど昔に建てられた古民家を移築しました。昔の田舎の暮らしを体験出来る異次元空間です。昔の遊びと手作りの体験ゾーンがいっぱい。手焼きせんべいなどが体験出来ます。また冬場は、隣接の「創遊村229スキーランド」でスキーも楽しめます。

○みろくの滝



秋のみろくの滝



水車の里

高さ30m、幅20mの滝が「みろく＝弥勒」と呼ばれるのは、その昔この付近でお坊さんが修行を積んだという伝説の滝でもあります。慈悲深いエネルギーが今も息づくみろくの滝。快適な親水広場があり、東屋、水洗トイレなど完備しています。御家族でのピクニックにもおすすめ。

大自然に抱かれた日本一のにんにくのまち



○にんにくとべごまつり

毎年10月上旬に行われる町のビックイベント。目玉は田子牛の「丸焼き」！ 田子牛1頭を二日間で半身ずつ一晩かけてじっくりと丸焼きにしたものです。また、姉妹都市であるアメリカや韓国からのお客様を交え、国際色豊かなイベントです。



にんにくとべごまつり

○特産

たっこにんにく、田子牛、黒にんにく、にんにくラーメン、田子ガーリックステーキごはん、クロシュ（黒にんにく×赤ワイン）、タッコーラ、にんにく加工品

●地勢データ

青森県の最南端に位置し、岩手県二戸市・八幡平市、秋田県鹿角市と接し県境をなしています。東西20km、南北17kmの扇型で面積241.98km<sup>2</sup>、その80%が山林で占められています。町の中央部を東西に貫通する国道104号線によって八戸市までは車で約1時間、また、東北新幹線「二戸駅」までは車で40分の距離にあります。

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)
			15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳	
現在	241.98 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	5,554 <small>(H27年国勢調査)</small>	516	2,845	2,192	1	2,006 <small>(H27年国勢調査)</small>
50年前	242.90 <small>(S43.3.31現在)</small>	10,231 <small>(S40年国勢調査)</small>	3,406	6,130	695	-	2,183 <small>(S40年国勢調査)</small>

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	2,997 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,098	708	1,186	5	3,030,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	149,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	4,946 <small>(S40年国勢調査)</small>	3,377	543	1,026	-	1,079,604 <small>(S43年生産農業所得)</small>	714,515 <small>(S43年生産林業所得)</small>

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)		財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
			うちその他収入額	注工業統計調査は経済センサスに統合			
現在	- <small>H29年漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	3,830,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	11,691,190 <small>(H28年経済センサス)</small>	247,130	4,722,000 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.190 <small>(H27総務省公表値)</small>	1,933 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	- <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	2,637,560 <small>(S43年商業統計調査)</small>	345,970 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	292,042 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.182	238 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>



# 南部町

昭和43年 設立時構成市町村

●町の花鳥木

ぼたん・うぐいす・赤松

●庁舎所在地・TEL

〒039-0802

青森県三戸郡南部町大字苦米地字下宿23-1

TEL 0178-84-2111

## ●概況（歴史・基幹産業など）

南部町は平成18年1月に旧南部町（なんぶまち）、旧名川町、旧福地村の2町1村の合併により、現在の形である南部町（なんぶちょう）が誕生しました。

鎌倉時代、執権北条氏の有力家臣であった南部氏は現在の山梨県から南部町にやって来ました。その後、室町・戦国期には、聖寿寺館（しょうじゅじたて）を本拠地として、北東北を代表する戦国大名に成長し、東北北部を支配下に治めました。町内には中世南部氏の居館や当主の墓所が残されていることから、南部藩発祥の地と呼ばれています。



さくらんぼ

町の基幹産業は農業であり、そのほとんどが果樹を中心とした水稻・畑作の複合経営農家です。

果樹は、りんご・さくらんぼ・梅・梨・ぶどう・桃など多くの種類を栽培しており、県南一の産地として知られ、果物の里 南部町として毎年多くの観光客が訪れます。

また、古くから栽培されている食用菊は県下一の生産量で乾燥菊としても出荷され年間を通して味わえます。

## ●観光・物産紹介

南部町では一年中、農業体験ができる農業観光をはじめ、数多くの観光イベントがあります。5月下旬～6月上旬には町の花であるぼたんの花を一望できる長谷ぼたん園が開園されます。130種8,000本のぼたんが植栽されており、大輪の花が咲き誇る風情で多くの観光客を魅了します。

7月には「ジャックドまつり」が開催され、県南一早い花火大会ということもあり、県南地方に夏を告げるまつりとして知られています。盛りだくさんのコンテンツで多くの観光客が訪れます。

9月には「名川秋まつり」が開催されます。この祭りは数百年来の歴史があり、山車に設けられたステージで伝統芸能（南部民謡や南部手踊り）が披露される全国的にも珍しいまつりです。

2月には南部地方えんぶりが開催されます。青森県南部地方を中心に行われる冬の伝統行事で昭和54年2月に国の重要無形民俗文化財に認定されています。

四季を通して祭りの多い南部町には、このほかにも様々なイベントがあり、地域特産品や旬な農産物の即売会を行う農産物フェアなどもあります。

## 暮らしたくなるまち南部町



## ●地勢データ

南部町は青森県の南東に位置し、町の中央を流れる馬淵川の沿岸部は帯状に肥よくな平野が広がり、水稻や野菜の栽培が行われています。南西部には標高615mの名久井岳がそびえ、丘陵地帯では果樹栽培が盛んです。

気候は県内でも年間雨量、積雪量とも少なく、最も特徴的な気象として夏に偏東風（ヤマセ）と呼ばれる冷たく湿った東よりの風が吹き付けます。そのため低温の日が続くことが多く、農作物への冷害が発生することがあります。



名久井岳と母なる馬淵川

## ●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)	
			15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳		
現在	153.12 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	18,312 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,869	9,882	6,557	4	6,419 <small>(H27年国勢調査)</small>	
50年前	旧南部町	29.74 <small>(S43.3.31現在)</small>	7,461 <small>(S40年国勢調査)</small>	2,178	4,767	516	-	1,691 <small>(S40年国勢調査)</small>
	旧名川町	83.04 <small>(S43.3.31現在)</small>	12,437 <small>(S40年国勢調査)</small>	4,298	7,298	841	-	2,540 <small>(S40年国勢調査)</small>
	旧福地村	39.75 <small>(S43.3.31現在)</small>	5,780 <small>(S40年国勢調査)</small>	1,976	3,430	374	-	1,046 <small>(S40年国勢調査)</small>
	計	152.53	25,678	8,452	15,495	1,731	-	5,277

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	9,370 <small>(H27年国勢調査)</small>	2,355	2,039	4,915	61	5,271,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	366,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	旧南部町	3,547 <small>(S40年国勢調査)</small>	1,847	472	1,228	-	-
	旧名川町	5,662 <small>(S40年国勢調査)</small>	3,744	501	1,417	645,553 <small>(S43年生産農業所得)</small>	228,039 <small>(S43年生産林業所得)</small>
	旧福地村	2,896 <small>(S40年国勢調査)</small>	2,179	248	469	959,000 <small>(S43年生産農業所得)</small>	- <small>(S43年生産林業所得)</small>
	計	12,105	7,770	1,221	3,114	1,604,553	228,039

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)		財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
			※工業統計調査は経済センサスに統合	うちその他収入額			
現在	-	13,347,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	15,358,890 <small>(H28年経済センサス)</small>	1,103,440	9,670,000 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.270 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,006 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	旧南部町	-	2,527,900 <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	993,220 <small>(S43年商業統計調査)</small>	171,500 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.190	232 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	旧名川町	2,747 <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	1,013,450 <small>(S43年商業統計調査)</small>	263,630 <small>(S43年工業統計調査)</small>	221,698 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.210	- <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	旧福地村	-	310,430 <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	311,920 <small>(S43年工業統計調査)</small>	198,485 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.150	307 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	計	2,747	3,851,780	1,568,770	591,683	-	-



●概況（歴史・基幹産業など）

新郷村は、青森県県南地方に位置し、東は五戸町、北は十和田市、西は秋田県鹿角市、南は三戸町に接し、東西22km、南北9km、総面積150.77km<sup>2</sup>を有しています。

この地方には、少数の先住民が狩猟を中心として僅かな耕地を拓いて住んでいましたが、その後徐々に南からの移住者が増加し、定住するようになったとされています。

長享年代、南部光政公の時、藤原鎌足の子孫木村又六郎政秀が戸来郷を領して戸来を名乗り、これにより後に南部政康公の四男の次男によって西越が領されました。

住民の生活は雑穀及び稲作の傍ら木こり、馬の飼育などによって維持されていましたが、耕種においては度々、凶作が繰り返されたと記録にあります。

明治に入り幾度かの統廃合を経て、明治22年4月、市町村制の施行により戸来、野沢の両村が置かれ、昭和30年7月町村合併促進法により、旧戸来村全域と旧野沢村西越地区が合併して新郷村が誕生しました。昭和31年には五戸町より一部を編入して現在に至っています。

新郷村の基幹産業は農業で米、畜産（肉牛、乳牛）、野菜を主体としてきました。近年は、とうもろこし、長いも、大根、にんにく、花き類が増加し、稲作転換対策などにより、野菜、葉たばこ、花きなどの生産団地の傾向が現れてきました。地域別営農形態を見ると浅水川流域は野菜、葉たばこ、五戸川流域は野菜、三川目川流域は畜産、野菜、花き経営の複合化が進んでいます。



青森県酪農発祥の地

●観光・物産紹介

新郷村は青森県酪農発祥の地と呼ばれ、乳製品には特に力を入れており、村の特産品として生キャラせんべい、飲むヨーグルト、アイスクリームなどを生産しています。それらは、アジア最大級の食品展示会フードクスジャパンにおいて、2012年にはバジルアイスが最高金賞、ドラキュラアイスが金賞、薫りたつ牛乳は2013年に金賞、2014年には飲むヨーグルト・ザ・プレミアムが金賞と毎年のように受賞しています。

また、村の観光として標高350mの高原に広がる65haの広大な自然滞在型観光レクリエーション施設「間木ノ平グリーンパーク」、キリスト伝説にまつわる「キリストの里伝承館」、日本最古の「大石神ピラミッド」、鷺の湯伝説「野沢温泉」、「新郷温泉館」また、廃校を利用した「川代ものづくり学校」などがあります。



特産品「飲むヨーグルト」



鷺の湯伝説「新郷温泉館」

●地勢データ

奥羽山脈の北部の中にあって山岳が起伏し、総面積の80%が山林、原野で覆われています。丘陵をぬって中央部を五戸川、三川目川、南端を浅水川が流れ地域水田を潤しています。

気候は、過去10年間の年間平均気温9.7℃、平均降水量1,093mm、積雪量約30～60cmで寒冷地に属しています。4～5月の南西風、6～7月の偏東風（ヤマセ）、晩霜により農作物が被害を受けることがあります。

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)
			15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳	
現在	150.77 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	2,509 <small>(H27年国勢調査)</small>	206	1,177	1,126	-	831 <small>(H27年国勢調査)</small>
50年前	152.39 <small>(S43.3.31現在)</small>	5,548 <small>(S40年国勢調査)</small>	1,861	3,256	431	-	1,105 <small>(S40年国勢調査)</small>

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	1,407 <small>(H27年国勢調査)</small>	682	243	481	1	1,685,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	214,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	2,880 <small>(S40年国勢調査)</small>	2,279	128	473	-	331,000 <small>(S43年生産農業所得)</small>	392,000 <small>(S43年生産林業所得)</small>

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)	うちその他収入額	財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
現在	- <small>H29年漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	1,315,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	- <small>(H28年経済センサス)</small>	-	2,864,500 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.120 <small>(H27総務省公表値)</small>	1,871 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	- <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	315,000 <small>(S43年商業統計調査)</small>	106,480 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	283,855 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.129	522 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>



●概況（歴史・基幹産業など）

十和田市は、平成17年1月1日に、従来から産業、文化、行政面においてつながりのあった、旧十和田市と旧十和田湖町が合併し誕生しました。

旧十和田市の発展は、安政2年に南部盛岡藩士の新渡戸傳が無益の原野と言われた三本木原台地の開拓事業に着手したことに端を発し、十和田市の中心街を流れる稲生川上水と近代都市計画のルーツと称される碁盤の目状の街並みは、現在の十和田市の骨格を形成しています。昭和30年2月の昭和の大



十和田湖

合併により、三本木町、大深内村、藤坂村が合併し三本木市となり、同年3月には四和村が編入、昭和31年に十和田市と改称し、上十三地域の中心都市として発展してきました。

旧十和田湖町は、全国屈指の景勝地、十和田湖、奥入瀬溪流のある観光のまちとして発展してきました。明治22年の町村制施行により法量・奥瀬・沢田の三カ村が合併し法奥沢村となり、昭和6年に十和田村に改称、昭和30年には十和田町として町制を施行し、昭和50年に十和田湖町と改称しました。

現在は、次世代を担う子どもたちにも強い誇りと自信を持って継承できる、未来への希望に満ちあふれた理想のふるさと「～わたしたちが創る～希望と活力あふれる 十和田」を目指し、多彩な地域資源や、このまちに暮らす市民の知恵を最大限に活かした、協働によるまちづくりを進めています。

●観光・物産紹介

○特別名勝・天然記念物「十和田湖」「奥入瀬溪流」



奥入瀬溪流（阿修羅の流れ）

「十和田湖」は十和田火山の噴火で形成された、すり鉢状のくぼ地に水がたまった二重式カルデラ湖です。新緑や紅葉の季節はもちろんのこと、冬の景色も幻想的で、四季を通して美しい湖の姿を堪能できます。

「奥入瀬溪流」は、子ノ口から焼山の十和田橋までの約14kmの区間を指し、多数の滝や千変万化の流れなど、十和田湖から唯一流れ出る美しい溪流を満喫できます。

○「十和田市現代美術館」

世界を舞台に活躍する現代アーティストの作品を展示しており、官庁街通り全体を一つの美術館に見立て、屋外空間に様々なアート作品を展開する「アーツ・トワダ」の中心施設です。

○特産品

- にんにく（生産量日本一）
- ながいも
- ごぼう
- ねぎ
- 十和田湖和牛
- 十和田湖ひめます
- 奥入瀬ガーリックポーク
- 馬肉料理
- 十和田バラ焼き
- 南部裂織 など



にんにく、ながいも、ごぼう、ねぎ



南部裂織

●地勢データ

十和田市は、青森県の県南地方内陸部に位置し、西半分には山地と原野が広がり、東半分は標高70m前後の台地で農地と市街地が形成されています。気候は、東部は太平洋側気候に属しており、台地部は年間を通じて降水量が少なく比較的穏やかですが、西部の山岳部は地形が複雑なため、山岳地方気象を示すところがあり、旧十和田湖町地域は特別豪雪地帯に指定されています。

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)	
			15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳		
現在	725.65 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	63,429 <small>(H27年国勢調査)</small>	7,325	37,028	18,850	226	25,487 <small>(H27年国勢調査)</small>	
50年前	旧十和田市	318.39 <small>(S43.3.31現在)</small>	46,713 <small>(S40年国勢調査)</small>	14,757	29,756	2,200	-	10,509 <small>(S40年国勢調査)</small>
	旧十和田湖町	372.06 <small>(S43.3.31現在)</small>	9,829 <small>(S40年国勢調査)</small>	2,957	6,325	547	-	1,792 <small>(S40年国勢調査)</small>
	計	690.45	56,542	17,714	36,081	2,747	-	12,301

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)	
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業			
現在	31,098 <small>(H27年国勢調査)</small>	3,767	6,821	19,263	1,247	9,247,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	574,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>	
50年前	旧十和田市	22,218 <small>(S40年国勢調査)</small>	10,991	3,240	7,986	1	428,870 <small>(S43年生産農業所得)</small>	428,870 <small>(S43年生産林業所得)</small>
	旧十和田湖町	5,458 <small>(S40年国勢調査)</small>	3,245	415	1,798	-	-	-
	計	27,676	14,236	3,655	9,784	1	0	428,870

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)	うちその他収入額	財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
現在	- <small>H29年漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	137,630,000,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	54,603,100 <small>(H28年経済センサス)</small>	1,885,810	29,970,000 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.410 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,168 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	旧十和田市	850 <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	13,211,250 <small>(S43年商業統計調査)</small>	3,769,600 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	1,176,015 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	317 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	旧十和田湖町	-	-	123,210 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	-	477 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	計	850	13,211,250	3,892,810	-	1,176,015	-



**三沢市**  
昭和54年 加入

●市の花鳥木

さつき・オオセッカ・松

●庁舎所在地・TEL

〒033-8666  
青森県三沢市桜町一丁目1-38  
TEL 0176-53-5111

●概況（歴史・基幹産業など）

鎌倉時代、甲州南部氏一族の南部三郎光行が、平泉の藤原氏征伐の大功として、源頼朝から糠部五郡(岩手県から青森県下北郡)を享けた、南部藩のはじまりが、三沢市の文献に残る初めであり、その後、藩営牧場「木崎野牧」として発展してきました。

明治4年、廃藩置県により三沢は百石村に合併されたが、役場を三沢・南山に設置し、同14年、百石村から独立して三沢村となり、役場を浜三沢に設置しました。昭和6年には、人類初の太平洋無着陸横断飛行を成し遂げた



アメリカンデー

「ミス・ビードル号」の発進地として、一躍、三沢村の名が全世界に知れわたりました。昭和13年旧帝国海軍三沢航空基地の建設が開始されるが、敗戦により米陸軍工兵隊が進駐し、基地整備拡張工事が行われ、昭和15年に9,884人であった人口が、同23年の町制施行時(隣接する下田・六戸・浦野館の一部と合併)には、約3倍の27,127人となり、基地の街として急激に発展しました。同29年には航空自衛隊が設置され、さらに基地の強化が進められ、昭和33年市制施行、同50年の民間航空機就航再開、同56年のアメリカ合衆国ワシントン州ウエナッチ市(太平洋無着陸横断飛行の着陸地)との姉妹都市締結など、「基地の街」「国際交流の街」「高速交通の要衝」として県南地域の中核都市を目指し発展してきました。

●観光・物産紹介

三沢市は、十和田八幡平国立公園・陸中海岸国立公園・下北国定公園を結ぶ中央に位置し、青い森鉄道三沢駅、三沢空港など交通の便が良いことから、広域観光の拠点としての整備を進めています。また、市内においても航空史を楽しみながら学べる「青森県立三沢航空科学館」、歌人、詩人、小説家、演出家、映画監督など、多方面においてその才能を発揮した寺山修司の遺品を保存公開している「寺山修司記念館」、明治5年に三沢市谷地頭の地に、日本初の近代洋式牧場を開牧した廣澤安任の功績を記念し整備した「道の駅みさわ斗南藩記念観光村」などがあります。

さらに、三沢市の西側に接する小川原湖では、カヤックやアクティビティが楽しめるほか、東側の太平洋沿岸部には、良好なサーフィンスポットが点在しています。

また、たくさんのイベントが開催されることも三沢市の特徴であり、毎年6月にアメリカ文化を紹介するために行われる「アメリカンデー」、8月の三沢まつり中日に開催される「国際サマーフェスティバル」、9月には、航空ショーでは北日本一の規模を誇る「航空祭」など、基地の街三沢ならではの国際色豊かなイベントを楽しむことができます。

未来へつなぐ 心安らぐ 国際文化都市



太平洋沿岸に広がる良好なサーフィンスポット



三沢基地内で開催されている航空祭

●地勢データ

三沢市は、本州の北端である青森県の東南部に位置しており、北奥羽地域においては最北部に位置しています。

南北約25km、東西約11km、面積119.87km<sup>2</sup>の長方形で海拔約57mの広々とした平坦地であり、東は太平洋、西は小川原湖に臨み、東北町、おいらせ町、六戸町、六ヶ所村に隣接しています。

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)
			15歳未満	15~64歳	65歳以上	年齢不詳	
現在	119.87 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	40,196 <small>(H27年国勢調査)</small>	5,791	24,779	9,478	148	16,367 <small>(H27年国勢調査)</small>
50年前	120.68 <small>(S43.3.31現在)</small>	36,326 <small>(S40年国勢調査)</small>	12,109	23,138	1,079	-	8,764 <small>(S40年国勢調査)</small>

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	19,625 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,344	4,078	13,225	978	6,816,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	54,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	15,811 <small>(S40年国勢調査)</small>	4,463	1,591	9,757	-	1,417,591 <small>(S43年生産農業所得)</small>	68,872 <small>(S43年生産林業所得)</small>

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)	うちその他収入額	財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
現在	1,485,289,961 <small>H29年漁業水揚げ額(各自治体別)</small>	46,292,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	79,280,730 <small>(H28年経済センサス)</small>	121,620	22,143,000 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.480 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,458 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	209,035 <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	8,481,660 <small>(S43年商業統計調査)</small>	889,730 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	893,400 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.350	332 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>



●概況（歴史・基幹産業など）

平成17年3月31日に七戸町・天間林村の2町村で合併が実現し、新「七戸町」が誕生しました。この2町村は、藩政時代以前から歴史的にも、経済、教育、文化、生活の面でも強い結びつきを有しており、それぞれの地域住民の交流が活発に行われ、地域の一体感の醸成が図られています。



県南・下北地域の新しい玄関口「JR七戸十和田駅」

町内には北東北最大規模の貝塚を有する国指定史跡二ツ森貝塚や七戸南部氏の居城であった国指定史跡七戸城跡などが残る歴史ある町で、「宇治川の合戦」で活躍した名馬「生啗」をはじめ多くの軍馬を産出するなど、古来、名馬の産地と言われ、その歴史も馬との深い関わりを持って発展してきました。こうした馬との深い関わりから特色ある庶民信仰が生まれ、祈願あるいは満願、報謝の気持ちを込めて奉納された「南部小絵馬」は庶民信仰の実態を知ることができる貴重な資料として国の重要有形民俗文化財の指定を受け、鷹山宇一記念美術館の絵馬館に展示収蔵されています。

七戸町の基幹産業は農業で、稲作を中心に長芋、トマト、にんにくなどの野菜栽培が盛んに行われ、関東方面を中心に出荷しています。今後は農産物の低農薬化や有機栽培を拡大し、豊かな自然が育む安全で安心な「七戸ブランド」として確立し、全国へと発信し続けていきます。

●観光・物産紹介

平成22年12月の東北新幹線七戸十和田駅開業を機に、これまで以上に特産品の販売や商業活性化への機運が高まっており、「道の駅しちのへ」にある「物産館」では、県内道の駅屈指の商品数を取り揃え、七戸町自慢の銘菓や地酒、南部裂織などの民芸品のほか、周辺市町村の特産品を展示販売しています。さらにレストラン「絵馬」では地元の素材を生かした馬肉ラーメンや郷土料理のけいらんなどが味わえます。また、併設された「しちのへ産直七彩館」では、生産者の顔が見える新鮮な野菜や漬物などの加工品が安く手に入り、手打ちそばやそば餅などの食事もできます。「花き展示館」では、切り花や苗木、東八甲田ローズカントリーのフラワーアレンジメントなど、七戸産の花木をお手頃な価格で販売しています。

●地勢データ

七戸町は青森県の東部に位置し、西は青森市、南は十和田市、東から北は東北町と接する内陸の町です。

国道4号が南北に縦断、それと交差して国道394号が東西に横断し、みちのく有料道路で青森市と結ばれているほか、町のほぼ中央には東北新幹線七戸十和田駅の駅舎が整備されるなど、観光地奥入瀬溪流や十和田湖、下北半島への新しい玄関口として交通の要衝となっています。

地勢は、西側一帯が広大な国有林野で標高1,000mを超える八甲田山系が連なり、山麓から東に延びる丘陵は高低差が少なく、東西に貫流する河川流域が広大な水田地帯を形成しています。

気象は、1年を通じて変化が激しく、中でも6～7月には霧雨を伴ったヤマセ（北東風）のため、気温が低い状態が続き、夏は短く、11月から4月にかけては北西の強い季節風が吹き、曇天、降雪の日が多くなっています。

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)	
			15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳		
現在	337.23 <small>(国土地理院公表値、H29.10.1現在)</small>	15,709 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,604	8,419	5,684	2	5,572 <small>(H27年国勢調査)</small>	
50年前	旧七戸町	136.08 <small>(S43.3.31現在)</small>	13,161 <small>(S40年国勢調査)</small>	4,290	8,116	755	-	2,890 <small>(S40年国勢調査)</small>
	旧天間林村	199.92 <small>(S43.3.31現在)</small>	11,923 <small>(S40年国勢調査)</small>	4,428	6,863	632	-	2,313 <small>(S40年国勢調査)</small>
	計	336.00	25,084	8,718	14,979	1,387	-	5,203

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)	
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業			
現在	7,894 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,480	1,783	4,586	45	3,556,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	372,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>	
50年前	旧七戸町	5,791 <small>(S40年国勢調査)</small>	2,859	646	2,286	-	1,332,000 <small>(S43年生産農業所得)</small>	- <small>(S43年生産林業所得)</small>
	旧天間林村	5,570 <small>(S40年国勢調査)</small>	4,318	667	585	-	1,156,000 <small>(S43年生産農業所得)</small>	- <small>(S43年生産林業所得)</small>
	計	11,361	7,177	1,313	2,871	-	2,488,000	0

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)	うちその他収入額	財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
現在	- <small>H29年漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	22,792,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	5,731,520 <small>(H28年経済センサス)</small>	562,110	9,408,875 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.330 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,084 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	旧七戸町	- <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	3,343,100 <small>(S43年商業統計調査)</small>	502,590 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	300,961 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	360 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	旧天間林村	- <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	- <small>(S43年商業統計調査)</small>	- <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	148,671 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	252 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	計	0	3,343,100	502,590	-	449,632	-



●町の花鳥木

やまざくら・ひばり・楓

●庁舎所在地・TEL

〒039-2392

青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字前谷地60

TEL 0176-55-3111

## 人も自然も豊かなふれあいの郷「ろくのへ」



### ●概況（歴史・基幹産業など）

霊峰「八甲田連峰」を西に仰ぎ、奥入瀬川の清流が町の中央をはしる六戸町。奥入瀬川流域に広がる水田地帯に代表されるように、米と野菜の農業の町です。

県内では比較的温暖で積雪も少ない一方、やませの常襲地帯でもあるため、こうした自然環境に対応する農業が基幹産業となっており、稲作のほか、特産地鶏シャモロックと黒毛和種牛の畜産、にんにく・ごぼう・ながいも・にんじんなどの根菜を中心とする野菜作りが盛んです。

また、恵まれた立地環境を活かした工業の振興にも努めており、近年では町北部の金矢工業団地に大型木材加工場が操業し、県産木材を使用した建築材を作ること、県産材の付加価値向上・県林業の活性化に寄与することも期待されています。



ベジタランドろくのへ

### ●観光・物産紹介

#### ○観光

町の中心に位置し、八甲田の雪が解け始める頃には1,000本の山桜とソメイヨシノが咲き乱れる「館野公園」は、町内外からの花見客の宴を盛り上げるとともに、その豊かな自然をいかした地形から、高齢者のグラウンド・ゴルフの場としても活用されています。

稲刈りが終わる頃には、六戸町総合体育館をメイン会場としてメイプルタウンフェスタが開催されます。一戸から九戸までの特産品・名産品が並ぶ即売会「戸のじまん市」やシャモロック千人鍋、同日に行われるメイプルマラソンではたくさんのお客さんと賑わいをみせます。

#### ○特産

六戸町では「ベジタランドろくのへ」と名乗るとおり、にんにく・ながいも・ごぼう・にんじん・だいこんなどたくさんの野菜が作られています。その中でも、主力となるのがながいも、ごぼう、にんにくですが、特に大玉のにんにく（2L以上）は、過去に農林水産大臣賞を受賞するなど、日本一と評価されています。



青森シャモロック ザ・プレミアム#6

また、近年では青森シャモロックの飼育に20年以上携わる生産者の長年のノウハウ、美味しさの追求、一羽一羽愛情を込めた特別飼育によって生み出された「青森シャモロック ザ・プレミアム#6（ナンバーシックス）」が発表され、特別な地鶏として注目を集めています。

### ●地勢データ

南部台岳地帯の一部を形成している標高70～90mの上北台地と呼ばれる洪積台地と奥入瀬川によって形成された河岸段丘、沖積平野からなり、目立った高地、山岳はありません。

水系の主なものは、源流を十和田湖に発する2級河川奥入瀬川で、町の中央よりやや南部を西から東に流れ大きく開析しており、その流域周辺には、水田地帯が広がっています。

八戸市・三沢市・十和田市の3市を結ぶ三角形の中心に位置する人口約11,000人の町であり、恵まれた立地環境のもと、近年では3市のベッドタウンとして発展し、人口・総世帯数も増加傾向にあります。



奥入瀬川からの風景

### ●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				年齢不詳	総世帯数 (戸)
			15歳未満	15～64歳	65歳以上			
現在	83.89 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	10,423 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,311	5,790	3,231	91	3,570 <small>(H27年国勢調査)</small>	
50年前	82.95 <small>(S43.3.31現在)</small>	10,923 <small>(S40年国勢調査)</small>	3,984	6,460	479	-	2,126 <small>(S40年国勢調査)</small>	

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	5,378 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,105	1,335	2,904	34	3,560,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	69,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	5,190 <small>(S40年国勢調査)</small>	3,795	408	987	-	1,274,000 <small>(S43年生産農業所得)</small>	- <small>(S43年生産林業所得)</small>

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)		財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
			注工業統計調査は経済センサスに統合	うちその他収入額			
現在	- <small>H29年漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	9,495,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	8,515,680 <small>(H28年経済センサス)</small>	727,090	5,400,000 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.350 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,179 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	- <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	421,100 <small>(S43年商業統計調査)</small>	- <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	148,105 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.310	254 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>





●概況（歴史・基幹産業など）

東北町は、平成17年3月31日旧上北町と旧東北町が合併し「東北町」として町政を施行、現在に至ります。

青森県の太平洋側上北郡の中央に位置し小川原湖に寄り添うように南北に伸びる町です。総面積は326.5km<sup>2</sup>、人口は17,955人（H27国勢調査）となっております。

東部一帯には県内最大、全国でも11番目の面積を誇る汽水湖「小川原湖」があります。宝沼とも呼ばれている小川原湖は漁業、観光、生活面で多くの恵みを与えています。



上空から見た小川原湖

東北町は、古くからこの地域の特性を活かし、農林水産業を基幹産業として、農業では全国有数の生産量を誇る長芋やにんにくをはじめとする根菜類、葉タバコ、水稻などの生産、酪農を主体とする県下有数の規模を誇る畜産が行われるほか、水産業では小川原産大和しじみ（日本地理的表示（GI））やシラウオ、ワカサギ、モズクガニなどの漁が行われ全国有数の漁獲量と発展してきました。また、数多くの源泉を有し豊富な湯量を誇る「いで湯のさと」であり、優れた温泉資源を有効に活用し、多彩で魅力ある観光、交流資源や保健、福祉施設、スポーツ環境なども充実しています。

●観光・物産紹介



千本桜が続く小川原湖公園周辺

東北町の観光は、「湖といで湯のさと」をキャッチフレーズに小川原湖と豊富に湧き出る温泉を拠点とした滞在型観光を目指しています。

小川原湖公園、わかさぎ公園は観光地、避暑地として利用されています。小川原湖公園では春に千本桜の下での観桜会やへら鮎釣り、夏は両公園ともにキャンプ場として最適で湖水浴やしじみ採など家族で楽しむことができます。また、小川原湖公園では湖水祭り花火大会、わかさぎ公園ではマラソン大会が開催され、県内外から大勢のランナーなどで賑わいます。秋から冬にかけては多くの野鳥の姿も観察することができ、冬は湖面が凍結するとわかさぎの穴釣りを楽しむことができます。

特産品ではシラウオやワカサギの佃煮・笹焼き、シジミ貝の真空パック、モズクガニの缶詰は通年のお土産として人気を集めています。その他はちみつ、南部せんべい、野菜加工品、チーズ、ハンズハムといった特産品もラインナップされています。

●地勢データ

東北町は青森県の東部、上北地方のほぼ中央に位置し、300km<sup>2</sup>を超える広大な面積で八甲田山系の山々から続く丘陵地や台地が大部分を占め、七戸川、砂土路川などの河川沿いに山林、原野、田畑が約70%を占める町です。また、空の玄関口三沢空港、東北縦貫自動車道八戸線、みちのく有料道路へのアクセスにも恵まれており町の中心に青い森鉄道小川原駅、上北町駅、乙供駅、千曳駅の四つの駅を有しています。

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)
			15歳未満	15~64歳	65歳以上	年齢不詳	
現在	326.50 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	17,955 <small>(H27年国勢調査)</small>	2,008	9,844	6,050	53	5,974 <small>(H27年国勢調査)</small>
50年前	旧東北町	13,951 <small>(S43.3.31現在)</small>	5,385	7,978	588	-	2,464 <small>(S40年国勢調査)</small>
	旧上北町	11,125 <small>(S43.3.31現在)</small>	3,793	6,757	575	-	2,080 <small>(S40年国勢調査)</small>
	計	25,076	9,178	14,735	1,163	-	4,544 <small>(S40年国勢調査)</small>

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	9,004 <small>(H27年国勢調査)</small>	2,268	2,087	4,567	82	6,432,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	213,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	旧東北町	5,042	392	1,123	-	1,927,102 <small>(S43年生産農業所得)</small>	1,001,329 <small>(S43年生産林業所得)</small>
	旧上北町	3,674	290	1,231	-	1,828,707 <small>(S43年生産農業所得)</small>	240,190 <small>(S43年生産林業所得)</small>
	計	8,716	682	2,354	-	3,755,809	1,241,519

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)		財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
			うちその他収入額	注工業統計調査は経済センサスに統合			
現在	1,564,898 <small>H28年漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	15,156,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	9,605,100 <small>(H28年経済センサス)</small>	1,848,780	10,784,000 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.280 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,160 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	旧東北町	705,430 <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	705,430 <small>(S43年商業統計調査)</small>	-	-	-	225 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	旧上北町	55,791 <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	1,131,890 <small>(S43年商業統計調査)</small>	251,800 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	189,345 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	256 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	計	1,837,320	1,837,320	251,800	-	189,345	-

●概況（歴史・基幹産業など）

久慈市は、岩手県北東部の沿岸に位置し、東側は太平洋に面した海岸段丘が連なり、西側は、日本一を誇る美しい白樺林と久慈溪流が四季を通じて色とりどりの姿を織り成します。

久慈市の起源は出土した石器や土器、遺跡などから1万年以上前の石器時代に遡るものと推定されています。

また、古くから琥珀の産地として知られ、遠く奈良の都まで運ばれ装飾品の一部や貴石として扱われていたほか、江戸時代には、砂鉄、馬、海産物の主要な産地として栄え、明治維新以降になると、海産物、製鉄、木材、木炭などの産業活動が活発となりました。

昭和29年に2町5村が合併して久慈市が誕生し、平成18年3月6日には、旧久慈市と旧山形村が合併し、現在の久慈市に至ります。

これまで、海洋を活かした産業振興、港湾の整備、企業誘致及び環境施策の充実などの取組を進めてきたほか、平成25年のNHK連続テレビ小説「あまちゃん」の全国的な人気を機に、観光振興による賑わいのあるまちづくりを推進するため、地域資源を活かした観光誘客、交流人口の拡大に取り組んでいます。



白樺美林

●観光・物産紹介

海と山と豊かな自然環境に恵まれている久慈市は、日本一の面積を誇る白樺美林や東北で唯一行われる闘牛大会、久慈溪流など雄大な自然が織り成す素晴らしい風景に満ちあふれています。

また、海岸部は三陸復興国立公園に指定されており、特に小袖海岸の北限の海女は「あまちゃん」で一躍有名になりました。久慈国家石油備蓄基地に隣接する久慈地下水族科学館「もぐらんぴあ」は、東日本大震災からの被災を乗り越え、平成28年にリニューアルオープンを果たし、「学ぶ・考える・体験する」水族館として市の観光拠点となっています。

久慈市の最大のイベントである久慈秋まつりは、1360年代に端を発し、華麗かつ勇壮な手づくり山車と威勢のよい神輿の合同運行は、県北地方最大のスケールを誇ります。

特産品では、国内最大の産地である琥珀が有名で、久慈琥珀博物館は国内で唯一の琥珀専門の博物館です。さらには、小久慈焼、短角牛、まめぶ汁、南部せんべい、山のきぶどう、海女の磯汁、ぶすのこぶ、黒豆ゼリー、福来など物産も豊富であるほか、故三船久蔵十段生誕の地として知られる柔道のまちであり、三船十段記念館では貴重な資料などが展示してあります。



●地勢データ

岩手県北上高地の北東部に位置し、東側は太平洋を望み、西側は北上高地の北端部にあたります。また、東流する久慈川・長内川などの河川が北上高地を開析し、急峻な溪谷を形成しながら太平洋に注いでいます。

総面積624km<sup>2</sup>のうち森林面積が86%（536km<sup>2</sup>）を占めており、平庭高原の白樺林や久慈溪流は久慈平庭県立自然公園に指定されています。

気象は、太平洋に面していることもあり、海洋性気候と内陸性気候の両方の気象状態を併せ持ち、夏季にはヤマセ（偏東風）の影響を受けることが多く、比較的冷涼な気候で、冬季は比較的温暖ですが、北西の季節風が強く、春先にはフェーン現象も見られます。

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)	
			15歳未満	15~64歳	65歳以上	年齢不詳		
現在	623.50 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	35,642 <small>(H27年国勢調査)</small>	4,505	20,544	10,527	66	14,256 <small>(H27年国勢調査)</small>	
50年前	旧久慈市	325.66 <small>(S43.3.31現在)</small>	38,374 <small>(S40年国勢調査)</small>	13,428	22,753	2,193	-	8,259 <small>(S40年国勢調査)</small>
	旧山形村	295.05 <small>(S43.3.31現在)</small>	6,572 <small>(S40年国勢調査)</small>	2,778	3,402	392	-	1,228 <small>(S40年国勢調査)</small>
	計	620.71	44,946	16,206	26,155	2,585	-	9,487

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	17,134 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,607	4,852	10,626	49	2,648,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	1,030,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	旧久慈市	16,785 <small>(S40年国勢調査)</small>	7,932	3,741	5,112	-	-
	旧山形村	2,940 <small>(S40年国勢調査)</small>	2,209	334	397	-	-
	計	19,725	10,141	4,075	5,509	-	0

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)	うちその他収入額	財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
現在	2,055,416 <small>平成29年久慈市産魚市場取扱高</small>	57,159,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	44,893,810 <small>(H28年経済センサス)</small>	1,802,460	22,585,452 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.410 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,821 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	旧久慈市	199,173 <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	7,606,200 <small>(S43年商業統計調査)</small>	2,408,230 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	1,309,800 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.239 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	旧山形村	-	197,650 <small>(S43年商業統計調査)</small>	107,670 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	171,050 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.100 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	計	199,173	7,803,850	2,515,900	-	1,480,850	-



●概況（歴史・基幹産業など）

平成18年1月1日に旧種市町と旧大野村の町村合併により、新しい町としてスタートを切った「洋野町」。大いなる恵みをもたらす海と雄大な緑の高原が一つになった理想的な組み合わせは、洋野町ならではの魅力です。

種市地域は、明治31（1898）年にヘルメット式潜水技術が伝授されて以降、「南部もぐり」発祥の地として全国に知られています。県立種市高校には潜水士を養成する全国唯一の海洋開発科が設置され、南部もぐりの伝統を引き継ぎながら世界にはばたく若人を育てており、その潜水士たちは全国の海底土木工事や海難救助、沈没船解体まで幅広く手掛け、海外でも活躍しています。

大野地域には、「一人一芸の里」構想から生まれ、特産品となった「大野木工」があります。北上高地に育つアカマツやケヤキなどを素材にしており、手作りの器は木目の美しさや木のぬくもりを感じる工芸品として全国的に高い評価を得ています。



●観光・物産紹介

○種市海浜公園

白い砂浜が広がる海水浴場。夏には海水浴やサーフィン・ビーチサッカー・ビーチバレーなどを楽しむ多くの人で賑わいます。また、7月中旬には「たねいちウニまつり」が開催され、約2万人の方が来場し、特産のウニや天然ホヤを買い求めます。

○おおのキャンパス

道の駅大野、産業デザインセンターをはじめ、木工・陶芸・さき織り・園芸などの工房、農産物直売所、宿泊施設「グリーンヒルおおの」、おおの健康の湯、本州最大規模を誇るパークゴルフ場、動物ふれあい館、ミルク工房、近くには「ひろのまきば天文台」があり、「一人一芸の里づくり」の拠点となっています。

○物産

ウニ、アワビ、天然ホヤ、雨よけハウレンソウ、原木・乾しシイタケ、山ぶどう、牛乳・ヨーグルトなどの乳製品、大野木工、木炭など

●地勢データ

岩手県の北東部に位置し、北は青森県三戸郡階上町、南は久慈市、東は太平洋に面しており、西は九戸郡軽米町に接しています。面積は303.20km<sup>2</sup>で、山林が地域面積の7割を占めています。

海拔100m前後を境として、気温・降水量などに差異が見られ、西部高原地域と東部海岸地域に大別されます。西部高原地域は、夏季は東部海岸地域に比べて気温が4～5℃高く、冬季は積雪が多く、内陸型気候を示しています。一方、東部海岸地域は、海岸気候の影響を受け、春から夏にかけて「ヤマセ（偏東風）」に伴う濃霧が発生するため、湿度が高く日照時間が西部高原地域に比べて短い気象条件化にあります。

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)
			15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳	
現在	302.92 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	16,693 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,781	8,953	5,959	-	5,959 <small>(H27年国勢調査)</small>
50年前	旧種市町	17,318 <small>(S43.3.31現在)</small>	6,237	10,149	932	-	3,306 <small>(S40年国勢調査)</small>
	旧大野村	8,263 <small>(S43.3.31現在)</small>	3,310	4,523	430	-	1,527 <small>(S40年国勢調査)</small>
	計	25,581	9,547	14,672	1,362	-	4,833

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	7,781 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,566	2,348	3,860	7	5,088,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	624,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	旧種市町	5,162 <small>(S40年国勢調査)</small>	918	1,457	-	324,000 <small>(S43年生産農業所得)</small>	235,527 <small>(S43年生産林業所得)</small>
	旧大野村	2,583 <small>(S40年国勢調査)</small>	502	498	-	258,000 <small>(S43年生産農業所得)</small>	- <small>(S43年生産林業所得)</small>
	計	7,745	1,420	1,955	-	582,000	235,527

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)		財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
			工業出荷額	うちその他収入額			
現在	1,183,000 <small>H28年漁港の漁勢調査(水産庁)</small>	9,552,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	4,526,520 <small>(H28年経済センサス)</small>	626,430	10,756,000 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.230 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,451 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	旧種市町	610,330 <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	1,306,710 <small>(S43年商業統計調査)</small>	458,630 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	283,986 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	183 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	旧大野村	- <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	308,210 <small>(S43年商業統計調査)</small>	42,760 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	177,500 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	140 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	計	610,330	1,614,920	501,390	-	461,486	-



# 普代村

昭和62年 加入

●村の花鳥木

はまゆり・うみう・えんじゆ

●庁舎所在地・TEL

〒028-8392  
岩手県下閉伊郡普代村第9地割字銅屋13-2  
TEL 0194-35-2111

## ●概況（歴史・基幹産業など）

普代村には縄文の昔から人が住んでいたことは、村内の遺跡により確認されています。平安の初めには卯子酉神社（現在の鵜鳥神社）の建立の記録があり、中世では永世5（1508）年、馬焼印図の中に「閉伊（北方）ふたい」の記録があり、天正18（1590）年に南部信直の統治下となりました。正保元（1644）年、天保国絵図には「譜代」や「譜代崎」が見えていることから、普代の存在を知ることができます。天保4（1647）年の普代村の石高は畑157.8石であったことが知られ、承応3（1654）年「普代村」の藤島家古文書ではより明確な普代村の記述となっています。その後、南部領の統治下となり、野田代官所の支配を受け、明治維新を迎え、北閉伊郡沼袋戸長役場に属し、明治4（1871）年から下閉伊郡普代村となっています。



黒崎展望台

普代村の産業は、第一次産業の漁業・水産養殖業が大部分を占めています。しかし、昭和47年10月の国道45号全線開通、昭和59年4月の三陸鉄道北リアス線の開通とともに総合的な開発を進めてきました。また、山間地を利用した自然休養村整備事業、農地開発事業、海のだいご味を満喫できる施設の整備など、観光産業にも力を注いでいます。

## ●観光・物産紹介



みちのく潮風トレイル～普代ルート～

普代村は、岩手県の沿岸部に位置し、三陸復興国立公園の雄大な海岸美を誇り、海と山の豊かな自然に包まれた人口2,800人の小さな村です。村の中心部を北緯40度ラインが通ることから、世界に開かれた「北緯40度の地球村」をキャッチフレーズに村おこしを進めています。

三陸復興国立公園を代表とする景勝地・黒崎は、三陸ジオパークジオスポットにも認定され、高さ150mに及び切り立った断崖が連続し“海のアルプス”と呼ばれるダイナミックな景観を誇っています。好感度あふれる「黒崎展望台」や「アンモ浦展望台」、白亜の「黒崎灯台」、「国民宿舎くろさき荘」、「黒崎オートキャンプ場」、みちのく潮風トレイルルートともなる「自然遊歩道」のほか、幸せを呼ぶ「カリヨンの鐘」や「北緯40度のシンボル塔」がそびえ立ち、訪れる人々に感動的な出会いを与えてくれます。

## 北緯 40 度東端の地球村ふだい



白い砂と海の青のコントラストが美しい「普代浜」は、陸中では少ない砂浜海岸で、東日本大震災以後「普代浜園地キラウミ」として生まれ変わり、ビーチバレーボール大会や各種催しなどにより多くの観光客で賑わいを見せます。

また、黒崎沖は世界三大漁場・三陸漁場の心臓部といわれ、資源の豊富な漁場として知られており、特産品のサケ、コンブ、ワカメはその品質や味がいいことで「普代サーモン」、「普代のすき昆布」、「普代の塩蔵ワカメ」として全国的に高い評価が得られています。

## ●地勢データ

普代村は、岩手県北部海岸に位置し、下閉伊郡の最北端にあります。東方一帯は太平洋に面し、南は田野畑村、北は九戸郡野田村、西は下閉伊郡岩泉町と境界を接し、北緯39度58分～40度04分、東経141度48分～141度57分に位置し、東西約9km、南北約12km、総面積69.66km<sup>2</sup>の人口約2,800人の小さな村です。

太平洋に臨む沿岸地区は、標高約150mの海岸段丘が連なり、わが国随一の景観、三陸復興国立公園の黒崎・北山崎を控え、この公園を代表する豪壮雄大な断崖絶壁が連続し、絶景の一語に尽きる男性的な自然美をなしています。また、黒崎灯台から望む黒崎沖は、三陸漁場の心臓部ともいわれ、資源の豊富な漁場として知られています。山間部は、北上山系が連なり、木材をはじめ「山の幸」も豊富で、特に山間部一帯の地下資源、大理石、石灰岩、マンガンの埋蔵量は無尽蔵といわれています。

## ●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)
			15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳	
現在	69.66 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	2,795 <small>(H27年国勢調査)</small>	275	1,478	1,042	-	1,103 <small>(H27年国勢調査)</small>
50年前	71.23 <small>(S43.3.31現在)</small>	4,796 <small>(S40年国勢調査)</small>	1,773	2,760	263	-	862 <small>(S40年国勢調査)</small>

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	1,407 <small>(H27年国勢調査)</small>	273	453	677	4	128,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	88,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	2,241 <small>(S40年国勢調査)</small>	1,568	246	427	-	152,562 <small>(S43年生産農業所得)</small>	118,757 <small>(S43年生産林業所得)</small>

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)	うちその他収入額	財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
現在	1,428,620 <small>(H29年漁業水揚げ額(各自治体別))</small>	3,337,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	4,566,020 <small>(H28年経済センサス)</small>	1,309,230	2,747,000 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.150 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,884 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	214,034 <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	477,440 <small>(S43年商業統計調査)</small>	58,020 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	245,718 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.080	179 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>



●村の花鳥木

はまなす・せきれい・  
くろまつ

●庁舎所在地・TEL

〒028-8201  
岩手県九戸郡野田村大字野田20-14  
TEL 0194-78-2111

### ●概況（歴史・基幹産業など）

野田村は、明治維新後、九戸県に属し、さらに八戸県、三戸県、江差県、盛岡県と変遷をたどり、明治5年には岩手県に編入、同22年の市町村制の実施に伴い、野田、玉川両村が合併して野田村となりました。

古くから野田村は塩の生産地として、遠くは秋田県の鹿角まで運んでいた歴史があり、牛に塩を載せて歩いたその道は「野田塩ベコの道」と呼ばれ、今も歩くイベントなどに活用されています。基幹産業である農業は、村のブランドポーク「南部福来豚（なんぶふくぶた）」やブロイラーなどの畜産業と、「ハウレンソウ」や「シイタケ」の栽培のほか、近年は質の高い「山ぶどう」を使ったワインの醸造や加工品の開発が行われています。

また、漁業は沿岸漁業であり、サケ、アワビ、ウニ、ホタテガイ、コンブ、ワカメ増養殖など栽培漁業が中心に営まれています。



荒海ホタテ

### ●観光・物産紹介

四方を海と山に囲まれる野田村は、「のだ塩」や「荒海ホタテ」、「山ぶどう」など、海と山の幸に恵まれ、村が誇る特産品として、その価値を高めています。

ミネラル豊富な天然塩「のだ塩」は、古くから海水を煮詰める「直煮製塩（じきにせいえん）」により作られてきました。素材の美味しさを引き出すまろやかな風味が特徴で、どんな料理にもあう「のだ塩」は、歴史と豊かな自然が育んだ村を代表する逸品です。

外洋に面していることから潮通しがよく、水質が綺麗に保たれている野田湾では、平成26年に地元漁師を中心に結成された「荒海団」が手間ひまをかけ、この地域に伝わる養殖法で育てた「荒海ホタテ」のほか、市場で高評価を得ている「荒海ワカメ」などが養育されています。特に荒海ホタテは肉厚な身や弾力のある貝柱、雑味のない旨味が凝縮されており、県内外から選ばれる地域ブランドとして確立され、平成29年には「地理的表示（GI）保護制度」に登録されています。

雨や雪が少なく、ヤマセが吹く沿岸の気候を生かし、糖度を自生栽培の約1.5倍まで高めた山ぶどうは、ジュースやジャム、お菓子に使われるほか、マリンローズ野田玉川敷地内に新たに涼海（すずみ）の丘ワイナリーが整備され、全国でも数少ない山ぶどうワインの生産・流通に弾みをつけています。

工芸品では、野田の土がもつ素朴な質感とシンプルで洗練されたデザインの「のだ焼」、国内で随一の産出を誇る、高貴な輝きを発する「マリンローズ（バラ輝石）」は、お土産にも最適で、見学・体験もできることから旅を彩る楽しい時間を過ごすことができます。

## 北リアスの砂浜に魅せられて



素材、生産者、工場も野田村産。  
「涼海の丘ワイナリー」の絶品ワイン



十府ヶ浦公園内に建立された、後世へ教訓を伝える  
「東日本大震災大津波記念碑」

### ●地勢データ

野田村は、岩手県の沿岸北部にあり、北部及び西部は久慈市と、南部は普代村及び岩泉町と境界を接し、東西11.3km、南北13.8km、総面積80.80㎡の小さな村です。

地形は、南西の村境部に海拔813.9mの男和佐羅比山を最高峰とした標高600～800mの山並みが連続しており、北東方向へと高度を減じてわずかに平野をみる臨海峡谷型です。また、三陸復興国立公園の一部で、延長3.5kmの砂浜が続く十府ヶ浦が海岸部に位置しています。

気候は、夏季に海流の影響によるヤマセ（偏東風）が発生し、冷涼湿潤な地帯ですが、冬季は比較的温暖です。

降水量は、年間平均1,000～1,200mmの少雨域で、積雪量は比較的少ないですが、春先に大雪をみることがあります。

### ●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)
			15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳	
現在	80.80 <small>(国土地理院公表値、H29.10.1現在)</small>	4,149 <small>(H27年国勢調査)</small>	434	2,261	1,452	2	1,516 <small>(H27年国勢調査)</small>
50年前	80.47 <small>(S43.3.31現在)</small>	5,631 <small>(S40年国勢調査)</small>	2,208	3,040	383	-	1,223 <small>(S40年国勢調査)</small>

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	1,986 <small>(H27年国勢調査)</small>	298	600	1,085	3	376,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	82,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	2,533 <small>(S40年国勢調査)</small>	1,507	473	553	-	421,496 <small>(S43年生産農業所得)</small>	968,008 <small>(S43年生産林業所得)</small>

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)	うちその他収入額	財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
現在	541,947 <small>H29年漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	3,085,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	573,010 <small>(H28年経済センサス)</small>	-	4,152,146 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.180 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,892 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	150,011 <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	377,440 <small>(S43年商業統計調査)</small>	75,940 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	142,339 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.160	213 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>



●概況（歴史・基幹産業など）

二戸市は、平成18年に二戸市と浄法寺町が合併し、現在に至っています。

二戸市の基幹産業は農業であり、漆、葉たばこ、若鶏、りんごなどは、全国有数の産地として知られています。中でも漆は、日本一の生産量を誇り、国産漆の約7割を生産しています。また、量のみならず、その高い品質も認められており、日光東照宮や中尊寺など、世界遺産や国指定重要文化財の修復にも使われています。その浄法寺漆をふんだんに使用したうるわしいほどの光沢を放つ浄法寺塗も人気で、国内外から脚光を集めています。



九戸城跡

●観光・物産紹介

○金田一温泉

かつて南部藩の湯治場だったことから「侍の湯」と呼ばれ、その姿を見たり、不思議な体験をした人は幸運に恵まれるという、座敷わらし伝説が残ることで有名です。

○国史跡九戸城跡

戦国の武将、九戸政実が豊臣秀吉と天下統一最後の合戦を繰り広げた地として知られています。平成29年には、「続日本100名城」にも選出されました。

○八葉山天台寺

およそ1,300年の歴史を誇る東北の名刹・天台寺は、瀬戸内寂聴師が名誉住職を務めることでも知られています。

○折爪岳

夏には、東北最大級100万匹のヒメボタルが群舞する様子を見ることができます。

○特産品

果物（さくらんぼ、ブルーベリー、りんご）、3大ミート（豚・鶏・牛）、南部せんべい、はちみつ、雑穀、南部板麩、地酒、どぶろく、浄法寺塗、木工芸品

●地勢データ

二戸市は、岩手県の北端に位置し、東は軽米町及び九戸村、南は一戸町、西は八幡平市、北は青森県三戸町、南部町及び田子町に隣接しており、主要各地への距離は、県都盛岡市まで南へ約80km、青森県八戸市まで北へ約40kmとなっています。

二戸市の地勢は、西方に奥羽山脈、東方に北上山地が縦走し、折爪岳、稲庭岳など標高700～1,000m前後のなだらかな山々と丘陵地に占められており、市内を南北に流れる馬淵川の河岸段丘に沿って市街地が形成されています。

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)	
			15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳		
現在	420.42 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	27,611 <small>(H27年国勢調査)</small>	3,131	15,264	9,171	45	10,670 <small>(H27年国勢調査)</small>	
50年前	旧福岡町	- <small>(S43.3.31現在)</small>	24,262 <small>(S40年国勢調査)</small>	7,358	15,196	1,708	- <small>(S40年国勢調査)</small>	5,687 <small>(S40年国勢調査)</small>
	旧金田一村	- <small>(S43.3.31現在)</small>	6,311 <small>(S40年国勢調査)</small>	2,116	3,780	415	- <small>(S40年国勢調査)</small>	1,374 <small>(S40年国勢調査)</small>
	旧浄法寺町	183.24 <small>(S43.3.31現在)</small>	8,727 <small>(S40年国勢調査)</small>	2,903	5,232	592	- <small>(S40年国勢調査)</small>	1,664 <small>(S40年国勢調査)</small>
	計	-	39,300	12,377	24,208	2,715	-	8,725

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)	
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業			
現在	15,637 <small>(H27年国勢調査)</small>	2,035	4,250	9,295	57	6,165,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	446,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>	
50年前	旧福岡町	14,580 <small>(H27年国勢調査)</small>	2,734	3,792	7,972	82	10,563,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	493,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
	旧金田一村	11,608 <small>(S40年国勢調査)</small>	5,606	1,907	4,093	2	- <small>(S43年生産農業所得)</small>	- <small>(S43年生産林業所得)</small>
	旧浄法寺町	2,743 <small>(S40年国勢調査)</small>	1,478	449	815	1	- <small>(S43年生産農業所得)</small>	- <small>(S43年生産林業所得)</small>
	計	4,178 <small>(S40年国勢調査)</small>	3,120	313	745	-	149,400 <small>(S43年生産農業所得)</small>	- <small>(S43年生産林業所得)</small>

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)		財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
			うちその他収入額	うちその他収入額			
現在	- <small>H29年漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	83,043,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	33,871,790 <small>(H28年経済センサス)</small>	6,713,370	16,040,000 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.360 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,601 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	旧福岡町	- <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	- <small>(S43年商業統計調査)</small>	- <small>(S43年工業統計調査)</small>	- <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	-	- <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	旧金田一村	- <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	- <small>(S43年商業統計調査)</small>	- <small>(S43年工業統計調査)</small>	- <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	-	- <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	旧浄法寺町	- <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	833,800 <small>(S43年商業統計調査)</small>	1,259,010 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	30,233 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	1,113 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>
	計	-	-	-	-	-	-



# 一戸町

昭和43年 設立時構成市町村

### ●町の花鳥木

サクラ・ヤマドリ・ナラ

### ●庁舎所在地・TEL

〒028-5311  
岩手県二戸郡一戸町高善寺字大川鉢  
24-9  
TEL 0195-33-2111

### ●概況（歴史・基幹産業など）

一戸の地名の由来は諸説ありますが、平安末期から名馬の産地として名が知られ、その牧場が一から九の戸に分けられたことからといわれています。

一戸町は国道4号の最高地点がある奥中山地区での高原ならではの冷涼な気候を活かしたレタス栽培や酪農、畜産を主とする農業が盛んな町です。

現在の一戸町は、昭和32年11月1日に1町4村（一戸町、浪打村、鳥海村、小鳥谷村、姉帯村）が合併し、平成29年には合併60周年を迎えました。



御所野縄文公園

### ●観光・物産紹介

六つの国指定天然記念物をはじめ、多くの文化財を有し、なかでも御所野遺跡は国内の世界遺産暫定リストに登録され「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界文化遺産登録を目指しています。国内でも珍しい屋根付きトンネル状のカーブを描く木製つり橋、縄文時代のムラや里山の景観を復元した公園は、まるでタイムスリップしたかのような気分盛り上げてくれます。景観に配慮された博物館と園内では様々な体験メニューを御用意しております。

町の南西部の奥中山高原、高森高原は自然景観に恵まれ、四季を通じてお楽しみいただける観光スポットです。標高1,018mの西岳に広がる全11コース、総滑走距離10,000mの壮大なゲレンデは初級者から上級者まで御満足いただけます。キッズエリアも用意され、家族連れにも安心してお越しいただけます。遊んだあとはナトリウム炭酸水素塩泉の奥中山高原温泉へお運びください。近隣のダム湖では氷上ワカサギ釣りも楽しめます。夏季にはピクニックやキャンプ、プラネタリウムに天文台など遊び方は多彩です。

特産品には古くから地域に伝わるスズタケを用いた鳥越の竹細工、匠の技が感じられる美しい組子細工の木工品、ブランドさくらんぼ「夏恋」、奥中山高原産のレタスや乳製品などがあり、奥中山高原温泉に隣接のショップでお求めいただける地元産生乳使用のジェラートもお勧めです。

## 白と緑のエッセイ



地元産生乳使用のジェラート



鳥越の竹細工

### ●地勢データ

岩手県内陸北部に位置し、北上山地と奥羽山脈に囲まれ、南西部に位置する標高1,018mの西岳を頂点に、北に傾斜する丘陵地がほとんどを占めています。

総面積300.03km<sup>2</sup>のうち、山林・原野が61%を占める高原の町です。また、県内第二の大河・一級河川馬淵川が町のほぼ中央部を北に向かって貫流し、市街地はその河岸段丘上に発達しています。

東西の中央を国道4号とIGRいわて銀河鉄道線が縦断し、県都盛岡市からは65km、青森県八戸市からは50kmの距離にある世帯数4,844世帯、人口12,919人（平成27年国勢調査）の町です。

### ●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)
			15歳未満	15~64歳	65歳以上	年齢不詳	
現在	300.03 <small>(国土地理院公表値、H29.10.1現在)</small>	12,919 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,211	6,879	4,829	-	4,844 <small>(H27年国勢調査)</small>
50年前	298.58 <small>(S43.3.31現在)</small>	26,581 <small>(S40年国勢調査)</small>	10,352	14,856	1,373	-	5,050 <small>(S40年国勢調査)</small>

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	6,229 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,271	1,587	3,359	12	3,689,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	406,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	11,435 <small>(S40年国勢調査)</small>	6,798	1,490	3,145	-	- <small>(S43年生産農業所得)</small>	- <small>(S43年生産林業所得)</small>

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)	うちその他収入額	財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
現在	- <small>H29年漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	8,914,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	13,493,320 <small>(H28年経済センサス)</small>	504,920	7,834,000 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.330 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,274 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	- <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	2,526,390 <small>(S43年商業統計調査)</small>	1,575,640 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	467,000 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.240	181 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>



**葛巻町**  
昭和46年 加入

●町の花鳥木

はぎ・やまどり・白樺

●庁舎所在地・TEL

〒028-5495

岩手県岩手郡葛巻町葛巻16-1-1

TEL 0195-66-2111

●概況（歴史・基幹産業など）

葛巻町が歴史に現れるのは古代からであり、天正年間（1573～1592年）にはこの地方を葛巻氏が領有していたが、同氏は九戸戦争の功により岩手町一方井に移封し葛巻城は破却され南部氏の領有となり、その後、寛文5年に南部藩から分藩した八戸南部氏の領有するところとなり明治へ至りました。明治の廃藩置県の後、幾多の変遷を経て昭和30年7月15日に岩手郡葛巻町、同江刈村、二戸郡田部村が合併し、岩手郡葛巻町として現在に至っています。



上外川高原

この地方は、古くから牧が作られ、牛馬の産地として知られており、江戸時代には南部藩の塩を運んだ野田街道の宿場町として栄えました。

町の基幹産業は農林業であり、酪農は明治25年にホルスタイン種が導入されて以来、東北一の酪農郷として発展を遂げるなど、120年を超える輝かしい歴史を刻んでいます。林業は、葛巻町人工林の大部分を占めるカラマツを「岩手くずまき高原カラマツ」として、地元産材のブランド化と流通拡大に取り組んでいます。また、地域資源である農林産物を活用し、第3セクターを中心とした乳製品やワインなどが町の特産品として定着しています。

●観光・物産紹介

○「くずまき高原牧場」は、牛の乳搾りや子牛の世話、羊の毛刈りなど酪農の体験学習プログラムが充実しており、高原の四季を楽しめるイベントも盛り沢山です。牧場産の乳製品や牛肉なども楽しめます。

○自然の風味を生かすため、成分無調整、低温殺菌など製法にこだわった「くずまき高原牛乳」をはじめ、優しい味わいの「ヨーグルト」、「アイスクリーム」など本物の味に出会えます。

○「岩手くずまきワイン」は葛巻町特産の山ぶどうを主原料に各種ワインを製造しており、国産ワインコンクールでも数々の賞を受賞しています。

○「ワイン工場」では、厳選された地元産の山ぶどうを使ったワインやジュースが作られており、館内に入ると山ぶどうのフルーティで芳醇な香りに包まれます。森のこだま館では、ふるさとのものづくり体験をゆったりと楽しむとともに、館内の地産地消レストランで葛巻の郷土料理や旬の味が楽しめます。

○「上外川高原」と「袖山高原」には、クリーンエネルギーのまちくずまきのシンボリックな存在である風力発電施設が立ち並び、岩手山や姫神山をはじめ北上山地、奥羽山脈の山並みや八甲田連峰まで見渡せ、夕映えも素晴らしく夜には満点の星空を楽しめます。

北緯40度ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち



くずまき高原牧場まつり



総合運動公園多目的グラウンド  
青少年健全育成ミニサッカー大会

●地勢データ

葛巻町は、北緯40度、岩手県の東北部に位置し、周囲は1,000m級の山々に囲まれた山間地帯で、町の総面積は434.96km<sup>2</sup>と広大で、東西に27.2km、南北に31.3kmの町域を有しています。全体の約86%が森林で占められ面積のほとんどが400m以上と標高が高く、急峻な山岳と渓谷、そしてなだらかな高原が織りなす変化に富む地形を示しています。町を南北に流れる馬淵川は、袖山高原にその源を発して、青森県八戸市で太平洋に注いでおり、馬淵川とその支流沿いに耕地が開け、集落が形成されています。山の斜面は森林として利用され、頂上部の高原は牧場として利用されています。

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)
			15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳	
現在	434.96 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	6,344 <small>(H27年国勢調査)</small>	509	3,136	2,697	2	2,460 <small>(H27年国勢調査)</small>
50年前	433.87 <small>(S43.3.31現在)</small>	15,479 <small>(S40年国勢調査)</small>	6,393	8,164	922	-	2,869 <small>(S40年国勢調査)</small>

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	3,014 <small>(H27年国勢調査)</small>	855	792	1,357	10	2,322,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	553,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	6,849 <small>(S40年国勢調査)</small>	4,686	840	1,323	-	4,520 <small>(S43年生産農業所得)</small>	- <small>(S43年生産林業所得)</small>

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)	うちその他収入額	財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
現在	-	5,148,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	8,224,370 <small>(H28年経済センサス)</small>	207,310	5,273,610 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.150 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,171 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	- <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	1,356,200 <small>(S43年商業統計調査)</small>	711,820 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	377,725 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.130	195 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>





●概況（歴史・基幹産業など）

軽米町は岩手県北端部に位置し、青森県と隣接する人口1万人弱の町です。昭和30年に、軽米町、小軽米村、晴山村の1町2カ村が合併して現在の軽米町が誕生しました。

面積の約8割を山林原野が占める軽米町は、農林業を基幹産業としています。平成20年3月に策定した「軽米町バイオマスタウン構想」に基づき、地域資源循環型農業への取組が進められています。良質な土づくりを基本に生産された飼料用米を、主要産業で



雪谷川ダムフォリストパーク・軽米

ある養鶏の餌に、稲わらを町内で肥育する黒毛和種の餌としています。また、これらの畜産業から排出される畜糞尿は堆肥として土に還すことで有機肥料として利活用できるシステムを構築し、地域内で資源が循環されています。

近年、エネルギー供給源の多様化と、エネルギーの安定供給が全国的に求められるようになりました。なだらかな山林が広がる軽米町は、太陽光発電や風力発電の立地候補地として注目を集めています。町では、平成27年3月に「軽米町再生可能エネルギー発電の促進による農山村活性化計画」を策定し、自然環境の保全と農林業をはじめとする産業振興の両立を基本として再生可能エネルギー推進事業を進めています。現在、発電事業を開始しているものには大規模太陽光発電施設とバイオマス発電施設があります。バイオマス発電所では、プロイラー事業所から出る鶏糞を燃焼し、その蒸気による発電を行っており、前述の事業計画の一部として実現したものです。

●観光・物産紹介

○雪谷川ダムフォリストパーク・軽米

豊かな水をたたえた雪谷川ダムと森林の美しい景観を活かして造られた水と緑の公園です。シンボルの高さ16mの風車や、ダム湖周辺の散策路、キャンプ場や野外ステージのほか、長さ154mの「メモリアルブリッジ」などを備えています。春には、約15万本のチューリップが色とりどりに咲き誇り、「森と水とチューリップフェスティバル」が開催され、多くの観光客でにぎわいます。また、しっとりとした紫陽花が迎える夏のキャンプシーズン、そして紅葉から深まりゆく晩秋まで楽しめます。

○ミレットパーク

折爪岳中腹のなだらかな丘陵風景に大小8棟のコテージが並ぶ滞在型の自然公園です。イベント広場やちびっ子ゲレンデなどの遊び場のほか、食堂・おみやげコーナー・研修室を備えたミレットプラザがあります。

○ハートフル・スポーツランド

野球場や多目的競技場、パークゴルフ場を備えた、緑が美しい総合運動公園です。春に一面を芝桜が埋め尽くすパークゴルフ場は、散策も楽しめます。

○さるなし

町の特産品として栽培している甘酸っぱくさわやかな果実「さるなし」を使用したさるなしドリンク、さるなしの雫（リキュール）、さるなしソフトクリームなどの商品が人気です。

○雑穀（シリアル）

町周辺ではアワ・キビ・アマランサス・ヒエ・エゴマなどの雑穀が盛んに栽培されており、健康食品として近年注目を集めています。

●地勢データ

軽米町は岩手県の北部に位置し、標高550～850mの低い山に囲まれた丘陵地帯です。町の面積の約8割が山林原野で、約1割が農地となっています。1年を通じて降水量が少ないことから干ばつの影響を受けやすく、また夏季には「やませ」の影響から冷害の被害を受けることもあります。全体的には自然環境に恵まれ、豊かな田園生活を送る条件を有しています。

交通面では、町を南北に八戸自動車道が縦断し、軽米I.C.と折爪S.Aが設置されています。二戸市と久慈市を結ぶ国道395号が通り、陸前高田市から八戸市に向かう国道340号が町の西部を通っているほか、国道395号バイパスや広域農道などの道路網が整備されています。

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)
			15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳	
現在	245.82 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	9,333 <small>(H27年国勢調査)</small>	931	5,004	3,398	-	3,318 <small>(H27年国勢調査)</small>
50年前	242.61 <small>(S43.3.31現在)</small>	16,470 <small>(S40年国勢調査)</small>	5,919	9,486	1,065	-	3,222 <small>(S40年国勢調査)</small>

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	4,801 <small>(H27年国勢調査)</small>	1,312	1,311	2,176	2	3,636,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	455,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	7,604 <small>(S40年国勢調査)</small>	5,850	394	1,397	-	1,619,000 <small>(S43年生産農業所得)</small>	- <small>(S43年生産林業所得)</small>

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)	うちその他収入額	財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
現在	- <small>H29年度漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	12,464,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	9,300,910 <small>(H28年経済センサス)</small>	1,830	6,319,000 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.230 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,256 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	- <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	1,415,170 <small>(S43年商業統計調査)</small>	107,210 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	378,166 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.165	248 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>

●概況（歴史・基幹産業など）

九戸村は、岩手県北部に位置し、総面積134.02km<sup>2</sup>で、70%以上が山林原野で占める人口約5,900人の農山村です。

藩政時代は長い間南部藩に属し、9カ村に分けられていましたが、その後八戸藩に代わり、明治の廃藩置県によって盛岡県となりその後岩手県と改称されました。その間には9カ村が江刺家村、伊保内村、戸田村に統合され、昭和30年4月3カ村が合併し九戸村となり今日まで至っています。



折爪岳山頂からのパラグライディング

このような変遷をたどりながら、風土、経済は県都盛岡市より隣県の八戸市の影響を大きく受けています。

基幹産業は農林畜産業で、水稻・葉たばこ・野菜・花卉・養鶏・酪農・養豚などの複合経営が多く、特に養鶏（ブロイラー）は岩手県下で1位の生産額を誇ります。

また、村内の主な事業所は約230事業所で116億円余りの出荷額となっています。東北新幹線や八戸自動車道の開通に併せて九戸インター工業団地を整備し、周辺地区も含め4社が操業中です。

●観光・物産紹介

○観光

北上山系の最北端に位置する折爪岳は標高852mで、岩手県北随一の眺望を誇り、県立自然公園に指定されています。九戸I.C.から近く、頂上まで車で山岳ドライブを楽しむことができます。途中に五つの滝があり、遊歩道も整備してあります。山麓の都市農村交流施設「コロポックルランド」でBMXの体験やキャンプ場などで野外活動を楽しむことができます。また、折爪山麓はヒメボタルの一大生息地となっており、夏の夜のひととき、幻想的な光の舞を見せてくれます。

「九戸の乱」で知られる戦国時代の武将、九戸政實は郷土の英雄として今でも地元の人々に敬愛され、長興寺、九戸神社、首塚など政實公ゆかりの史跡が点在しています。

○物産

伝統工芸では、職人が作る南部箒、南部箆が有名です。特産品の甘茶は低農薬で安全性も高く、砂糖の200倍の甘さでありながら低カロリー・ノンカフェインの食材として注目されており、国内有数の産地となっています。これらの特産品のほか、新鮮な野菜やワラビ・ゼンマイなどの山菜、茸類、ヤマブドウを使ったジュースやソフトクリームは、九戸I.C.を降りてすぐ、道の駅「おりつめ」内の産直施設「オドデ館」で購入できます。

四季彩・村まるごと自然公園



●地勢データ

九戸村は北上山系の北端に位置し、東は久慈市、西は二戸市と一戸町、南は葛巻町、北は軽米町に接している東西9.7km、南北に19.4kmと南北に長い形状を呈し、中央部を南北に縦断する瀬月内川を中心に、東西の500～600mの山々とその山脚から瀬月内川に向かう波状丘陵地、小起伏山地に挟まれた盆地状の形をしています。標高265～400m、気候は平均気温9.5℃、降水量は733mm前後で、比較的冷涼な気候です。



甘茶畑



甘茶の花



甘茶製品

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)
			15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳	
現在	134.02 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	5,865 <small>(H27年国勢調査)</small>	625	2,962	2,278	-	1,990 <small>(H27年国勢調査)</small>
50年前	141.60 <small>(S43.3.31現在)</small>	9,437 <small>(S40年国勢調査)</small>	3,449	5,381	607	-	1,934 <small>(S40年国勢調査)</small>

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	2,957 <small>(H27年国勢調査)</small>	954	720	1,279	4	3,175,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	202,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	4,529 <small>(S40年国勢調査)</small>	3,282	402	845	-	- <small>(S43年生産農業所得)</small>	- <small>(S43年生産林業所得)</small>

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)		財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
			※工業統計調査は経済センサスに統合	うちその他収入額			
現在	- <small>H29年度漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	3,788,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	11,632,590 <small>(H28年経済センサス)</small>	36,030	4,385,440 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.180 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,195 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	- <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	716,620 <small>(S43年商業統計調査)</small>	236,890 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	222,856 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.143	- <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>

●概況（歴史・基幹産業など）

特別史跡大湯環状列石をはじめとして、縄文時代の遺跡が市内のいたる所で発見されており、およそ5～6千年前には既に人々が住み着いていたといわれています。

藩政時代には南部藩に属していましたが、明治4年に秋田県に編入された後、明治22年の市制・町村制の施行、昭和31年の町村合併などを経て、昭和47年に花輪町、十和田町、尾去沢町、八幡平村の4町村が合併し、現在の鹿角市が誕生しました。



花輪ばやし（ユネスコ無形文化遺産）

農業のほか、二つのユネスコ無形文化遺産や、十和田八幡平国立公園を活かした観光業、製造業を成長産業と捉え、外貨を稼ぐ産業力の強化を軸に、各種施策を推進しています。

●観光・物産紹介

十和田八幡平国立公園の大自然に囲まれ、秋田県の味覚を代表する「きりたんぼ」発祥の地として全国に知られています。郷土料理として食されている「きりたんぼ」ですが、発祥はこの地で活動していたマタギ（猟師）の携帯食であるとされ、そこから県内全域に広まったと伝えられています。

また、民俗文化財では、豪華絢爛な屋台が街中を練り歩く「花輪ばやし」や、伝承から1,300年の歴史を刻む「大日堂舞楽」の二つがユネスコ無形文化遺産に登録されており、毎年、国内外から多くの観光客が鹿角市を訪れ、市内を賑わせます。このほか、国内有数の鉱山として隆盛した史跡「尾去沢鉱山」が存在するなど、文化遺産が多く残る地域であるといえます。

さらには、女子マラソンの金メダリストを輩出した地であることや、三つのスキー場を有していることなどから、スキーと駅伝のまちとして、毎年数多くの全国大会が開催され、スポーツの分野において全国的な知名度を得ています。

このほか、市民の交流拠点として、平成27年度には市民センターや図書館、文化ホールなどの機能を集約した複合施設「文化の杜交流館コモッセ」がまちなかにオープンし、平成29年度には、大正5年に建築された旧鹿角郡公会堂が「鹿角市歴史民俗資料館」として生まれ変わりました。平成30年度には、「花輪ばやし」の会場にもなる鹿角花輪駅前広場の整備に着手するほか、新国立競技場を設計した建築家、隈 研吾氏がデザインした「道の駅おおゆ」がオープンするなど、新たな魅力の創出にも積極的に取り組んでいます。



●地勢データ

青森、秋田、岩手の県境に位置し、南は八幡平、北は十和田湖の国立公園をひかえ、これに連なる緑の山々と清れつな河川に恵まれ、その自然の豊かさは「青垣をめぐらす鹿角」（石川啄木）の言葉で象徴されています。河川の流域は稲作や転換作物の栽培に、台地は北限の桃などの樹園地や畑地に活用されています。面積は707.52km<sup>2</sup>で、東西の長さは20.1km、南北は52.3kmに及んでいます。年間平均気温は10℃前後、年間降水量は1,600mm程度であり、積雪期間は12月から3月までです。

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)
			15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳	
現在	707.52 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	32,038 <small>(H27年国勢調査)</small>	3,439	16,752	11,793	54	11,508 <small>(H27年国勢調査)</small>
50年前	旧花輪町	117.17	20,507	6,007	13,333	1,167	4,454
	旧十和田町	305.31	17,697	5,310	11,075	1,312	3,844
	旧尾去沢町	27.89	9,771	2,914	6,470	387	2,295
	旧八幡平村	256.75	8,616	2,545	5,444	627	1,651
	計	707.12 <small>(S43.3.31現在)</small>	56,591 <small>(S40年国勢調査)</small>	16,776	36,322	3,493	12,244 <small>(S40年国勢調査)</small>

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	15,637 <small>(H27年国勢調査)</small>	2,035	4,250	9,295	57	6,165,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	446,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	旧花輪町	9,343	3,054	2,670	3,619	0	-
	旧十和田町	8,920	5,011	1,396	2,508	5	-
	旧尾去沢町	3,827	346	2,294	1,186	1	-
	旧八幡平村	4,678	3,073	539	1,066	0	-
	計	26,768 <small>(S40年国勢調査)</small>	11,484	6,899	8,379	6	3,371,000 <small>(S43年生産農業所得)</small>

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)		財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
			工業出荷額	うちその他収入額			
現在	- <small>H29年漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	39,844,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	21,694,680 <small>(H28年経済センサス)</small>	278,770	17,615,303 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.320 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,171 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	旧花輪町	-	262,610	-	-	-	-
	旧十和田町	-	-	43,073	-	-	-
	旧尾去沢町	-	-	6,372	-	-	-
	旧八幡平村	-	-	29,745	-	-	-
	計	-	12,455,000 <small>(S43年商業統計調査)</small>	3,418,000 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	2,678,470 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.240



**小坂町**  
昭和54年 加入

●町の花魚木

アカシア・ヒメマス・  
ベニヤマザクラ

●庁舎所在地・TEL

〒017-0292  
秋田県鹿角郡小坂町小坂字上谷地  
41-1  
TEL 0186-29-3901

●概況（歴史・基幹産業など）

小坂町の歴史は古く、約6千年前の縄文前期から人間の生活が営まれ、この時代において既に各地域との交流があったと見られています。また、江戸時代には南部藩に属していましたが、明治4年の廃藩置県で現在の鹿角市と共に秋田県に編入されました。明治時代に入ってから、鉱山の企業城下町として文化や経済が発展し、康楽館や小坂鉱山事務所に代表されるような時代の先端を行く文明が取り入れられました。



十和田湖

昭和40年代後半～50年代にかけて急激な円高や鉱量の枯渇により、鉱山の合理化や閉山が相次ぎ、平成6年には町内にあった全ての鉱山が閉山となりました。鉱山が閉山してからは、培った製錬技術を活かし、都市型鉱山の金属リサイクル産業へ転換が図られ、その技術の高さから国内における環境リサイクル産業の拠点となっています。

また、環境リサイクル産業の他に観光産業や環境保全型農業、資源循環型農業など地域の特性を活かしながら、特徴的な産業の振興を実現してきました。

●観光・物産紹介

○十和田湖

湖面が青藍色の「神秘の湖」として知られ、四季の彩りを見せてくれます。特に新緑と紅葉シーズンの美しい自然のコントラストは必見です。

○康楽館

明治43年に建てられた和洋折衷造りの木造芝居小屋。今なお、現役の芝居小屋として賑わい、年1回の歌舞伎大芝居は人気役者による重厚かつ風格のある演技が楽しめます。

○小坂鉱山事務所

洋館の意匠を凝らして築かれた明治の建物。衣装のレンタルも行っており、より明治の雰囲気を楽しむことができます。

○小坂鉄道レールパーク

旧小坂鉄道の線路と設備を利用したレール遊びの複合施設。全国でもめずらしい貴重な車両の見学や車両運転が体験できます。

十和田湖の自然・明治期の空間にいざなう鉱山文化のまち



○赤煉瓦倶楽部

明治時代の配電所を移築復原し、内部はカフェとして利用されています。

○小坂七滝ワイナリー

平成29年にオープン。地域に根ざしたブドウを使用して本格的な日本ワインを醸造しています。

○小坂町の物産

桃豚、ブドウ、ワイン、アカシアはちみつ、ヒメマス、菜々の油

●地勢データ

小坂町は、北東北3県のほぼ中央、秋田県の北東端に位置しています。東西に21.1km、南北は24.6kmで面積は201.70km<sup>2</sup>です。また、面積の約70%は山林です。

気候は、山間盆地特有の内陸型で、積雪寒冷の地域です。年間平均気温は9.5℃、年間降雨量は1,637mm、平均積雪量56cm平均積雪期間は約100日です。

交通体系は南北に東北自動車道が通っており、整備が進んでいます。

●統計データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	年齢別				総世帯数 (戸)
			15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢不詳	
現在	201.70 <small>(国土地理院公表値 H29.10.1現在)</small>	5,339 <small>(H27年国勢調査)</small>	477	2,631	2,225	6	2,168 <small>(H27年国勢調査)</small>
50年前	178.12 <small>(S43.3.31現在)</small>	15,280 <small>(S40年国勢調査)</small>	4,530	9,836	914	-	3,455 <small>(S40年国勢調査)</small>

	就業人口 (人)	産業別				農業総生産額 (千円)	林業生産額 (千円)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能の産業		
現在	2,397 <small>(H27年国勢調査)</small>	200	713	1,482	2	1,982,000 <small>(H26年度市町村内総生産(農業))</small>	130,000 <small>(H26年度市町村内総生産(林業))</small>
50年前	6,506 <small>(S40年国勢調査)</small>	1,380	3,303	1,821	-	338,000 <small>(S43年生産農業所得)</small>	- <small>(S43年生産林業所得)</small>

	漁業水揚げ額 (千円)	商品販売額 (千円)	工業出荷額 (千円)	うちその他収入額	財政規模 (千円)	財政力指数	一人当たり市町村民所得 (千円)
現在	11,968 <small>H29年漁業水揚げ額(各自治体把握)</small>	3,585,000 <small>(H26年商業統計調査)</small>	21,451,670 <small>(H28年経済センサス)</small>	324,800	4,008,000 <small>(H29年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.300 <small>(H27総務省公表値)</small>	2,683 <small>(H26年度市町村民所得)</small>
50年前	- <small>(S43年漁業水揚げ額)</small>	2,021,820 <small>(S43年商業統計調査)</small>	18,227,990 <small>(S43年工業統計調査)</small>	-	390,680 <small>(S43年度当初一般会計歳出予算)</small>	0.770	670 <small>(S43年度市町村民所得推計)</small>

# 50年の活動史

(歴代総会資料より)

※「構成市町村の紹介」中の統計データにつきまして、統計データがない、若しくは、データ把握が困難な場合は「-」と表記しております。

# 北奥羽開発促進協議会の主な活動成果 ※詳細は次ページからの年表で御確認ください

- 東北新幹線盛岡・青森間の全線フル規格での早期完成
- 八戸駅舎改築事業への財政支援
- 東北縦貫自動車道八戸線の延伸
- 世増ダムの建設
- 青森県へのドクターヘリ2機目導入
- 北東北3県のドクターヘリ広域連携運航
- 岩手・青森県境産業廃棄物不法投棄の早期全量撤去
- 東日本大震災からの復興促進（財政措置の拡充、JR八戸線及び三陸鉄道北リアス線の早期完全復旧、港湾機能の早期復旧など）

# 北東北3県へのドクターヘリ特別要望(活動継続中)の変遷

平成21年3月	青森県	ドクターヘリ運航開始	(基地病院：八戸市立市民病院)
24年1月	秋田県	〃	(基地病院：秋田赤十字病院)
24年5月	岩手県	〃	(基地病院：岩手医科大学附属病院)
24年10月	青森県	2機体制での運航開始	(基地病院：青森県立中央病院)

**平成24年度要望**  
**【要旨】**北東北3県の将来を見据えた医療連携の先駆けとして、ドクターヘリの県境越え運航について、岩手・青森両県で協議の上、早急に実現されたい。  
**【要望先】**岩手県・青森県

平成25年4月1日～ 北東北3県広域連携運航 試行運航開始（自県ヘリ優先要請を原則）

**平成25年度要望**  
**【要旨】**現在の出動要件に関わらず、救命救急現場に向け、より短い時間での到着が可能なドクターヘリの基地病院に対し、円滑に出動要請できるよう運用を柔軟化されたい。  
**【要望先】**岩手県・秋田県・青森県

平成26年10月1日～ 北東北3県広域連携運航 本格運航開始  
 （自県ヘリ優先要請原則堅持の上、自県搭乗医師判断で他県ヘリ出動要請が可能に）

**平成26年度要望**  
**【要旨】**救急要請を受けた消防本部の判断で、柔軟に他県ドクターヘリの出動要請ができるよう、体制を構築されたい。（自県ヘリ優先要請の撤廃）  
**【要望先】**岩手県・秋田県・青森県

**平成27年度要望**  
**【要旨】**救急要請を受けた消防本部の判断で、柔軟に他県ドクターヘリの出動要請ができるよう、体制を構築されたい。（自県ヘリ優先要請の撤廃）※平成26年度と同じ  
**【要望先】**岩手県・秋田県・青森県

**平成28年度要望**  
**【要旨】**救急要請を受けた消防本部の判断で、柔軟に他県ドクターヘリの出動要請ができるよう、体制を構築されたい。（自県ヘリ優先要請の撤廃）※平成26・27年度と同じ  
**【要望先】**岩手県・秋田県・青森県

**平成29年度要望**  
**【要旨】**救急要請を受けた消防本部の判断で、柔軟に他県ドクターヘリの出動要請ができるよう、体制を構築されたい。（自県ヘリ優先要請の撤廃）※平成26～28年度と同じ  
**【要望先】**岩手県・秋田県・青森県

# 1. 昭和24年7月(前身母体)～昭和47年6月

年	西暦	活動	年	西暦	活動
<b>【前身母体】</b>					
昭和24	1949	7月 (仮称)南部地方経済建設協議会の結成準備会 9月 北奥羽経済建設協議会の結成 岩手県：盛岡市、二戸郡、九戸郡 ・三陸沿岸鉄道敷設陳情について ・浄法寺線開通陳情について ・北福岡町-伊保内村-戸田村間に国鉄バス運行方要請について 秋田県：鹿角郡 ・3県県境地帯における交通網の充実促進について ・鹿角地方への有力な産業金融機関の誘致について 青森県：八戸市、三戸郡、上北郡 ・金融機関増強について ・三陸国道新設について ・尻内駅名改称について ・電源開発について ・来満鉄道設置促進について ・上郷村-大湯町間道路改修について	昭和45	1970	2月 陳情（青森県） ・一般県道大野八戸線の整備及び主要地方道昇格について ・軽米町高清水と南郷村市野沢間約9kmの町村道の県道昇格について 3月 陳情（岩手県） ・一般県道大野八戸線の整備及び主要地方道昇格について ・軽米町高清水と南郷村市野沢間約9kmの町村道の県道昇格について 6月 東北縦貫自動車道八戸線(安代-八戸間)の基本計画決定 7月 担当課長会議 8月 昭和45年度 役員会、総会 9月 道路調査(葛巻町-八戸市間) 9月 葛巻町-八戸市間定期バス運行実現に関する協議会 9月 陳情(労働省) ・国立総合職業訓練校設置について 10月 青森県議会通知 ・一般県道大野八戸線の主要地方道への昇格及び路線整備の促進に関する陳情採択について
昭和26	1951	北奥羽開発協議会に改称	昭和46	1971	1月 東北新幹線の基本計画(東京-盛岡間)決定 1月 陸中海岸国立公園の区域変更及び公園計画の決定 3月 大野八戸線等一般県道から主要地方道への昇格路線の決定 3月 国民経済研究会 山田 良夫氏講演会「八戸地域の現状と将来について」 5月 陳情(建設省) ・東北縦貫自動車道八戸線の整備計画の策定と早期着工について 7月 担当課長会議 9月 昭和46年度 役員会、総会 ・岩手県葛巻町の加入 9月 東北縦貫自動車道八戸線建設促進期成同盟会設置 9月 東北新幹線太平洋回り誘致期成同盟会結成 11月 担当課長会議 11月 視察調査(八戸臨海工業地帯、むつ小川原開発予定地、原子力船母港、迷ヶ平観光開発地域、田子町営牧場、北上北岩手開発地域、山形村総合センター、久慈平庭高原、久慈港、国立公園陸中海岸)
昭和29	1954	北奥羽開発協議会(昭和25)の影響により、活動停止			
<b>【当協議会】</b>					
昭和43	1968	3月 北奥羽開発促進協議会設立総会 岩手県：久慈市、二戸郡、九戸郡 青森県：八戸市、三戸郡 9月 昭和43年度 役員会、総会 ・同総会での北奥羽地域の基盤整備促進運動展開の決定を受け、基礎資料作成に着手 ・国鉄八戸線-久慈間廃止反対を決議	昭和47	1972	2月 セミナー参加 ・東北新幹線、高速自動車道と東北の都市造りについて 2月 陳情(盛岡鉄道管理局) ・急行うみねこ号の存続運航について 3月 弘前大学教授 小林 時三郎氏講演会「日本経済の発展段階と地域の諸問題」 4月 福岡町と金田一村が合併、二戸市となる 5月 担当課長会議 5月 東北新幹線太平洋回り誘致促進大会 6月 東北新幹線(起点：盛岡市、終点：青森市)の基本計画決定
昭和44	1969	2月 東北経済連合会 佐藤 吉孝氏講演会「新全国総合開発計画と東北地方」 4月 陳情(岩手県、青森県) ・一般県道大野八戸線の整備及び主要地方道昇格について 4月 「東北開発の基本構想」(東北における大家畜畜産の振興対策に関する提言)(以上、東北経済連合会)の配付 担当課長会議 視察(八戸臨海工業地帯) 6月 昭和44年度 役員会、総会 6月 「新全国総合開発計画」(経済企画協会)の配付 9月 担当課長会議 9月 陳情(八戸土木事務所) ・一般県道大野八戸線の整備及び主要地方道昇格について 10月 視察(新産業都市常盤地区(いわき市)、鹿島臨海工業地帯(茨城県)、利根広域都市(埼玉県)) 11月 森 嘉兵衛氏講演会「北奥羽地域の歴史的個性とその将来」			

## 2. 昭和47年8月～昭和50年8月

年	西暦	活動	年	西暦	活動
昭和47	1972	8月 昭和47年度 役員会、総会 ・青森県百石町及び下田町の加入	昭和49	1974	7月 昭和49年度 理事会、総会 ・部会の設置（総合調整、産業開発、 運輸交通、水資源開発）
		10月 担当課長会議			7月 支部会（久慈支部、二戸支部、八戸 支部において各1回）
		10月 国道45号線開通			8月 支部会（三戸支部）
		10月 北奥羽地域開発基本計画（以下、開 発計画という）策定に伴う資料収集 及び視察調査（国民経済研究協会及 び事務局）※以降、3月まで実施			8月 部会（水資源開発・運輸交通・産業 開発において各1回）
昭和48	1973	11月 北奥羽地域農業振興研究会			9月 陳情（建設省東北地方建設局、日本 道路公団仙台建設局） ・東北縦貫自動車八戸線の早期着工 について
		1月 東北新幹線太平洋回り誘致促進大会			9月 視察（山形県庁、立谷川・天童清池 工業団地、東根大森工業団地、新庄 市（株）東北精密工場）、鶴岡中央工業 団地、酒田臨海工業地帯）
		1月 陳情（建設省） ・東北縦貫自動車八戸線の整備計 画の策定と早期着工について			10月 東北縦貫自動車道（八戸市―一戸町 間）に関し、東北地方建設局から日 本道路公団へ現地事務引継
		3月 陳情（建設省） ・東北縦貫自動車八戸線の整備計 画の策定と早期着工について			10月 陳情（建設省、日本道路公団） ・東北縦貫自動車道（八戸市―一戸町 間）の早期着工及び（安代町―一戸 町間）の整備計画の早期策定につ いて
		7月 担当者連絡会議			10月 支部会（久慈支部）
		8月 昭和48年度 理事会、総会			11月 水資源に関する視察調査（御所ダム、 四十四田ダム、一戸町平糠川地区）
		9月 陳情（全国高速自動車国道建設協議会） ・東北縦貫自動車八戸線の早期着 工について			11月 陳情（青森県） ・五戸町から八戸市に至る道路の新 設について
		10月 担当者連絡会議（地区毎に計6回） ・開発計画について			11月 陳情（岩手県） ・久慈市から二戸市並びに一戸町に 至る道路の新設について
		10月 建設省からの施工命令（日本道路建設公団） ・東北縦貫自動車八戸線 一戸町― 八戸市間42.6kmについて			12月 請願（青森県議会） ・五戸町から八戸市に至る道路の新 設について
		11月 東北新幹線盛岡以北の整備計画区間 決定（盛岡市―青森市間約170km）			・県道十和田・三戸線の大幅な改良 舗装整備について
		12月 開発計画基本構想についての合同会 議（久慈市・二戸市において各1回）			11月 陳情（岩手県） ・久慈市から二戸市並びに一戸町に 至る道路の新設について
昭和49	1974	1月 開発計画基本構想についての合同会 議（八戸市）	昭和50	1975	1月 合同部会（総合調整、産業開発、運 輸交通、水資源開発）
		2月 担当者連絡会議 ・開発計画について			2月 支部長会議
		2月 陳情（岩手、青森両県関係国会議員、 建設省、道路局） ・八戸陸前高田線国道昇格促進につ いて			2月 支部会（八戸支部、二戸支部にお いて各1回）
		2月 開発計画策定委員会会議			3月 地域振興整備公団監事 吉田 達男氏 講演会 「東北地方における工業開発の現状 と将来展望並びに地域振興整備公 団の事業について」
		3月 開発計画の完成			3月 支部会（三戸支部）
		4月 開発計画の配付			5月 水資源に関する視察調査（御所ダム、 四十四田ダム等）
					6月 担当課長会議
					7月 昭和50年度 理事会、総会
					7月 陳情（国鉄盛岡、鉄建公団盛岡） ・東北新幹線鉄道盛岡以北の早期着 工、早期完成及び三陸縦貫鉄道の 早期完成並びに在来線の改良につ いて
					8月 陳情（国鉄仙台）

## 3. 昭和50年8月～昭和52年2月

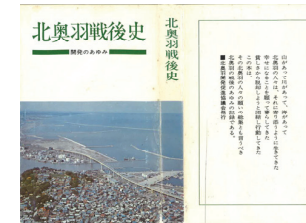
年	西暦	活動	年	西暦	活動
昭和50	1975	8月 陳情（日本道路公団仙台） ・東北縦貫自動車八戸線（一戸町― 八戸市間）の早期着工並びに（安 代町―一戸町間）の整備計画策定同 時着工及び早期完成について	昭和51	1976	7月 支部長会議
		8月 陳情（東北地方建設局） ・治水、利水計画策定のための、地 域内の水需給等の現況調査に関す る指導、助言について			7月 陳情（運輸省、建設省、国鉄公団、 鉄建公団、道路公団） ・東北新幹線盛岡以北の早期着工に ついて
		8月 陳情（青森県） ・馬淵川水系等の総合的治水、利水 計画策定とその実現について			・東北縦貫鉄道の早期完成並びに八 戸線の改良強化及び電化の促進に ついて
		9月 担当課長会議			・国鉄花輪線の改良強化（部分複線 化）及び電化の促進について
		9月 事務打合せ会 ・地域内の治水、利水の現況調査実 施について			・東北縦貫自動車八戸線の早期着 工について
		10月 支部長会議			・東北縦貫自動車道青森線の早期完 成について
		10月 治水、利水の現況調査説明会			・地域内国道の整備促進並びにバイ パスの早期建設及び早期完成につ いて
		11月 支部会議（三戸支部）			7月 陳情（青森県・青森県議会） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促 進について
		11月 産業開発部会及び現況調査 ・地域内産業開発の現況について			8月 説明会 ・久慈支部管内における種市火力発 電所について
		12月 運輸交通部会及び現況調査 ・地域内道路の現況等について			8月 要望（東北地方建設局） ・北奥羽地域の水資源開発に関する 調査実施の指導方について
昭和51	1976	12月 支部会議（八戸支部・久慈支部）			8月 地域内実態調査（財）国民経済研究協会） ・当協議会の圏域変更と経済・社会 の変化に伴う各市町村の対応等に 関する指導助言のため
		1月 支部長会議			8月 支部長会議
		1月 研究会 ・開発計画に対する市町村の対応策 等について			8月 支部会議（久慈支部、二戸支部、八 戸・三戸支部合同、鹿角支部で各1 回）
		2月 支部会議（八戸支部・三戸支部）			9月 調査 ・地域内各市町村別の冷害による稲 作の被害状況について
		3月 支部会議（二戸支部）			9月 調査 ・運輸交通部会及び地域内道路の現 況等について
		4月 支部長会議			10月 産業開発部会及び調査 ・地域内の産業施設並びに稲作の冷 害による被害状況について
		4月 支部長会議及び担当課長会議			11月 陳情（岩手県） ・地域格差の是正及び不況と冷害等 の対策について
		5月 総合調整部会			・北奥羽地域内の基盤整備事業の促 進について
		5月 「治水、利水の現況調査報告書」の 配付			11月 (財)国民経済研究協会 主任研究員 日大講師 永山 利和氏 講演会 「地域開発の現状と今後の問題点」
		5月 日本情報処理開発協会副会長 経済評論家 稲葉 秀氏 講演会 「日本経済の動向と地域開発」			11月 陳情（青森県） ・地域格差の是正及び不況と冷害等 の対策について
		6月 昭和51年度 理事会、総会 ・秋田県鹿角市が加入			昭和52
		7月 陳情（国鉄盛岡、鉄建公団盛岡） ・東北新幹線鉄道盛岡以北の早期着 工、早期完成について			1977
		7月 陳情（国鉄盛岡、鉄建公団盛岡） ・三陸縦貫鉄道の早期完成及び在来 線の改良強化促進について			1月 支部長会議
		7月 陳情（国鉄盛岡、鉄建公団盛岡） ・花輪線の改良強化（部分複線化） 及び電化の促進について			1月 地域内の水資源に関する研修会
		7月 要望（青森県議会） ・三陸縦貫鉄道の早期完成及び八戸 線の改良強化について			2月 支部会議（久慈支部、二戸支部、八 戸支部、三戸支部において各1回）
		7月 日本道路公団仙台建設局八戸調査事 務所開所			
		7月 陳情（日本道路公団仙台、日本道路 公団八戸）			

## 4. 昭和52年3月～昭和53年7月

年	西暦	活動	年	西暦	活動		
昭和52	1977	3月	昭和52	1977	10月		
		4月			陳情（青森県自民党移動政調会） ・地域内の基盤整備事業の促進等について		
		4月			支部長会議	10月	運輸交通部会及び現況調査 ・東北縦貫自動車道の現況について
		4月			支部長会議及び担当課長会議	11月	第三次全国総合開発計画閣議決定
		5月			昭和52年度 役員会、総会	11月	陳情（東北地方建設局、仙台通産局） ・地域内の国道整備及びバイパスの建設促進について
		6月			陳情（青森県、東北地建青森） ・地域内基盤整備事業の促進について ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について ・東北縦貫自動車道の早期着工、完成及び関連事業の促進等について ・三陸縦貫鉄道の早期完成及び在来線の改良強化と仙台-八戸間の直通列車の運行について	11月	陳情（東北地方建設局、仙台通産局） ・地域内の国道整備及びバイパスの建設促進について ・治水、利水等の基盤整備について ・農工団地等への企業誘致について
		6月			陳情（岩手県、東北地建岩手、国鉄盛岡、鉄建公団盛岡） ・地域内基盤整備事業の促進について ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について ・東北縦貫自動車道の早期着工、完成及び関連事業の促進等について ・三陸縦貫鉄道の早期完成及び在来線の改良強化と仙台-八戸間の直通列車の運行について	11月	産業開発部会及び先進地調査 ・盛岡市、紫波町、矢巾町、都南村の農林畜産業及び関連産業等の現状及び将来計画等について
		7月			道路公団仙台建設局八戸調査事務所が工事事務所と改称される	11月	陳情（全国高速自動車道建設協議会、建設省、道路公団） ・東北縦貫自動車道八戸線並びに青森線の早期完成及び関連した諸事業の促進等について ※青森県との合同陳情
		7月			陳情（東北地方建設局、道路公団仙台、国鉄仙台） ・国道の改良整備及びバイパスの建設等について	11月	東北縦貫自動車道八戸線（軽米-九戸間）の中心抗設置工事が発注される
		7月			陳情（建設省、運輸省、国土庁、農林省、国鉄、道路公団、地区内選出国會議員） ・国道の改良整備及びバイパスの建設等について	11月	現地調査 ・東北縦貫自動車道
		7月			陳情（秋田県） ・地域内基盤整備事業の促進について ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について ・東北縦貫自動車道の早期着工、完成及び関連事業の促進等について ・三陸縦貫鉄道の早期完成及び在来線の改良強化と仙台-八戸間の直通列車の運行について	12月	支部長会議（三戸支部）
		8月			支部長会議	12月	高速道路対応策研究会
		8月			東北縦貫自動車道八戸線建設促進懇談会	12月	支部長会議
		8月			明治大学 商学部教授 石井 常雄氏講演会 「東北縦貫自動車道開通に伴う地域の対応について」	1月	北奥羽戦後史発刊準備会
		9月			支部長会議（久慈支部、八戸支部で各1回）	1月	支部長会議
		9月			（財）高速道路調査会 常務理事 武田 文夫氏講演会 「高速道路と北東北の将来展望」	2月	支部長会議（二戸支部）
		9月			東北縦貫自動車道八戸線（一戸-八戸間）の路線が発表される	3月	水資源開発部会及び意見交換会 ・治水、利水の現状について
						3月	支部長会議（三戸支部）
						3月	陳情（東北地建、道路公団仙台、国鉄仙台） ・国道の改良整備及びバイパスの建設促進について ・治水、利水対策の促進について ・東北縦貫自動車道の早期完成等について ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について ・三陸縦貫鉄道の完成に伴う仙台-八戸間の直行列車の運行及び在来線の改良について
						4月	支部長会議
		4月	支部長会議（八戸支部）				
		5月	担当課長会議				
		5月	昭和53年度 役員会、総会				
		7月	陳情（通産大臣） ・東北新幹線盛岡以北の早期建設等について				
		7月	北奥羽戦後史出版実行委員会				
		7月	陳情（青森県、青森県議会、東北地建青森） ・地域内の基盤整備事業の促進について ・東北新幹線盛岡以北の早期着工促進について				

## 5. 昭和53年7月～昭和54年8月

年	西暦	活動	年	西暦	活動		
昭和53	1978	7月	昭和54	1979	1月		
		7月			陳情（国鉄盛岡、鉄建公団盛岡） ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について ・三陸縦貫鉄道の早期完成と在来線の改良強化等について		
		7月			北奥羽戦後史編集会議	1月	支部長会議
		7月			北奥羽戦後史掲載座談会	1月	支部長会議（三戸支部）
		7月			陳情（運輸省、建設省、農林水産省、国鉄、道路公団、地域内選出国會議員） ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について ・東北縦貫自動車道八戸線（一戸町-八戸市間）の早期完成と（安代町-一戸間）の整備計画の早期策定について	2月	国土庁 地方振興局 地方都市整備課 課長補佐 蓮沼 光氏講演会 「地方定住構想と北奥羽地域の課題」
		7月			陳情（秋田県、秋田県議会） ・地域内の基盤整備事業について ・国鉄花輪線の改良強化について ・東北縦貫自動車道青森線の早期完成等について	2月	支部長会議（二戸支部）
		7月			陳情（岩手県、岩手県議会、東北地建岩手、国鉄盛岡、鉄建公団盛岡） ・地域内の基盤整備事業の促進について ・東北新幹線盛岡以北の早期着工促進について ・東北縦貫自動車道の早期完成促進等について	2月	研修会（水資源開発部会） ・北奥羽地域の農業用水問題と都市用水の関係について
		8月			支部長会議	2月	榊日本コンサルタントグループ 地域開発部長 萩原 茂裕氏講演会 「北奥羽地域の今後の発展課題」
		8月			陳情（東北地建、道路公団仙台） ・地域内国道の改良整備と各バイパスの建設促進について ・地域内治水、利水対策の促進について ・東北縦貫自動車道八戸線（一戸町-八戸市間）の早期完成と（安代町-一戸町間）の整備計画の早期策定と早期着工	3月	支部長会議（八戸支部）
		9月			東北新幹線盛岡以北建設促進大会	4月	支部長会議
		9月			陳情（運輸省、大蔵省、自民党本部、地域内選出国會議員） ・東北新幹線盛岡以北の即時着工と財源確保対策について	5月	新加入市町担当課長会議
		11月			現地調査（産業開発部会） ・地域内工業団地及びむつ小川原地区の開発状況について	6月	昭和54年度 役員会、総会 ・青森県十和田市、三沢市、六戸町、上北町、七戸町、十和田湖町の加入 ・秋田県小坂町の加入 ・観光開発部会の設置
		11月			自治省大臣官審査官（企画行政担当） 久世 公堯氏講演会 「地方政策の現代的課題」	7月	陳情（青森県） ・地域内の各種基盤整備事業の促進について ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定について ・三陸縦貫鉄道の早期完成と在来線の改良強化等について
		11月			運輸交通部会及び現地調査 ・地域内高速道路ルートについて	7月	陳情（国鉄盛岡、東北地建岩手、東北地方建設局、道路公団仙台、国鉄仙台） ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について ・三陸縦貫鉄道の早期完成と既設線の改良強化、電化及びこれに伴う八戸-仙台間の直通急行列車の運行について ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成及び北方延伸計画の策定促進について
		12月			北奥羽戦後史発刊	8月	陳情（岩手県） ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について ・三陸縦貫鉄道の早期完成と既設線
						8月	陳情（建設省、運輸省、国鉄） ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について ・三陸縦貫鉄道の早期完成と既設線





## 6. 昭和54年8月～昭和56年7月

年	西暦	活動	年	西暦	活動	
昭和54	1979	<p>の軌道の改良強化、電化及びこれに伴う八戸-仙台間の直通急行列車の運行について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成及び北方延伸計画策定促進について</li> </ul> <p>8月 支部長会議</p> <p>8月 陳情（秋田県）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高速交通体系の整備促進について</li> <li>・国鉄花輪線の改良強化の促進について</li> <li>・幹線道路網の整備促進について</li> <li>・治水、利水対策の促進について</li> <li>・産業振興及び観光開発の促進について</li> </ul> <p>8月 産業開発部会による先進地視察調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・池田町における「町立ワイン工場」</li> <li>・土幌町における「じゃがいもコンピナート」</li> </ul> <p>9月 支部会議（十和田支部）</p> <p>10月 視察（開発計画補完調査）</p> <p>昭和55</p>	1980	<p>の改良強化の促進について</p> <p>9月 陳情（秋田県）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東北縦貫自動車道青森線（安代-和田南-小坂間）の早期着工について</li> <li>・国鉄花輪線の改良強化の促進について</li> </ul> <p>9月 支部長会議</p> <p>10月 支部会議（二戸支部）</p> <p>10月 視察（北奥羽地域内）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内観光開発地域と主要道路整備状況について（観光開発及び運輸交通部会の共同実施）</li> </ul> <p>10月 陳情（岩手県）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東北新幹線盛岡以北の早期着工について</li> <li>・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成について</li> <li>・三陸縦貫鉄道の早期完成と既設線の改良強化の促進について</li> <li>・幹線道路網の改良整備促進について</li> <li>・治水、利水対策の促進について</li> <li>・産業振興及び観光開発の促進について</li> </ul> <p>12月 陳情（運輸省、自民党、岩手及び青森県選出国會議員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三陸縦貫鉄道の早期完成について</li> </ul> <p>昭和56</p>	1981	<p>1月 支部会議（十和田支部）</p> <p>2月 通産省資源エネルギー庁石油代替エネルギー対策課 総括係長 津田 博氏 講演会「ロ-カエネルギーの開発利用の促進について」</p> <p>2月 支部会議（久慈支部）</p> <p>2月 支部長会議</p> <p>3月 支部会議（二戸支部）</p> <p>3月 支部会議（八戸支部）</p> <p>3月 北奥羽圏域図（現北奥羽開発計画図）の作成</p> <p>4月 支部長会議</p> <p>5月 支部会議（二戸支部、三戸支部において各1回）</p> <p>5月 担当課長会議</p> <p>5月 昭和56年度 役員会、総会</p> <p>7月 陳情（建設省、運輸省、道路公団、国鉄）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について</li> <li>・東北新幹線盛岡以北の早期着工について</li> </ul> <p>7月 陳情（青森県）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について</li> <li>・東北新幹線盛岡以北の早期着工について</li> <li>・三陸縦貫鉄道の早期完成と既設線</li> </ul>

## 7. 昭和56年8月～昭和58年7月

年	西暦	活動	年	西暦	活動
昭和56	1981	<p>成及び北方延伸計画策定促進について</p> <p>8月 陳情（秋田県）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について</li> </ul> <p>8月 陳情（建設省東北地方建設局、道路公団仙台）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北奥羽地域内主要幹線国道のバイパス建設の促進について</li> <li>・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について</li> </ul> <p>8月 陳情（岩手県）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について</li> <li>・東北新幹線盛岡以北の早期着工について</li> <li>・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について</li> </ul> <p>10月 支部長会議</p> <p>10月 視察（北奥羽地域内）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内観光開発地域と産業開発、主要道路整備状況について（観光開発、産業開発、運輸交通部会の共同実施）</li> </ul> <p>12月 陳情（道路公団）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成及び北方延伸計画策定促進について</li> </ul> <p>昭和57</p>	1982	<p>2月 支部会議（十和田支部）</p> <p>2月 支部長会議及び北奥羽地域土木事務所長懇談会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北奥羽地域における道路整備（特に高速交通時代への対応）について</li> </ul> <p>2月 国土庁水資源局水資源計画課 課長補佐 安藤 信夫氏 講演会「最近の水資源問題について」</p> <p>3月 支部会議（久慈支部、二戸支部、八戸支部、三戸支部において各1回）</p> <p>4月 支部会議（二戸支部、十和田支部において各1回）</p> <p>5月 支部長会議</p> <p>5月 担当課長会議</p> <p>6月 昭和57年度 役員会、総会</p> <p>6月 陳情（建設省、道路公団）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成及び北方延伸計画策定促進について</li> </ul> <p>7月 陳情（秋田県）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について</li> </ul> <p>7月 陳情（青森県）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について</li> <li>・東北新幹線盛岡以北の早期着工について</li> <li>・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成及び北方延伸計画策定促進について</li> </ul>	

## 8. 昭和58年7月～昭和60年7月

年	西暦	活動	年	西暦	活動		
昭和58	1983	7月 いて 陳情（建設省、道路公団） ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成及び北方延伸計画策定促進について	昭和59	1984	7月 陳情（建設省、道路公団） ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成及び北方延伸計画策定促進について		
		7月 陳情（青森県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について			7月 陳情（建設省東北地方建設局、道路公団仙台） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成及び北方延伸計画策定促進について		
		10月 支部域外調査（三戸支部） ・八戸市内、港湾施設及び臨海工業地帯等について			7月 陳情（岩手県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について		
		10月 支部長会議			10月 陳情（秋田県） ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成及び北方延伸計画策定促進について		
		11月 陳情（秋田県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について			10月 地域経済研究所 笹森 正氏 講演会 「地域経済の活性化とイベントについて」（支部研修会（三戸支部）として開催）		
		11月 視察（大迫町、金ヶ崎中部工業団地、秋田地区新産業都市、鹿角市マイルランド） ・農産物加工による地域産業開発状況について ・第三セクター造成の工業団地への企業誘致状況について ・秋田地域テクノポリスの計画概要について ・鉱山跡地利用による観光開発状況について （産業開発、観光開発部会及び八戸地区新産業都市建設促進協議会の共催）			10月 支部長会議 10月 視察（北奥羽地域内） ・岩手県内市町村の産業開発、観光開発への取組について ・岩手県内市町村の道路等基盤整備の現状について （産業開発、運輸交通、観光開発部会の共同実施）		
		昭和59			1984	1月 支部会議（十和田支部）	12月 支部会議（十和田支部）
		2月 支部会議（十和田支部）				12月 陳情（道路公団） ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成及び北方延伸計画策定促進について	
		3月 東京大学工学部電気工学科 助教授 工業博士 齊藤 忠夫氏 講演会 「高度情報化社会におけるネットワークの役割」 （八戸地区新産業都市建設促進協議会との共催）				3月 支部会議（十和田支部） 3月 通商産業省 仙台通商産業局 商工部長 阿部 佐嘉太氏 講演会 「地域経済の動向について」 （八戸商工会議所との共催）	
		3月 支部長会議				3月 支部長会議	
		3月 支部会議（二戸支部、八戸支部、三戸支部において各1回）				3月 支部会議（二戸支部、八戸支部、三戸支部において各1回）	
4月 支部会議（二戸支部）	4月 支部会議（久慈支部、二戸支部において各1回）						
5月 支部長会議	5月 支部長会議						
5月 担当会長会議	5月 担当課長会議						
5月 支部会議（久慈支部）	5月 昭和60年度 役員会、総会						
5月 昭和59年度 役員会、総会	6月 支部会議（十和田支部）						
6月 支部会議（十和田支部）	7月 陳情（建設省、道路公団） ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成及び北方延伸計画策定促進について						
7月 陳情（秋田県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について	7月 陳情（青森県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完						
昭和59	1984	1月 支部会議（十和田支部）	昭和60	1985	3月 支部会議（十和田支部）		
2月 支部会議（十和田支部）		3月 支部会議（二戸支部、八戸支部、三戸支部において各1回）					
3月 東京大学工学部電気工学科 助教授 工業博士 齊藤 忠夫氏 講演会 「高度情報化社会におけるネットワークの役割」 （八戸地区新産業都市建設促進協議会との共催）		4月 支部会議（久慈支部、二戸支部において各1回）					
3月 支部長会議		5月 支部長会議					
3月 支部会議（二戸支部、八戸支部、三戸支部において各1回）		5月 担当課長会議					
4月 支部会議（二戸支部）		5月 昭和60年度 役員会、総会					
5月 支部長会議		6月 支部会議（十和田支部）					
5月 担当会長会議		7月 陳情（建設省、道路公団） ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成及び北方延伸計画策定促進について					
5月 支部会議（久慈支部）		7月 陳情（青森県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について					
5月 昭和59年度 役員会、総会							
6月 支部会議（十和田支部）							
7月 陳情（秋田県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について							
昭和59	1984	1月 支部会議（十和田支部）	昭和60	1985	3月 支部会議（十和田支部）		
2月 支部会議（十和田支部）		3月 支部会議（二戸支部、八戸支部、三戸支部において各1回）					
3月 東京大学工学部電気工学科 助教授 工業博士 齊藤 忠夫氏 講演会 「高度情報化社会におけるネットワークの役割」 （八戸地区新産業都市建設促進協議会との共催）		4月 支部会議（久慈支部、二戸支部において各1回）					
3月 支部長会議		5月 支部長会議					
3月 支部会議（二戸支部、八戸支部、三戸支部において各1回）		5月 担当課長会議					
4月 支部会議（二戸支部）		5月 昭和60年度 役員会、総会					
5月 支部長会議		6月 支部会議（十和田支部）					
5月 担当会長会議		7月 陳情（建設省、道路公団） ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成及び北方延伸計画策定促進について					
5月 支部会議（久慈支部）		7月 陳情（青森県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について					
5月 昭和59年度 役員会、総会							
6月 支部会議（十和田支部）							
7月 陳情（秋田県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について							

## 9. 昭和60年8月～昭和62年5月

年	西暦	活動	年	西暦	活動
昭和60	1985	8月 地域総合研究所 斎藤 睦氏 講演会 「個性ある地域づくりと総合計画」（支部研修会（三戸支部）として開催）	昭和61	1986	6月 昭和61年度 役員会、総会 6月 陳情（建設省、道路公団） ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について
		9月 陳情（岩手県） ・馬淵川上流の多目的ダム建設促進について			7月 陳情（青森県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について
		10月 陳情（秋田県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について			8月 支部会議（鹿角支部） 8月 陳情（参議院決算委員会） ・東北新幹線（盛岡-青森間）の早期着工について
		10月 視察（北奥羽地域内） ・青森県内市町村の産業開発、観光開発への取組について			9月 陳情（秋田県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について
		10月 陳情（秋田県） ・青森県内市町村の道路等基盤整備の現状について （産業開発、運輸交通、観光開発部会の共同実施）			10月 視察（鹿角市、小坂町、岩城町、雄物川町、平鹿町） ・「まちづくり」「むらおこし」に主眼を置いた秋田県内市町村の産業開発、観光開発の取組状況について
		10月 支部長会議 10月 支部会議（久慈支部） 10月 にんにくシンポジウム開催（田子町） 10月 八戸市公会堂 館長 品田 裕教氏 講演会 「八戸市の発展経過について」（支部研修会（八戸支部）として開催）			10月 陳情（岩手県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について
		11月 陳情（岩手県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について			10月 陳情（岩手県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について
		11月 陳情（岩手県） ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について			12月 支部会議（十和田支部） 12月 陳情（道路公団） ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について
		11月 陳情（岩手県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について			12月 支部会議（十和田支部） 12月 陳情（道路公団） ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について
		11月 陳情（岩手県） ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について			12月 支部会議（十和田支部） 12月 陳情（道路公団） ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について
		昭和61			1986
3月 支部会議（二戸支部、八戸支部、三戸支部、十和田支部において各1回）	3月 支部会議（久慈支部、二戸支部、三戸支部、十和田支部において各1回）				
4月 支部会議（久慈支部、二戸支部において各1回）	4月 支部会議（久慈支部）				
5月 支部会議（十和田支部、鹿角支部において各1回）	4月 支部内研修会（二戸支部） 5月 支部長会議 5月 担当課長会議				
5月 担当課長会議	5月 支部外研修会（十和田支部） ・横浜製作農業センターの取組について				
5月 支部会議（十和田支部、鹿角支部において各1回）					
5月 担当課長会議					

## 10. 昭和62年6月～平成元年2月

年	西暦	活動	年	西暦	活動
昭和62	1987	6月 昭和62年度 役員会、総会 ・岩手県普代村の加入	昭和63	1988	2月 「バイオテクノロジーと地域振興」 支部長会議
		6月 陳情（建設省） ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について			3月 支部会議（久慈支部、二戸支部、八戸支部、三戸支部において各1回）
		7月 陳情（青森県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について			3月 支部内研修会（十和田支部） 4月 支部会議（久慈支部） 5月 支部内研修会（二戸支部） 6月 支部長会議 6月 担当課長会議 6月 支部会議（十和田支部） 7月 昭和63年度 役員会、総会 8月 陳情（秋田県） ・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について
		7月 支部外研修会（八戸支部） ・六ヶ所村、東通村の原燃への取組について			8月 視察（北奥羽地域内、青森市、六ヶ所村、天間林村） ・青森県内市町村の産業開発、観光開発への取組について ・青森県内市町村の道路等基盤整備の現状について ・構成市町村の地域経済活性化促進のため、「ビッグイベント」「地域開発振興」に主眼をおき、青函トンネル開通記念博覧会を視察（産業開発、運輸交通、観光開発部部会の共同実施）
		8月 陳情（秋田県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について			9月 支部内研修会（八戸支部） ・ハイビジョンの現状と情報システムについて
		8月 陳情（岩手県） ・北奥羽地域内の基盤整備事業の促進について ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について			10月 陳情（岩手県） ・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について
		8月 視察（北奥羽地域内、宮古市、気仙沼市、仙台市） ・岩手県内市町村の産業開発、観光開発への取組について ・岩手県内市町村の道路等基盤整備の現状について ・構成市町村の地域経済活性化促進のため、「ビッグイベント」「リゾート開発」に主眼をおき、未来の東北博覧会を視察（産業開発、運輸交通、観光開発部部会の共同実施）			10月 支部内研修会（三戸支部） 11月 支部内研修会（二戸支部） 11月 陳情（青森県） ・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について
		10月 支部会議（二戸支部）			11月 支部長会議 11月 合同講演会 ①大野村長 佐々木 義明氏 ②田子町長 渡部 剛己氏 「まちづくりと地域振興」
		10月 (財)日本立地センター 調査研究第三部長 保阪 邦雄氏 講演会 「第三セクター設立の進め方と留意点」 （支部研修会（三戸支部）として開催）			12月 陳情（建設省） ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について
		11月 青森県 地方課 振興班長 丸山 巧氏 講演会 「広域行政と地域の活性化について」 （支部研修会（十和田支部）として開催）			
		昭和63			1988
2月 合同講演会 ①通商産業省 工業技術院 次世代産業技術開発官 竹田原 昇司氏 ②元共同通信記者 福本 文祥氏	1月 支部内視察（十和田支部） 1月 支部長会議 2月 支部内視察（十和田支部）				

## 11. 平成元年2月～平成3年8月

年	西暦	活動	年	西暦	活動
平成元	1989	2月 支部会議（三戸支部）	平成2	1990	4月 支部会議（久慈支部）
		3月 支部会議（二戸支部、八戸支部において各1回）			5月 支部会議（十和田支部） 6月 担当課長会議 7月 平成2年度 役員会、総会 7月 支部会議（二戸支部） 8月 陳情（岩手県） ・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について
		4月 支部会議（久慈支部）			8月 支部外研修会（十和田支部） ・八戸市内施設の視察
		5月 支部会議（十和田支部）			10月 陳情（青森県） ・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について
		5月 支部内研修会（二戸支部）			10月 支部外研修会（三戸支部） ・田沢湖スイス村等の視察
		5月 支部長会議			11月 視察（北奥羽地域内、盛岡市、岩手町） ・構成市町村の地域経済活性化促進のため、盛岡市並びに岩手県北の圏域市町村における産業振興、道路基盤等について視察（産業開発、運輸交通、観光開発部部会の共同実施）
		5月 担当課長会議			11月 支部長会議 陳情（秋田県） ・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について
		6月 平成元年度 役員会、総会			12月 陳情（建設省） ・東北縦貫自動車道八戸線（八戸-青森間）の事業化促進について ・八戸・久慈自動車道の建設促進について
		8月 陳情（秋田県） ・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について			
		8月 陳情（岩手県） ・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について ・東北新幹線盛岡以北の早期着工について			
		平成2			1990
8月 陳情（青森県） ・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について ・東北縦貫自動車道八戸線の早期完成と北方延伸計画策定促進について	2月 研修会（八戸支部、三戸支部合同） ・北奥羽地域内（青森県内）施設の視察				
10月 支部内研修会（二戸支部）	2月 支部会議（久慈支部）				
10月 視察（北奥羽地域内、黒石市、岩木町） ・圏域内市町村の産業開発、観光開発への取組について ・圏域内市町村の道路等基盤整備の現状について ・構成市町村の地域経済活性化促進のため、青森県南津軽地方の「地域開発振興」について視察（産業開発、運輸交通、観光開発部部会の共同実施）	3月 日本文藝家協会 常務理事 井上ひさし氏 講演会 「北東北の中核都市・八戸」				
11月 八戸市博物館 副館長 栗村 知弘氏 講演会 「北奥羽の歴史」	3月 支部会議（二戸支部、鹿角支部、八戸支部、三戸支部、十和田支部において各1回）				
11月 支部長会議	3月 支部内研修会（二戸支部、十和田支部において各1回）				
11月 青森県 地方課 振興班 総括主査 石崎 聖一氏 講演会 「広域行政について」 （支部内研修会（十和田支部）として開催）	4月 支部会議（久慈支部）				
12月 八戸市元助役 林 俊夫氏 講演会 「北奥羽の開発について」 （支部合同研修会（八戸支部・三戸支部）として開催）	5月 支部会議（十和田支部）				
12月 陳情（建設省） ・東北縦貫自動車道八戸線（八戸-青森間）の事業化促進について	5月 支部内研修会（十和田支部）				
	6月 支部長会議 6月 担当課長会議 7月 陳情（建設省） ・東北縦貫自動車道八戸線（八戸-青森間）の事業化促進について ・第二みちのく有料道路の早期完成について ・八戸・久慈自動車道の建設促進について				
平成2	1990		1月 支部会議（久慈支部）	7月 平成3年度 役員会、総会	
		1月 支部長会議	8月 櫛電通コーポレート・アクティビティ室 部長 大野 健一氏 講演会		
		3月 支部会議（二戸支部、鹿角支部、八戸支部、十和田支部において各1回）			

## 12. 平成3年9月～平成5年8月

年	西暦	活動	年	西暦	活動
平成3	1991	9月 「地域経営をCI」 ((財)八戸地域高度技術振興センター、八戸地区新産業都市建設促進協議会との共催) 陳情(岩手県) ・北奥羽地域内(岩手県分)の基盤整備事業の促進について	平成4	1992	7月 支部会議(二戸支部、十和田支部において各1回)
		10月 支部会議(二戸支部)			7月 支部内研修会(二戸支部、十和田支部において各1回)
		10月 支部内研修会(二戸支部)			7月 平成4年度 役員会、総会
		10月 支部外研修会(十和田支部) ・遠野市のまちづくりについて ・大野村の一人一芸のまちづくりについて ・湯田村の温泉を活用したまちづくりについて			8月 要請(青森県議会) ・第11次道路整備五ヵ年計画(平成5～9年度)における総投資規模の大幅な拡大等について
		10月 陳情(秋田県) ・北奥羽地域内(秋田県分)の基盤整備事業の促進について			9月 支部内研修会(十和田支部)
		10月 三戸町立歴史民俗資料館 館長 佐藤 嘉悦氏 講演会 「三つの南部氏」			10月 陳情(岩手県) ・北奥羽地域内(岩手県分)の基盤整備事業の促進について
		10月 陳情(青森県) ・北奥羽地域内(青森県分)の基盤整備事業の促進について			10月 陳情(岩手県) ・北奥羽地域内(岩手県分)の基盤整備事業の促進について
		10月 視察(北奥羽地域内、むつ市、大畑町、風間浦村、大間町、東通村) ・構成市町村の地域経済活性化促進のため、青森県むつ市、下北郡並びに東南部の圏域市町村における産業振興、道路基盤等について視察 (産業開発、運輸交通、水資源開発、観光開発部会の共同実施)			11月 支部会議(二戸支部、鹿角支部において各1回)
		11月 陳情(建設省、運輸省) ・東北縦貫自動車道八戸線(八戸-青森間)の事業化促進について ・第二みちのく有料道路の早期完成について ・八戸・久慈自動車道の建設促進について			11月 支部内研修会(二戸支部)
		平成4			1992
2月 支部会議(三戸支部)	2月 支部内研修会(十和田支部)				
2月 (財)八戸地域地場産業振興センター 事務局長 藤田 泰夫氏 講演会 「八戸地域地場産業振興センターの計画概要について」 (支部内研修会(三戸支部)として開催)	2月 八戸美術連 代表理事 元八戸市立白銀小学校校長 田口 美樹男氏 講演会 「人生いろいろ浪花節」				
2月 支部会議(二戸支部)	2月 支部長会議				
3月 支部会議(久慈支部、八戸支部、十和田支部において各1回)	2月 話し方研究所 所長 福田 健氏 講演会 「人付き合いが楽しくなるコミュニケーション」 (支部内研修会(十和田支部)として開催)				
3月 支部内研修会(十和田支部)	3月 支部会議(久慈支部、二戸支部、八戸支部、十和田支部、鹿角支部において各1回、三戸支部において2回)				
4月 支部会議(久慈支部)	3月 支部内研修会(十和田支部)				
5月 勉強会 ・地方拠点都市地域構想について	4月 支部会議(全6支部において各1回)				
6月 地方拠点都市地域関係市町村担当課長会議	7月 支部長会議				
7月 支部長会議	7月 担当課長会議				
7月 担当課長会議	7月 支部会議(二戸支部)				
		8月 平成5年度 役員会、総会			

## 13. 平成5年8月～平成7年5月

年	西暦	活動	年	西暦	活動
平成5	1993	8月 秋田県知事による米代川流域地方拠点都市地域の指定(鹿角市、小坂町ほか)	平成6	1994	8月 支部会議(鹿角支部)
		8月 青森県知事による八戸地方拠点都市地域基本計画の承認			8月 陳情(秋田県) ・北奥羽地域内(秋田県分)の基盤整備事業の促進について
		10月 陳情(青森県) ・北奥羽地域内(青森県分)の基盤整備事業の促進について			8月 視察対応 ・国土審査会 地方産業開発特別委員会による八戸地区新産業都市の視察
		10月 陳情(岩手県) ・北奥羽地域内(岩手県分)の基盤整備事業の促進について			9月 支部会議(二戸支部)
		10月 視察(岩手県中部金ヶ崎工業団地、北上市、江刺市、花巻市、石鳥谷町)			10月 陳情(岩手県) ・北奥羽地域内(岩手県分)の基盤整備事業の促進について
		10月 陳情(財政制度審議会) ・東北新幹線(盛岡-青森間)の全線フル規格による早期完成について			10月 八戸地方拠点都市地域整備アクションプログラムの策定
		11月 陳情(大蔵省、運輸省、自民党、日本社会党、新生党) ・東北新幹線(盛岡-青森間)の全線フル規格による早期完成について			10月 支部外研修会(二戸支部) ・山形県寒河江市、朝日村、西川町
		11月 支部会議(鹿角支部)			10月 支部外研修会(十和田支部) ・山形県新庄市、秋田県横手市、大館市、協和町
		11月 テレビ対談(岩手放送)収録(会長(八戸市長)、久慈市長、二戸市長) 「新しい南部州をデザインする」 ・放送日:平成5年12月4日			10月 第3回 地方都市十字路口会議 ・開催テーマ「海を活かしたまちづくり-水産都市のあり方-」 ・内容:事例発表、パネルディスカッション等 ・海外からの招聘都市:タコマ、ホートン、ケアンズ、タウランガ、タンペレ、キール、フェデラルウェイ、香港
		平成6			1994
2月 支部外研修会(二戸支部) ・宮城県仙台市、登米町、津山町、中新田町	11月 陳情(運輸省、自民党、新生党) ・東北新幹線(盛岡-青森間)の全線フル規格による早期完成について				
2月 支部長会議	11月 東北縦貫自動車道八戸線(八戸市榑引-市川間)の杭打ち式				
3月 復古会 代表、住谷野 社長 小原 正己氏 講演会 「食を活かした町おこし」 (支部合同研修会(八戸支部・三戸支部)として開催)	12月 三陸縦貫自動車道と八戸・久慈自動車道を直結する区間(久慈市-宮古市間)が地域高規格道路に指定される。				
3月 支部会議(久慈支部、二戸支部、八戸支部、十和田支部、鹿角支部において各1回)	12月 東北新幹線盛岡以北の全線フル規格への見直しが発表 ・盛岡-八戸間を標準軌新線に変更し、八戸-青森間の暫定整備計画は取り下げられる ・平成7年度は、盛岡-沼宮内間及び八戸駅を着工し、八甲田トンネルの試掘調査に着手する				
3月 支部内研修会(十和田支部)	12月 支部長会議				
3月 支部長変更に伴う支部事務引継(八戸支部、三戸支部において各1回) ・八戸支部(福地村→五戸町) ・三戸支部(三戸町→田子町)	12月 支部会議(久慈支部)				
4月 支部会議(久慈支部、二戸支部、鹿角支部において各1回)	2月 支部長会議				
4月 支部長会議	3月 支部会議(久慈支部、二戸支部、八戸支部、十和田支部において各1回)				
4月 担当課長会議	4月 支部会議(久慈支部、二戸支部、鹿角支部において各1回)				
5月 平成6年度 役員会、総会	4月 運輸省による東北新幹線(盛岡-八戸間)の全線フル規格化の正式決定及び、フル規格での工事実施計画の認可				
5月 秋田県知事による米代川流域地方拠点都市地域基本計画の承認	5月 東北新幹線三戸トンネル到達式				
6月 支部会議(十和田支部)					
7月 陳情(国土庁) ・新産業都市建設及び工業整備特別地域整備のための国の財政上の特別措置に関する法律の適用期限の延長について					
8月 陳情(青森県) ・北奥羽地域内(青森県分)の基盤整備事業の促進について					

## 14. 平成7年5月～平成9年7月

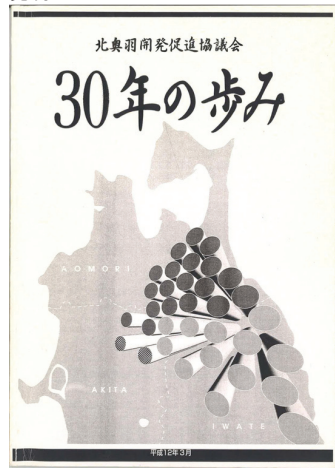
年	西暦	活動	年	西暦	活動
平成7	1995	5月 支部会議（久慈支部、十和田支部において各1回）	平成8	1996	6月 支部会議（十和田支部）
		5月 支部内研修会（十和田支部）			7月 平成8年度 役員会、総会
		5月 支部長会議			7月 地域連携おおだてフォーラムの後援
		5月 担当課長会議			・北東北3拠点の地域連携をめざして、産業、物流、文化の理解を深め交流を促進する
		5月 東北新幹線（盛岡-八戸間）建設工事起工式及び着工祝賀会			7月 支部会議（二戸支部）
		7月 平成7年度 役員会、総会			7月 支部内研修会（二戸支部）
		7月 支部会議（二戸支部）			7月 東北新幹線三戸トンネル貫通式
		7月 支部内研修会（二戸支部）			8月 支部会議（久慈支部、鹿角支部において各1回）
		8月 陳情（岩手県）			9月 陳情（青森県）
		・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について			・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について
		8月 支部会議（久慈支部）			10月 客船「飛鳥」八戸港入港歓迎セレモニーの後援
		8月 八戸市文化財審議会 委員 戸来 力氏講演会			10月 陳情（秋田県）
		「祭とまちづくり」（支部内研修会（久慈支部）として開催）			・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について
		10月 支部会議（鹿角支部）			11月 視察（青森県弘前市、黒石市、相馬村）
		10月 支部外研修会（二戸支部）			11月 八戸・久慈自動車道、三陸縦貫自動車道、三陸北縦貫道路及び東北縦貫自動車道八戸線整備促進総決起八戸大会の後援
		・福島県郡山市、二本松市、三春町			12月 東北新幹線（八戸-新青森（石江）間）のフル規格での建設が決定（政府与党合意）
		11月 地域連携八戸フォーラムの後援			12月 東北縦貫自動車道八戸線（天間林村-青森市諏訪沢間）の27kmが、予定路線から基本計画路線に格上げされる
		・地域連携のあり方と八戸地域における交流、連携の方策を探る			支部会議（久慈支部）
		11月 環十和田プラネット構想シンポジウムの後援			1月 支部長会議
11月 視察（秋田県能代市、藤里町、八森町、鷹巣町、小坂町、青森県十和田湖町）	2月 支部外研修会（二戸支部）				
11月 陳情（青森県）	・秋田県大館市、鷹巣町、青森県青森市				
・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について	2月 環十和田プラネット構想シンポジウムの後援				
11月 陳情（秋田県）	2月 南郷村企画振興課長 石屋 俊夫氏講演会				
・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について	「地域づくりと活性化について」（支部合同研修会（八戸支部・三戸支部）として開催）				
11月 支部会議（久慈支部）	3月 岩手県 企画調整部 交通政策課長 瓦林 康人氏講演会				
11月 久慈土木事務所 所長 今野 正春氏講演会	「岩手県総合交通体系基本計画について」（支部研修会（二戸支部）として開催）				
「高速交通体系と久慈広域圏の道路事情」（支部内研修会（久慈支部）として開催）	3月 支部会議（久慈支部）				
平成8	1996	1月 (財)五戸町スポーツ振興公社 事務局長 中川原 経氏講演会	3月 支部長会議		
「五戸町スポーツ振興公社の現状と今後の課題について」（支部合同研修会（八戸支部・三戸支部）として開催）	2月 支部長会議				
2月 支部長会議	2月 意見発表（一日国土審議会）				
2月 意見発表（一日国土審議会）	・発表者：北奥羽開発促進協議会 会長（八戸市長）中里 信男				
2月 支部会議（二戸支部、十和田支部において各1回）	2月 支部内研修会（二戸支部、十和田支部において各1回）				
2月 支部内研修会（二戸支部、十和田支部において各1回）	3月 支部会議（久慈支部、八戸支部において各1回）				
3月 支部会議（久慈支部、八戸支部において各1回）	4月 支部会議（久慈支部、二戸支部、鹿角支部において各1回）				
4月 支部会議（久慈支部、二戸支部、鹿角支部において各1回）					

## 15. 平成9年7月～平成11年12月

年	西暦	活動	年	西暦	活動		
平成9	1997	7月 陳情（岩手県）	平成10	1998	10月 地域連携三沢フォーラムの後援		
		・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について			・北東北3拠点の地域連携をめざして、産業、物流、文化の理解を深め交流を促進する		
		8月 陳情（秋田県）			11月 支部外研修会（二戸支部）		
		・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について			・青森県青森市、六ヶ所村、尾上町		
		8月 陳情（青森県）			1月 陳情（岩手県）		
		・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について			・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について		
		8月 東北新幹線高岩トンネル工事安全祈願祭			2月 支部長会議		
		9月 支部会議（二戸支部）			2月 東北新幹線高岩トンネル（第1・第2トンネル合計延長1.21km）貫通式		
		9月 支部内研修（二戸支部）			3月 支部会議（十和田支部）		
		10月 地域連携黒石フォーラムの後援			3月 支部内研修会（十和田支部）		
		・北東北3拠点の地域連携をめざして、産業、物流、文化の理解を深め交流を促進する			3月 支部会議（二戸支部、八戸支部において各1回）		
		11月 二戸市 技監 菊池 光雄氏講演会			3月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同）		
		「二戸駅周辺の整備計画について」（支部合同研修会（八戸支部・三戸支部）として開催）			・岩手県葛巻町、大野村		
		平成10			1998	1月 東北新幹線八戸-新青森（石江）間の新規着工優先順位が1位となり、年度内着工が正式決定	3月 支部内研修会（二戸支部）
		1月 支部長会議			3月 東北縦貫自動車道八戸線の馬淵川下部工完了		
		2月 視察（岩手県雫石町、秋田県横手市、宮城県仙台市、鳴子町、小田野町）			4月 支部会議（久慈支部、二戸支部において各1回）		
		2月 支部外研修会（二戸支部）			6月 東北新幹線八戸高架線橋工事安全祈願祭		
		・宮城県仙台市、鳴子町、小田野町			6月 東北新幹線二戸駅路盤工事安全祈願祭		
		2月 支部会議（十和田支部、八戸支部において各1回）			7月 東北新幹線第4馬淵川橋梁工事安全祈願祭		
3月 環十和田プラネット構想シンポジウムの後援	7月 平成11年度 役員会、総会						
3月 東北新幹線岩手-戸トンネル「小繋工区・女鹿工区」貫通式	8月 東北新幹線八甲田トンネル市ノ渡工区工事安全祈願祭						
3月 支部会議（久慈支部、二戸支部において各1回）	9月 支部会議（二戸支部）						
3月 東北新幹線八戸-新青森（石江）間の起工式、着工祝賀会	9月 陳情（岩手県）						
4月 支部会議（久慈支部、二戸支部において各1回）	・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について						
5月 支部長会議	9月 東北新幹線八戸路盤工事安全祈願祭						
5月 担当課長会議	10月 東北新幹線八戸駅地区工事安全祈願祭						
5月 東北新幹線法師岡高架橋工事安全祈願祭	10月 要望（青森県）						
8月 平成10年度 役員会、総会	・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について						
北奥羽開発促進協議会 設立30周年記念 国土庁計画・調整局計画官 高松 亨氏講演会	10月 東北新幹線米沢路盤工事安全祈願祭						
「21世紀の国土のランドデザインにおける地域連携軸の展開-地域の選択と責任に基づく地域づくりと北奥羽地域発展のキーワードは-」	10月 地域連携能代フォーラムの後援						
支部会議（二戸支部）	・北東北3拠点都市地域を中心に交流、連携のあり方を「環境保全」の観点から模索し、地域の活性化に向けて新たな広域交流圏の形成を目指す						
8月 支部内研修会（二戸支部）	10月 東北新幹線八戸電留線路盤工事安全祈願祭						
8月 東北新幹線八甲田トンネル工事安全祈願祭	11月 東北新幹線岩手トンネル（摺糠工区、火行工区合計延長7.6km）貫通式						
8月 陳情（青森県）	11月 東北新幹線二戸トンネル（延長3.33km）貫通式						
・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について	12月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同）						
8月 陳情（秋田県）							

# 16. 平成12年2月～平成14年11月

年	西暦	活動	年	西暦	活動
平成12	2000	2月 秋田県鹿角市、合川町 第6回UJIターン・定住シンポジウム八戸大会、体験型交流事業フォーラム	平成13	2001	2月 流、連携のあり方を「環境保全」の観点から模索し、地域の活性化に向けて新たな広域交流圏の形成を目指す
		2月 支部会議（鹿角支部、八戸支部において各1回）			2月 支部長会議
		2月 日本興業銀行 金融市場営業部 課長 福島 良治氏 講演会 「金融最前線」 （支部内研修会（十和田支部）として開催）			3月 支部会議（二戸支部、十和田支部において各1回）
		2月 支部長会議			4月 青森県七戸新幹線事務所の開設
		2月 支部外研修会（二戸支部） ・青森県青森市、弘前市、平賀町			4月 支部会議（久慈支部において2回、二戸支部において1回）
		2月 東北新幹線金田一トンネル（延長8.7km）貫通式			5月 支部長会議
		3月 支部会議（二戸支部）			5月 担当課長会議
		3月 北奥羽開発促進協議会 30年の歩み 発刊			5月 東北新幹線二戸駅者安全祈願祭
					6月 平成13年度 役員会、総会
					7月 支部会議（二戸支部）
					8月 要望（青森県） ・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について
		10月 要望（秋田県） ・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について			
		10月 要望（岩手県） ・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について			
		11月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同） ・山形県新庄市、東根市			
		12月 東北新幹線二戸構内レール締結式			
		2月 支部長会議			
		2月 地域連携八戸フォーラムの後援 ・北東北3拠点都市地域を中心に交流、連携のあり方を「文化」の観点から模索し、地域の活性化に向けて新たな広域交流圏の形成を目指す			
		3月 支部会議（二戸支部）			
		5月 支部長会議			
		5月 担当課長会議			
		5月 平成14年度 役員会、総会			
		6月 東北新幹線尻内高架橋（南）他工区安全祈願祭			
		7月 支部会議（久慈支部、二戸支部において各1回）			
		7月 支部長会議			
		8月 支部外研修会（二戸支部） ・青森県むつ市、東通村			
		8月 要望（岩手県） ・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について			
		8月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同） ・宮城県仙台市			
		11月 支部外研修会（二戸支部） ・秋田県大館市、鷹巣町、小坂町			
		11月 要望（秋田県） ・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について			
		11月 要望（青森県） ・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について			
		11月 地域連携五所川原フォーラムの後援 ・北東北3拠点都市地域を中心に交			



# 17. 平成14年12月～平成18年3月

年	西暦	活動	年	西暦	活動
平成14 平成15	2002	12月 東北新幹線盛岡-八戸間、開業	平成17	2005	2月 東北新幹線七戸川B他工区・膝森路盤他工区安全祈願祭
	2003	2月 支部内研修会（二戸支部）			2月 東北新幹線八甲田トンネル貫通
		3月 東北新幹線八甲田トンネル梨ノ木工区貫通	3月 八戸南環状道路（妙-十日市間）暫定開通		
		4月 支部会議（二戸支部）	3月 要望（秋田県） ・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について		
		5月 支部長会議	3月 要望（青森県） ・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について		
		5月 担当課長会議	3月 支部会議（二戸支部）		
		6月 平成15年度 役員会、総会	3月 支部内研修会（二戸支部）		
		6月 支部会議（久慈支部）	3月 東北新幹線五戸川架橋工事安全祈願祭		
		7月 支部外研修会打合せ（八戸・三戸支部合同）	3月 八戸市と南郷村が合併		
		7月 支部外研修会（久慈・二戸支部合同） ・秋田県大曲市、角館市、田沢湖町	3月 (旧)東北町（当時、当協議会未加入）と上北町が合併		
		8月 東北新幹線南部山トンネル貫通	6月 支部長会議		
		8月 支部会議（十和田支部）	6月 担当課長会議		
		10月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同）	7月 平成17年度 役員会、総会		
		10月 支部内研修会（十和田支部）	7月 東北新幹線下田町神明前から六戸町坪毛沢までのトンネル3本を含む2工区合同安全祈願祭		
		10月 東北新幹線細越トンネル貫通	7月 東北新幹線下田町下谷地から丈の端間の工区安全祈願祭		
		10月 要望（岩手県） ・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について	8月 支部外研修会（二戸支部） ・宮城県栗原市、利府町		
		11月 東北新幹線金浜高架橋着工	8月 支部会議（十和田支部）		
平成16	2004	2月 稲庭スノーフェスティバル事業の共催	9月 安代町が西根町（当時、当協議会未加入）及び松尾村（当時、当協議会未加入）と合併し、八幡平市となる		
		3月 要望（秋田県） ・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について	9月 東北新幹線雲谷平・横内・松森トンネル貫通		
		3月 要望（青森県） ・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について	10月 支部内研修会（十和田支部）		
		3月 東北新幹線八甲田トンネル市ノ渡・屋形工区貫通	10月 東北新幹線下田町丈の端から南下下田間の2工区合同安全祈願祭		
		5月 支部長会議	11月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同） ・宮城県石巻市、登米市、岩出山町		
		5月 担当課長会議	11月 東北新幹線下河原高架橋工事安全祈願祭		
		6月 平成16年度 役員会、総会	11月 東北新幹線市川トンネル貫通		
		6月 要望（岩手県） ・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について	1月 二戸市と浄法寺町が合併		
		6月 支部会議（二戸支部）	1月 種市町と大野村が合併し、洋野町となる		
		7月 五戸町と倉石村が合併	1月 南部町と名川町及び福地村が合併		
		7月 支部会議（久慈支部）	3月 百石町と下田町が合併し、おいらせ町となる		
		8月 支部外研修会（二戸支部） ・秋田県藤里町、青森県十和田湖町	3月 久慈市と山形村が合併		
8月 支部会議（十和田支部）	3月 要望（秋田県） ・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について				
10月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同） ・宮城県志津川町、利府町	3月 要望（青森県） ・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について				
10月 支部内研修会（十和田支部）	3月 東北新幹線砂土路川架橋工事安全祈願祭				
10月 東北新幹線ねぶたの里高架橋安全祈願祭	3月 支部外研修会（二戸支部） ・岩手県盛岡市				
11月 東北新幹線高館トンネル安全祈願祭	3月 東北新幹線上北トンネル・川去川橋				
11月 東北新幹線奥入瀬川を渡る橋を含む工区安全祈願祭					
12月 東北新幹線五戸トンネル貫通					
12月 東北新幹線荒川橋梁・高田高架橋安全祈願祭					
平成17	2005	1月 十和田市と十和田湖町が合併			
		2月 東北新幹線八甲田トンネル折紙・築木工区貫通			
		2月 稲庭スノーフェスティバル事業の共催			

## 18. 平成18年5月～平成23年7月

年	西暦	活動	年	西暦	活動
平成18	2006	5月 梁工事合同安全祈願祭	平成20	2008	10月 ・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について
		6月 支部長会議			10月 要望（秋田県）
		6月 支部長会議			11月 ・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について
		6月 担当課長会議			11月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同）
		6月 平成18年度 役員会、総会			・岩手県宮古市
		7月 東北新幹線牛鍵トンネル貫通			3月 青森県ドクターヘリ運航開始
		8月 支部会議（十和田支部）			3月 支部外研修会（久慈支部）
		10月 支部内研修会（十和田支部）			・宮城県仙台市
		10月 東北新幹線八甲田トンネルの軌道敷設工事開始			3月 支部内研修会（十和田支部）
		11月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同）			5月 担当課長会議
		・秋田県由利本荘市、象潟町			6月 平成21年度 役員会、総会
11月 支部会議（二戸支部）	・八幡平市の退会(6/30付)について				
11月 東北新幹線三本木原トンネル貫通	8月 支部長会議				
11月 支部外研修会（二戸支部）	10月 要望（秋田県）				
・山形県上市市、金山町	・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について				
11月 要望（岩手県）	10月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同）				
・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について	・岩手県北上市、滝沢村				
平成19	2007	1月 要望（青森県）	平成22	2010	10月 要望（青森県）
・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について	10月 要望（青森県）				
要望（秋田県）	10月 要望（岩手県）				
・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について	・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について				
2月 東北新幹線館野トンネル貫通	10月 支部会議（二戸支部）				
3月 支部外研修会（二戸支部）	10月 支部外研修会（二戸支部）				
・岩手県葛巻町	・青森県三沢市、七戸町				
3月 東北新幹線赤平トンネル貫通	1月 支部外研修会（十和田支部）				
6月 八戸南道路（八戸南IC-種差海岸階上岳IC間）3.4kmが暫定2車線で開通	・青森県八戸市				
6月 支部長会議	5月 担当課長会議				
6月 担当課長会議	6月 平成22年度 役員会、総会				
6月 平成19年度 役員会、総会	8月 支部長会議				
9月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同）	10月 要望（岩手県）				
・宮城県登米市	・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について				
11月 支部外研修会（十和田支部）	10月 要望（秋田県）				
・岩手県葛巻町	・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について				
11月 要望（岩手県）	10月 要望（青森県）				
・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について	・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について				
12月 支部会議（二戸支部）	11月 支部外研修会（久慈支部）				
12月 支部外研修会（二戸支部）	・岩手県花巻市、葛巻町				
・宮城県栗原市	11月 第3回 被災者招聘事業				
平成20	2008	1月 要望（秋田県）	平成23	2011	1月 支部会議（二戸支部）
・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について	1月 支部外研修会（二戸支部）				
1月 要望（青森県）	・青森県青森市				
・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について	1月 支部外研修会（二戸支部）				
5月 担当課長会議	・青森県青森市				
6月 平成20年度 役員会、総会	3月 東日本大震災の発生				
8月 支部会議（二戸支部）	5月 担当課長会議				
8月 支部外研修会（二戸支部）	6月 震災復興観光・物産販売PR促進事業の実施				
・青森県十和田市	・兵庫県神戸市において、構成市町村内企業の物産展示販売及び観光情報の発信等を実施				
8月 支部長会議	7月 平成23年度 役員会、総会				
10月 要望（岩手県）	・東日本大震災に関する特別決議				
・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について					
10月 要望（青森県）					

## 19. 平成23年7月～平成26年10月

年	西暦	活動	年	西暦	活動
平成23	2011	7月 要望（東日本旅客鉄道株式会社）	平成24	2012	7月 支部外研修会（久慈支部）
		・JR八戸線の早期完全復旧について（青森県鉄道整備促進期成同盟会との合同実施）			8月 要望（青森県）
		7月 要望（国土交通省）			・岩手県二戸市
		・JR八戸線並びに三陸鉄道北リアス線の早期完全復旧について（八戸・久慈自動車道建設促進期成同盟会との合同実施）			8月 要望（青森県）
		8月 第1回 被災者招聘事業			・青森県及び岩手県ドクターヘリの県境を越えた相互乗り入れについて
		・東日本大震災で特に被害の大きかった沿岸被災市町村の住民が対象			9月 支部長会議
		・第1回は、野田村の住民26名を八戸市へ招聘し、八戸三社大祭の観覧等を実施			10月 青森県ドクターヘリ2機体制運航開始
		8月 支部長会議			10月 要望（秋田県）
		10月 要望（秋田県）			・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について
		・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について			10月 支部会議（二戸支部）
		10月 支部外研修会（久慈支部）			10月 支部外研修会（二戸支部）
・岩手県釜石市、紫波町	10月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同）				
10月 要望（青森県）	・岩手県盛岡市、宮古市				
・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について	10月 要望（岩手県）				
10月 要望（岩手県）	・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について				
10月 要望（岩手県）	10月 要望（青森県）				
・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について	10月 要望（青森県）				
10月 要望（岩手県）	・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について				
・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について	平成25	2013	1月 支部外研修会（久慈支部）		
11月 第2回 被災者招聘事業	・岩手県盛岡市				
・東日本大震災で特に被害の大きかった沿岸被災市町村の住民が対象	4月 北東北3県によるドクターヘリの広域連携運航の試行開始				
・第2回は、八戸市の住民3名、おいらせ町の住民14名を鹿角市及び小坂町に招聘し、施設見学等を実施	5月 担当課長会議				
11月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同）	6月 平成25年度 役員会、総会				
・岩手県花巻市、葛巻町	・北東北3県ドクターヘリの広域連携運航に係る運用の柔軟化について（久慈市、二戸市、鹿角市の共同提案）				
11月 第3回 被災者招聘事業	9月 要望（秋田県）				
・東日本大震災で特に被害の大きかった沿岸被災市町村の住民が対象	・北東北3県ドクターヘリの広域連携運航に係る運用の柔軟化について				
・第3回は、久慈市の住民10名、洋野町の住民2名を三沢市、七戸町及び五戸町に招聘し、施設見学等を実施	9月 要望（岩手県）				
平成24	2012	1月 秋田県ドクターヘリ運航開始	10月 要望（青森県）		
1月 緊急書面議決（久慈市、二戸市共同提案）	・北東北3県ドクターヘリの広域連携運航に係る運用の柔軟化について				
・青森県ドクターヘリの岩手県北地域への県境を越えた運航の早期実現に係る緊急要望の実施について	10月 要望（秋田県）				
2月 支部会議（二戸支部）	・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について				
2月 支部外研修会（二戸支部）	10月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同）				
・青森県八戸市	・青森県東通村、六ヶ所村				
2月 八戸市立市民病院 副院長 今 明秀氏講演会	11月 要望（青森県）				
「ドクターヘリ講演会」（久慈市、二戸市において各1回）	・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について				
5月 岩手県ドクターヘリ運航開始	11月 要望（岩手県）				
5月 担当課長会議	・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について				
6月 平成24年度 役員会、総会	11月 支部外研修会（二戸支部）				
7月 要望（岩手県）	・岩手県平泉町				
	平成26	2014	5月 担当課長会議		
			6月 平成26年度 役員会、総会		
			10月 北東北3県によるドクターヘリの広		

## 20. 平成26年10月 ～ 平成30年6月

年	西暦	活動	年	西暦	活動
平成26	2014	10月 域連携運航の本格開始（マニュアル改正による。ただし、自県ヘリ優先） 要望（秋田県） ・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について	平成29	2017	1月 要望（青森県） ・北東北3県ドクターヘリの広域連携運航に係る運用の柔軟化について
		10月 要望（岩手県） ・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について			2月 要望（岩手県） ・北東北3県ドクターヘリの広域連携運航に係る運用の柔軟化について
		10月 要望（秋田県） ・北東北3県ドクターヘリの広域連携運航に係る運用の柔軟化について			2月 要望（秋田県） ・北東北3県ドクターヘリの広域連携運航に係る運用の柔軟化について
		11月 要望（岩手県） ・北東北3県ドクターヘリの広域連携運航に係る運用の柔軟化について			2月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同） ・岩手県久慈市、洋野町
		11月 要望（青森県） ・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について			3月 支部会議（二戸支部）
		11月 要望（秋田県） ・北東北3県ドクターヘリの広域連携運航に係る運用の柔軟化について			3月 支部外研修会（二戸支部） ・青森県八戸市
		11月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同） ・岩手県紫波町			5月 担当課長会議
		2月 支部内研修会（久慈支部）			6月 平成29年度 役員会、総会
		3月 支部外研修会（二戸支部） ・青森県十和田市			9月 支部内研修会（久慈支部）
		5月 担当課長会議			10月 要望（秋田県） ・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について
		7月 平成27年度 役員会、総会			10月 要望（岩手県） ・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について
10月 要望（秋田県） ・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について	10月 要望（青森県） ・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について				
平成27	2015	10月 要望（岩手県） ・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について	平成30	2018	10月 要望（秋田県） ・北東北3県ドクターヘリの広域連携運航に係る運用の柔軟化について
		10月 要望（秋田県） ・北東北3県ドクターヘリの広域連携運航に係る運用の柔軟化について			2月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同） ・岩手県岩泉町
		10月 要望（秋田県） ・北東北3県ドクターヘリの広域連携運航に係る運用の柔軟化について			2月 要望（岩手県） ・北東北3県ドクターヘリの広域連携運航に係る運用の柔軟化について
		10月 要望（青森県） ・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について			3月 北奥羽開発促進協議会 設立50周年 到来
		11月 要望（青森県） ・北東北3県ドクターヘリの広域連携運航に係る運用の柔軟化について			3月 支部会議（二戸支部）
		11月 要望（岩手県） ・北東北3県ドクターヘリの広域連携運航に係る運用の柔軟化について			3月 支部外研修会（二戸支部） ・青森県八戸市
		2月 支部外研修会（八戸・三戸支部合同） ・岩手県盛岡市、葛巻町			5月 担当課長会議
		3月 支部会議（二戸支部）			6月 平成30年度 役員会、総会
		3月 支部外研修会（二戸支部） ・北海道北斗市、函館市、木古内町			6月 島根県立中央病院 救命救急科部長 新納 教男氏 講演会 （北奥羽開発促進協議会 設立50周年記念講演会） 「県境を越えた運航、島根県ドクターヘリ」
		5月 担当課長会議			6月 北奥羽開発促進協議会 50年の歩み（本誌） 発刊
		6月 平成28年度 役員会、総会			
10月 要望（秋田県） ・北奥羽地域内（秋田県分）の基盤整備事業の促進について					
10月 要望（岩手県） ・北奥羽地域内（岩手県分）の基盤整備事業の促進について					
11月 要望（青森県） ・北奥羽地域内（青森県分）の基盤整備事業の促進について					
平成28	2016				

## 協議会規約等



## 北奥羽開発促進協議会規約

- 第1条 この会は、北奥羽開発促進協議会という。
- 第2条 この会は、岩手県北、秋田県北東及び青森県南地域における総合的な開発発展を図るとともに、関係市町村の行財政の合理的かつ効率的な運営を期することを目的とする。
- 第3条 この会は、前条の目的に賛同する当該地域内の別表に掲げる地方公共団体をもって組織する。
- 第4条 この会の事務所は、会長の属する団体の事務所内におく。
- 第5条 この会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行なう。
- (1) 北奥羽圏の地域開発及び諸振興計画の実施促進に関すること。
  - (2) 産業及び生活基盤整備促進のための請願、陳情等の運動に関すること。
  - (3) 行財政効率の向上のため広域行政に関する調査、促進に関すること。
  - (4) その他必要な事項
- 第6条 この会に、次の役員をおく。
- (1) 会長 1 人
  - (2) 副会長 若干人
  - (3) 理事 若干人
  - (4) 監事 2 人
- 第7条 会長は、この会を代表し、会務を総理する。
- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を執行する。
  - 3 理事は、会務を執行する。
  - 4 監事は、この会の会計を監査する。
- 第8条 役員は、総会において会員の中から選出する。
- 2 役員は、任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
  - 3 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
- 第9条 この会に、顧問、相談役、評議員及び参与をおく。
- 2 顧問には、国会議員、知事、県議会議員を、相談役には、県企画担当部長、県議会議員及び学識経験者を、評議員には、市町村議会議員を、参与には、公共団体及びそれに準ずる団体の出先機関の長を役員会の同意を得て会長が委嘱する。
- 第10条 この会に部会をおく。
- 2 部会は、総合調整部会、産業開発部会、運輸交通部会、水資源開発部会、観光開発部会の5部会とする。
  - 3 総合調整部会には、全会員を、他の部会には、当該部会を希望する会員をもってこれにあてる。
  - 4 部会には、部会長をおく。部会長は互選とし、その任期は2年で再任を妨げない。補欠による任期は、前任者の残任期間とする。
- 第11条 この会に事務局をおく。事務局規程は別に定める。

第12条 総会は、毎年会長が招集し、次の事項を議決する。

- (1) 規約の制定及び改廃
- (2) 事業計画
- (3) 予算及び決算
- (4) 役員を選出
- (5) その他重要な事項

第13条 役員会は、必要のつど会長が招集する。

2 役員会は、次の事項を審議する。

- (1) 総会に附議する事項
- (2) 総会の委任に基づく事項
- (3) 部会から提案された事項
- (4) その他会長が必要と認める事項

第14条 部会は、必要のつど部会長が招集する。

2 部会は、次の事項を審議する。

- (1) 部会内の組織運営に関する事項
- (2) 部会内の事業に関する基礎調査及び研究に関する事項
- (3) 役員会に附議すべき事項
- (4) その他部会長が必要と認める事項

第15条 この会に要する経費は、加入市町村の負担とする。

2 前項の規程により各市町村が負担すべき額は、毎年度の予算でこれを定める。

第16条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

附 則 この規約は、昭和43年3月4日から施行する。

附 則 この規約は、昭和47年8月7日から施行する。

附 則 この規約は、昭和49年7月10日から施行する。

附 則 この規約は、昭和51年6月1日から施行する。

附 則 この規約は、昭和54年6月8日から施行する。

附 則 この規約は、昭和62年6月5日から施行する。

附 則 この規約は、平成16年7月1日から施行する。

附 則 この規約は、平成17年7月12日から施行する。

附 則 この規約は、平成18年6月28日から施行する。

附 則 この規約は、平成20年6月30日から施行する。

別表（第3条関係）

県名	市町村名
岩手県	久慈市 二戸市 葛巻町 軽米町 洋野町 一戸町 普代村 野田村 九戸村 (2市4町3村)
秋田県	鹿角市 小坂町 (1市1町)
青森県	八戸市 十和田市 三沢市 七戸町 おいらせ町 六戸町 東北町 三戸町 五戸町 田子町 南部町 階上町 新郷村 (3市9町1村)
計	6市14町4村 (24市町村)

## 北奥羽開発促進協議会事務局規程

第1条 この規程は、北奥羽開発促進協議会規約のうち事務局に関する必要な事項を定め、円滑な会の運営をはかることを目的とする。

第2条 事務局に局長、次長及びその他の職員をおき、会長が委嘱する。

2 職員は、上司の命を受けて事務に従事する。

第3条 事務局には、加入団体との連絡を円滑にするため支部をおく。

2 支部及び支部を構成する市町村は、次のとおりとする。

(1) 久慈支部（久慈市、洋野町、普代村、野田村）

(2) 二戸支部（二戸市、葛巻町、軽米町、一戸町、九戸村）

(3) 鹿角支部（鹿角市、小坂町）

(4) 八戸支部（八戸市、おいらせ町、五戸町、階上町）

(5) 十和田支部（十和田市、三沢市、七戸町、六戸町、東北町）

(6) 三戸支部（三戸町、田子町、南部町、新郷村）

3 支部を構成する市町村の担当職員は企画担当課長とする。

4 支部には、支部長をおく。支部長は互選とし、その任期は2年とする。補欠による支部長の任期は、前任者の残任期間とする。

5 支部会は、必要の都度支部長が招集する。

附 則 この規程は、昭和49年7月10日から施行する。

附 則 この規程は、昭和51年6月1日から施行する。

附 則 この規程は、昭和54年6月8日から施行する。

附 則 この規程は、昭和62年6月5日から施行する。

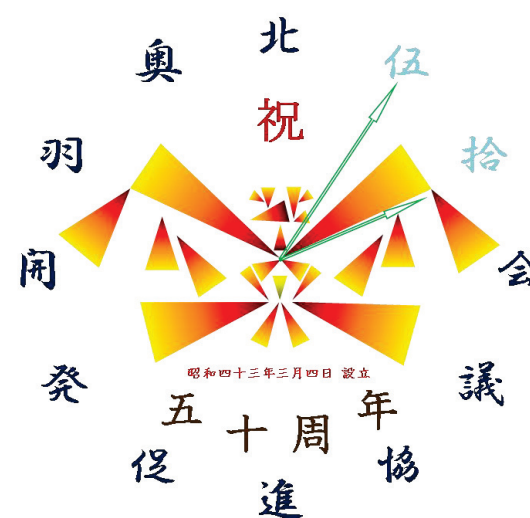
附 則 この規程は、平成16年7月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成17年7月12日から施行する。

附 則 この規程は、平成18年6月28日から施行する。

附 則 この規程は、平成21年6月30日から施行する。

### ロゴマークについて



### 祝 50 周年『不死鳥の如く』

- ① 北東北3県(岩手県・秋田県・青森県)を現わす三角形を、構成自治体の数(24個)用いて、「北奥羽」の文字を構成。「50年」という「時間」から着想を得た「不死鳥(火の鳥)」をモチーフに配した。
- ② 同様に、時間を表現するため「北奥羽開発促進協議会」と「伍拾(五十)」の計12文字を、時計の文字盤に見立てて配した。
- ③ 北奥羽地域へ時に恩恵を与え、時に牙を剥いてきた自然への畏敬の念を込め、火・空気・水・土をイメージした色(赤や橙色・青・水色・茶色)に、生命をイメージした緑を加えた配色とした。